

二十一年史

東京ライオンズクラブ

二十年史

追水之書

1952—1972

The International Association OF Lions Clubs CHARTER

To All to Whom These Presents Shall Come:
GREETING

Row Ye that The International Association of Lions Clubs has granted, and by these presents does grant to the Members, whose names are hereunto affixed, and to all regularly elected members and their successors, this Charter fully constituting them a Local Club, under the name and title of

THE LIONS CLUB OF
Tokyo

located at Tokyo, Japan, with all the rights and privileges given to members of The International Association of Lions Clubs, according to the rules and regulations of the constitution and by-laws of the International Association now in force, after and after enacted.

This Charter shall be in full force and effect from the day of the date hereof, and for such time as the Members of this Local Club shall conform to the laws and rules of the International Association. Otherwise this Charter shall be revoked.

In Witness Whereof The International Association of Lions Clubs has authorized its President and Director-General to affix their signatures, and caused the seal of the Association to be hereunto affixed this 15th day of March in the year of our Lord 1952.

R. Roy Stanton
President

Charter Members



SADAKATSU AZE	JOSE B. BOLANO	HAROLD N. BORGER	RAYMOND L. BEDILLION
VICENTE O. COBARRUBIAS	ANSELMO CHUH	PETE J. DEMETROS	FRANCISCO C. DA ROSA
KAJI DOMOTO	JAMES FARREL	JOSEPH M. FERRIS	TARO FUKUDA
MASASHIGE FURUKAWA	TSUTAE FUJISAWA	ALBERT HATEM	KENJI HIROBE
TSUNEJI HIBINO	NIRO HOSHIMURA	SOL HAAR	MASAKATSU HAMAMOTO
YUKIO IDOH	ENRIQUE Y. IMAMURA	IKUSABURO IJIN	SHINSUKE ISHIZEKI
KIN-ICHI ISHIKAWA	HIROSHI ISHIDA	YOSHIO ISHIDA	KAN KONDO
GEORGE KRAKOWER	KISAKU MATSUSHIMA	GEORGE B. MORGULIS	SUMIO MAKINO
JIRO NANYE	TOHEI NORITAKE	RINNOSUK NAKANE	HISAYUKI OHARA
SEITARO OKAMATSU	WARREN F. PROVOST	JOSEPH O. RECHTER	LOPE SARREAL
ALEXANDER E. SHVETZ	JOSEPH S. SYKES	IKE SZPIRO	MASAO SAKURABA
TAMOTSU SHIOBARA	NORIO SAIGO	KAZUTAKA SHIMIZU	SHUJI TATEGAMI
SOICHI TSUSUE	KEIJI TSUSUE	HIROYUKI TANAKA	TAKASHI TANABE
RYONOSUKE TOYOKAWA	MAKOTO TOMONARI	JACOB TROPP	SEISABURO YAMANAKA

日本ライオンズ創設記念碑



WITHIN THESE PREMISES WAS HELD ON
MARCH 21ST 1952, THE CHARTER NIGHT
OF THE FIRST LIONS CLUB IN JAPAN,
OFFICIATED BY THE THEN INTERNATIONAL
FIRST VICE-PRESIDENT EDGAR M. ELBERT
AND SPONSORED BY THE MANILA LIONS CLUB

ERECTED BY THE TOKYO LIONS CLUB ON JULY 3, 1969
ON THE OCCASION OF THE 52ND LIONS INTERNATIONAL
CONVENTION



東京ライオンズクラブ二十年史目次

チャーター	3
日本ライオンズ創設記念碑	4
クラブ・パナー	5
東京クラブ20周年を祝す	迫水久常 7
20年の記録	9
「開眼」——リッチランド基金	守随乙作 50
すずらん給食の藪川をたずねて	藤沢良雄 51
歴代会長（幹事）回顧	53
物故会員追憶	71
会員名簿	78
国際役員・大会一覧	80
子クラブ一覧	81
物故会員・退会者	82
例会音楽の発端	阪田一夫 84
ユニークな例会のナマ音楽	朝吹英一 85
事務局変遷の経過	87
編集後記	88

東京クラブ20周年を祝す

国際理事 迫 水 久 常

東京クラブが20周年を迎えるということは、すなわちライオンズクラブが日本に渡来してから20年になるということである。20年前、56人のチャーター・メンバーによって東京クラブは結成されたのであるが、これがやがて子を生み、孫を生み、曾孫を生み、いまや全国に1,614のクラブ、会員86,185人という世界第2のライオンズ国に成長したのである。このチャーター・メンバーも、現在なおライオンズとして現存しておられるのは8人にすぎないということを聞くと、うたた浮世の変遷を痛感せざるを得ないが、この機会に改めてこのチャーター・メンバーに心から敬意を表する次第である。

私は故田中次郎左衛門さんのご紹介によって、昭和33年2月入会させていただいたのであるが、このスポンサーたる田中さんはいまは幽冥境を異にしている。うたた感慨にたえないものがある。私は幸いにしてその後クラブのお引き立てにより、会長、DG、ガバナーとまがりなりにお役を果たさせていただき今日国際理事としての重責を汚しているのであるがいつも東京クラブのメンバーであることを大きな誇りとしているものである。

国際理事として諸外国のライオンズと接触して常に痛感することは、日本のライオンズが世界のライオンズから大きな尊敬をあつめているということである。そのひとつの原因は、去る1969年の東京における世界大会の大成功にあると思われるが、要するにすべての日本ライオンズのマナーなりビヘイビアーがよいから

である。私はいつもこの日本ライオンズに対する国際的な尊敬を背景として、臆することなく国際理事の任務に精進しているものであって、まったくありがたいことだと思う。

東京クラブは名実ともに日本で一番シニアなクラブである。東京クラブはいわば日本のライオンズクラブの象徴としての地位を自覚しなければならない。この20年間東京クラブはたしかにその役目を果たしてきたと思う。それは歴代の会長はじめ役員および全会員が常に体制内の革新ということを怠らなかつたためであって、深い敬意を表するものである。体制内の革新を怠る団体は必ず内部崩壊する。東京クラブが今後も日に新たにまた日々に新たな立場を堅持せられんことを心から望むものである。

ライオンズクラブの歴史始まって以来50余年、発祥地米国においては、ライオンズクラブのあり方についていささか考えなおさなければならないという気配がうかがわれる。日本のライオンズクラブが米国と同じ悩みに直面することも決して遠いことではないような気がする。なんとなれば、一般生活の物質化のテンポは日本の方がずっと米国より早いからである。東京クラブはこの意味においてもよく日本のライオンズクラブの先達たる任務を完遂していただきたいと思う。

創立20周年、ほんとうにおめでとう。ただひたすらこれからさきの繁栄を祈るものである。

20 年 の 記 録

初年度 1952年3月～1953年6月



(役 員) 1952年3月～1952年6月

会 長	石 川 欣 一	ライオンテーマー	A. Hatem
第一副会長	津 末 宗 一	テールツイスター	立 上 秀 二
第二副会長	H. N. Borger	二 年 理 事	岡松 成太郎
第三副会長	石 田 博	二 年 理 事	A. Shvetz
幹 事	塩 原 有	一 年 理 事	山 中 清三郎
監 事	出 辺 隆	一 年 理 事	G. Krakower

(委 員 長)

チャーター
ーナイト 委員長 石 田 博

(役 員) 1952年7月～1953年6月

会 長	石 川 欣 一	テールツイスター	豊 川 良之助
第一副会長	津 末 宗 一	"	立 上 秀 二
第二副会長	H. N. Borger	理 事	立 上 秀 二
第三副会長	今 村 栄 吉	理 事	A. Shvetz
幹 事	塩 原 有	理 事	G. Krakower
会 計	田 辺 隆	理 事	桜 庭 政 雄
ライオンテーマー	A. Hatem		

(委 員 長)

出席委員長	豊 川 良之助	プログラム委員長	F. C. Da Rosa
財務委員長	日比野 恒 次	"	福 田 太 郎
会員委員長	大 原 久 之	会 則 委 員 長	石 田 吉 男
少年少女委員長	古 川 正 重	情 報 委 員 長	桜 庭 政 雄
宣伝出版委員長	中 根 麟之助		

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (水) 12:30 例会場：東京商工会議所及び日活ホテル

3月21日	チャーターナイト	ホテルデイト	7月23日	メンバースピーチ	田 辺 隆 L
4月 9日	役員決定		8月27日	ゲストスピーカー	米国大使 マーフィ氏
5月14日	ゲストスピーカー	国警々備副部長村井氏	9月10日	ゲストスピーカー	自由アジア協会代表 ノーエル・F・ブッシュ氏
5月24日	メンバースピーチ	式場隆三郎 L	9月24日	ゲストスピーカー	映画監督 ジョセフ フォン・スタンバーグ氏
6月25日	ゲストスピーカー	マニラ LC Larry R. Moran	10月 8日	ゲストスピーカー	ケネス安田氏

10月22日 ゲストスピーカー 村田省蔵氏
 11月12日 メンバースピーチ 式場隆三郎 L
 11月26日 ゲストスピーカー 国警 斉藤氏
 12月10日 メンバースピーチ 鈴木佐内 L
 演題「東京都における青少年の補導問題」
 12月17日 忘年親睦会 雅叙園観光ホテル
 2月11日 ゲストスピーカー 中村屋 相馬氏
 演題「盲導犬の話」

3月11日 ゲストスピーカー サン写真新聞社 阿部氏「ヨーロッパフィルム映写」
 5月27日 次期役員指名会
 6月10日 メンバースピーチ 石川欣一 L
 演題「芸術院賞受賞にあたって」
 6月24日 ゲストスピーカー 通産省企業局長 中野哲夫氏
 演題「貿易の見通しについて」

アクティビティ

10月 赤い羽根運動へ寄付

10,000円



チャーター伝達 バレネンゴア国際代表 塩原幹事 エルバート国際第一副会長
 ゴンザレスマニラC代表 石川会長 石田CN委員長



ゲストのマーフィアメリカ大使を囲んで

2年度 1953年7月～1954年6月



(役 員)

会 長 大 原 久 之
前 会 長 石 川 欣 一
第 一 副 会 長 西 郷 徳 男
第 二 副 会 長 式 場 隆 三 郎
第 三 副 会 長 福 田 太 郎
幹 事 豊 川 良 之 助
会 計 井 門 幸 男

ライオンテーマー 塩 原 有
テールツイスター 立 上 秀 二
理 事 古 川 正 重
理 事 田 辺 隆
理 事 石 関 信 助
理 事 高 橋 貞 太 郎

(委員長)

出 席 委 員 長 豊 川 良 之 助
財 務 委 員 長 広 部 賢 二
会 員 委 員 長 岡 村 武
プ ロ グ ラ ム 委 員 長 福 田 太 郎

会 則 委 員 長 野 間 海 造
情 報 委 員 長 古 川 正 重
少 年 少 女 委 員 長 古 川 正 重
教 育 委 員 長 星 島 二 郎

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (水) 12:30 例会場：日活ホテル

- | | | | |
|--------|--|---|---|
| 7月29日 | ゲストスピーカー 東京タイムス社長
岡村二氏
演題「話術について」 | 演題「ヨーロッパの政治動向について」
ゲストスピーカー パスカル・A・パブレ
テ氏 | |
| 8月7日 | フィリピン ガバナー マリアノ・デル・
ロザリオ氏歓迎会 | 演題「フィリピン ライオンズの発展につ
いて」 | |
| 8月26日 | メンバースピーチ 小林辰四郎 L
演題「欧米を巡って」 | 2月24日 | ゲストスピーカー 古川緑郎氏
演題「銀座八丁裏表」 |
| 9月23日 | メンバースピーチ 立上秀二 L
演題「フィリピンの現状と日比親善につ
いて」 | 3月10日 | メンバースピーチ 永野 護 L
演題「フィリピンより帰って」 |
| 10月14日 | メンバースピーチ 大原久之 L
演題「フィリピンの現状と日比親善につ
いて」 | 3月24日 | ゲストスピーカー 元通産省企業局長
中野哲夫氏 |
| 10月28日 | ゲストスピーカー 指揮者 ジャン・マル
チノン氏 (フランス LC 会員) | 4月10日 | 国際第一副会長 Monroe L. Nute ご夫妻
歓迎会 日活ホテル |
| 11月11日 | ゲストスピーカー 石川島 田口連三氏
演題「台湾の話」 | 4月28日 | ゲストスピーカー 日本癌研究所放射線科
長 塚本憲甫博士
演題「水爆による放射能症について」 |
| 11月18日 | ゲストスピーカー B. Layden (Calgary,
Canada) カナダの映画上映 | 5月12日 | Convention Song Leader, W. Spencer
比国賠償調査団 オルテガス・ロレンゾ氏 |
| 12月9日 | メンバースピーチ 星島二郎 L
演題「最近の欧米事情」 | 5月26日 | ゲストスピーカー 日本テレビ 福井近夫
氏
演題「テレビについて」 |
| 12月17日 | クリスマス家族会 紙パルプ会館 | 6月9日 | ゲストスピーカー 日赤子供の家 松田
修氏
演題「孤児、混血児の問題」 |
| 1月13日 | メンバースピーチ 福田太郎 L
演題「欧米各国のライオンズクラブの発展
について」 | 6月23日 | マニラ LC 会長 マリアノ・デル・ロザリ
オ氏歓迎会 合気道見学 |
| 1月27日 | ゲストスピーカー 毎日新聞社政治部次長
中 正雄氏 | | |
| 2月10日 | ゲストスピーカー 朝日新聞社 参与
浜田恒次郎氏 | | |

アクティビティ

7月 九州水害見舞金として寄付

20,000円



フィリピン賠償使節団の訪問



フィリピン戦争未亡人招待

3年度 1954年7月～1955年6月



(役 員)

会 長 高 橋 貞太郎
前 会 長 大 原 久 之
第一 副 会 長 永 野 護
第二 副 会 長 小 林 辰四郎
第三 副 会 長 日比野 恒 次
幹 事 福 田 太 郎
会 計 岡 村 武

ライオンテーマー 広 部 賢 二
テールツイスター 石 川 欣 一
理 事 古 川 正 重
理 事 浜 本 正 勝
理 事 二 宮 新
理 事 田 口 連 三

(委 員 長)

出席委員長 古 川 正 重
財務委員長 大 原 久 之
会員委員長 小 林 辰四郎
プログラム委員長 桜 庭 政 雄
会 則 委 員 長 野 間 海 造
情 報 委 員 長 石 関 信 助
少年少女委員長 古 川 正 重
国 際 委 員 長 浜 本 正 勝

事業委員長 日比野 恒 次
教育委員長 ケネス 安 田
厚生委員長 塚 本 憲 甫
安全委員長 福 田 太 郎
都政改善委員長 永 野 護
放送委員長 石 川 欣 一
会 報 委 員 長 式 場 隆 三 郎

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (水) 12: 30 例会場：日活ホテル及びホテル国際観光(1954年10月より)

7月14日 ゲストスピーカー 全日本観光連盟事務局
長 武部英治氏
演題「日本の観光事業について」
7月28日 ゲストスピーカー 芸大教授 颯田琴次氏
8月11日 ゲストスピーカー 日本炭鉱業連盟専務理
事 早川勝氏
演題「石炭鉱業と労働問題」
8月25日 メンバースピーチ
9月 8日 ゲストスピーカー 駐日フィリピン ミッ
ション首席 ホセ・F・イムペリアル公使
演題「ジュネーブ会議より帰って」
9月22日 メンバースピーチ 福田太郎 L
10月13日 ゲストスピーカー 藤原岩市氏
演題「最近のインド政情について」
10月27日 メンバースピーチ
11月10日 家族会 専売公社煙草工場見学
11月24日 メンバースピーチ 田口連三 L

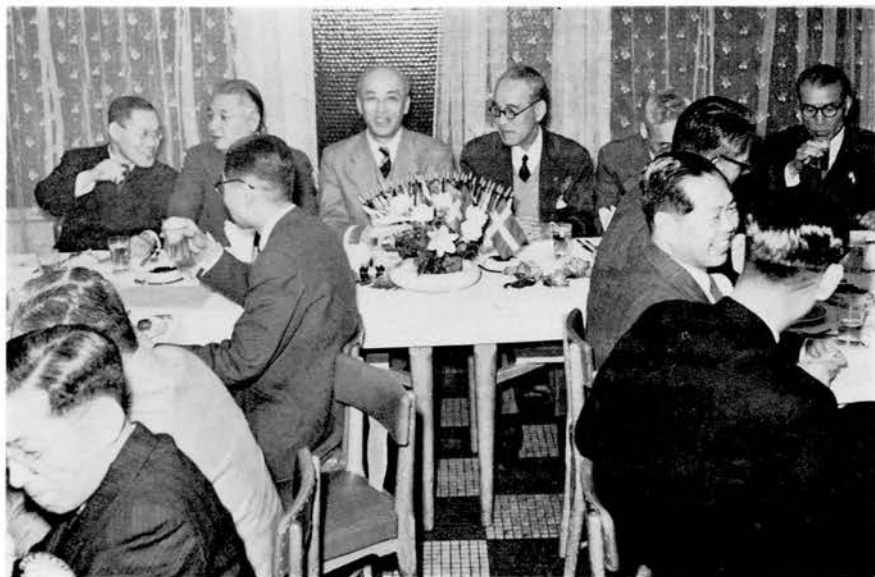
12月 8日 メンバースピーチ 塚本憲甫 L
12月15日 忘年会
1月12日 新年会
1月26日 メンバースピーチ 山岡保之助 L
2月 9日 映画上映「就職促進運動」
2月23日 メンバースピーチ 牛山清人 L
3月 9日 メンバースピーチ 小野四郎 L
3月23日 チャーターナイト3周年記念
4月13日 ゲストスピーカー 警視庁第一課長 鈴木
実氏
演題「交通事故と取り締まり」
4月27日 カウンセラー石川 L 送別会 銀座ライオン
5月11日 メンバースピーチ 中沢彦七 L
演題「お酒の半世紀ダイジェスト」
5月19日 J.L.STICKLEY 国際第一副会長歓迎会

アクティビティ

12月	赤十字子供の家へ寄付	10,000円		10,000円
	板橋養老院へ寄付	10,000円	4月	ミンダナオ地震見舞として衣料 200 点送付
	落穂寮・精薄児作品展へ寄付	10,000円		(全国10C 合同 30万円)
3月	フィリピン戦争未亡人日本招待へ寄付			50,000円



ミンダナオ島震災慰問打ち合わせ



カウンセラー石川L送別会

4年度 1955年7月～1956年6月



(役 員)

会 長 小 林 辰四郎
前 会 長 高 橋 貞太郎
第一副会長 永 野 護
第二副会長 西 郷 徳 男
第三副会長 小 野 哲
幹 事 樋 口 杲
会 計 岡 村 武

ライオンテーマー 古 川 正 重
テールツイスター 桜 庭 政 雄
理 事 浜 本 正 勝
理 事 福 田 太 郎
理 事 古 川 義 三
理 事 齊 見 昌 平

(委 員 長)

出席委員長 塩 原 有
財務委員長 津久井 七 雄
会員委員長 高 橋 貞太郎
プログラム委員長 守 随 乙 作
会 則 委 員 長 野 間 海 造

情報委員長 福 田 英 雄
少年少女委員長 福 岡 勇
厚生委員長 式 場 隆三郎
安全委員長 鈴 木 檣 一

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (水) 12:30

例会場：ホテル国際観光

7月13日 メンバースピーチ 樋口 杲L
演題「地下工事で拾った江戸の話」
7月20日 「笑いと言ボとクイズの集い」 日比谷
公会堂
8月10日 メンバースピーチ 比日野恒次L
8月24日 メンバースピーチ NHK総務局長 池田
幸雄L
9月14日 ゲストスピーカー 朝日新聞論説委員
土屋 清氏
演題「最近の政治経済事情について」
9月28日 ゲストスピーカー 木村伊兵衛氏
演題「世界写真愛好者大会より帰って」
11月 9日 ゲストスピーカー 電源開発(株)企画部長
石田芳穂氏
12月20日 クリスマス・パーティー
1月11日 ゲストスピーカー 芸術院会員 中村研一
氏
2月10日 H.VALENZUELA 国際会長歓迎会
2月22日 メンバースピーチ 癌研究会附属病院
塚本憲甫L

演題「癌について」
3月14日 ゲストスピーカー 学習院院長 安部能成
氏
3月28日 ゲストスピーカー 水野義人氏
演題「親相談話」
4月11日 ゲストスピーカー 東京医科歯科大学教授
医博 古畑種基氏
演題「長寿の話」
4月25日 ゲストスピーカー 同和鋳業(株) 久留島
秀三郎氏
演題「ボーイスカウトの話」
5月 9日 メンバースピーチ 式場隆三郎L
演題「ノイローゼについて」
5月23日 ゲストスピーカー 経済評論家 前田梅松氏
演題「これからの日本経済」
6月13日 ゲストスピーカー 日本専売公社 中央研
究所塩研究所長 東大教授 杉 二郎氏
演題「塩について」
6月27日 ゲストスピーカー 時局解説者安西義美氏
(6月23日 ビール工場見学 日本ビール目黒工場)

アクティビティ

7月 少年少女委員会 7月20日に催した「笑いと言
ンボの集い」による収益にて次の寄付をした

小山学園、誠明学園へテレビ2台寄付

149,000円

教育庁青少年教育課を通じ巡回用図書と日比谷
図書館ライオンズ文庫として子供向けの本を寄
贈 50,860円

1月 少年少女委員会 光明学園（梅ヶ丘）へ21イン

テレビ道具一式を寄贈し、肢体不自由の子供
達が2カ月かかって組み立てを完成し3月に贈
呈式を行なった 62,000円



梅ヶ丘光明学園へ組み立てテレビ寄贈



笑いとマンボの会

5年度 1956年7月～1957年6月



(役 員)

会 長 永 野 護
前 会 長 小 林 辰四郎
第一 副 会 長 浜 本 正 勝
第二 副 会 長 福 岡 陽 道
第三 副 会 長 小 野 哲
幹 事 守 随 乙 作
会 計 加 藤 栄 治

ライオンテーマー 奥 山 清 平
テールツイスター 鈴 木 檣 一
理 事 樋 口 杲
理 事 福 田 英 雄
理 事 式 場 隆 三 郎
理 事 森 卯 一 郎

(委 員 長)

出席 委 員 長 井 上 宗 太
財 務 委 員 長 広 部 賢 二
会 員 委 員 長 小 林 辰四郎
プ ロ グ ラ ム 委 員 長 齊 見 昌 平
会 則 委 員 長 小 川 雅 弘
情 報 委 員 長 高 橋 武 雄
視 力 保 護 盲 人 委 員 長 本 間 利 章
少 年 少 女 委 員 長 酒 井 忠 博

国 際 委 員 長 勝 野 基 信
広 報 委 員 長 福 田 英 雄
教 育 委 員 長 竜 村 晋
厚 生 委 員 長 古 川 正 重
安 全 委 員 長 山 川 隆 雄
都 政 改 善 委 員 長 永 井 賢 城
放 送 委 員 長 石 川 欣 一
会 報 委 員 長 守 随 乙 作

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (水) 12:30

例会場：ホテル国際観光

7月11日 メンバースピーチ 会長 永野 護 L
ガバナー 高橋貞太郎 L
7月25日 東京医科大学学長医学博士 清水茂松氏
演題「日本の子供の発育について」
8月 8日 ゲストスピーカー 共同通信社外信局長
寺西五郎氏
演題「スエズ、ハンガリー等の問題を中心
とした最近のヨーロッパの事情」
8月22日 ゲストスピーカー NHK 江口高男氏
演題「効果について」
8月24日 納涼家族会 江ノ島
9月12日 ゲストスピーカー 共同通信社編集局次長
企画委員 岩永信吉氏
演題「ニュースの起源について」
9月26日 ゲストスピーカー 慈恵医大教授 大橋孝
平氏
演題「眼の中老人医学について」
10月10日 ゲストスピーカー 特許庁長官 井上尚一
氏
演題「発明を通しての発明」
10月25日 婦人の夕 椿山荘

11月14日 メンバー懇談会
11月28日 ゲストスピーカー 毎日新聞社写真部員
依田孝喜氏
演題「マナスルに立つ」
12月12日 メンバースピーチ Tom T 沖野 L
12月20日 クリスマス・パーティー
1月 9日 ゲストスピーカー 日本体育協会評議員・
日本オリンピック委員 北沢清氏
演題「オリンピックと豪洲」
1月23日 ゲストスピーカー 三菱銀行取締役審査部
長 町田一郎氏
演題「本年の経済及び金融の動 勢 について」
2月13日 メンバースピーチ 小林辰四郎 L
演題「新しい宣伝と古い宣伝」
2月27日 メンバースピーチ 新橋 LC 会長 奥山清
平 L
演題「英語の漫談」
3月 4日 国際第一副会長 E.G.Barry 夫妻歓迎会
3月13日 メンバースピーチ 遠洲流家元 小堀宗慶
L

演題「茶の湯について」
 3月27日 5周年記念例会
 4月10日 メンバースピーチ 大映常務取締役
 叶善次郎氏
 演題「映画について」
 4月24日 フリートークキング
 5月 8日 ゲストスピーカー 皇居外苑保存協会
 木下道雄氏

演題「皇居外苑について」
 (5月10日 第3回地区大会 帝国ホテル)
 5月22日 警察庁科学捜査研究所長 小野裕氏
 演題「最近の科学捜査」
 6月12日 ゲストスピーカー 賀屋興宣氏
 6月26日 ゲストスピーカー 東大教授医学博士
 切替一郎氏

アクティビティ

9月 少年少女委員会 石神井学園と小山児童学園の
 子供100人を六大学野球見物に招待した(お弁
 当、バス代等) 17,630円
 各家庭の古本(子供向け)を集めて上記の施設
 へ贈った 250冊
 安全委員会 交通協会へ手旗寄付 778本
 50,000円
 10月 少年少女委員会 金町愛育園の子供50人を伊藤
 道郎舞踊公演会に招待 11,000円
 市川仁也青年の眼の手術費として 40,000円
 (リッチランドからも5万円送られたので、リ
 ッチランド基金として眼の悪い人の為に使う基
 金設立 青森C結成のきっかけともなった)
 衛生厚生委員会 都立養育院へ老眼鏡寄贈
 22,550円
 12月 ハンガリー救援金(日本地区合同) 18,400円
 北海道冷害見舞金(日本地区合同) 30,000円

北海道冷害救助米 160,000円
 1月 少年少女委員会 新年贈物として小山児童学園
 へプランコ寄付 18,400円
 3月 養護施設児童慰安大会へお菓子1,400人分
 42,000円
 上記放送費(文化放送) 50,000円
 少年少女委員会 NTV「この人を」へ寄付
 (20回分) 20,000円
 4月 滋賀県精薄児育成センター設立費 30,000円
 5月 少年少女委員会 子供の日に豊島区母子寮子供
 慰安会が豊島公会堂で開かれ1,500人の子供へ
 お菓子を贈った(都内4C合同45,000円)
 20,000円
 上記を文化放送より放送 50,000円
 第3回地区大会記念事業として東京都青少年音
 楽連盟へ楽器一式を贈った 40,000円



第3回年次大会と大会委員長三崎友一L

6年度 1957年7月～1958年6月



(役 員)

会 長	浜 本 正 勝	ライオンテーマー	石 関 信 助
前 会 長	永 野 護	テールツイスター	福 岡 勇
第一副会長	福 岡 陽 道	副 テーラー	熊 野 達 夫
第二副会長	小 野 哲	理 事	樋 口 杲
第三副会長	小 林 利 助	理 事	福 田 英 雄
幹 事	酒 井 忠 博	理 事	守 随 乙 作
副 幹 事	本 間 利 章	理 事	加 藤 栄 治
会 計	原 田 直 治		

(委 員 長)

出席委員長	光 野 健之助	事業委員長	秋 尾 栄
財務委員長	舟 橋 要	広報委員長	熊 野 達 夫
会員委員長	別 府 英 一	教育委員長	安 藤 陣 一
プログラム委員長	穴 沢 六 郎	厚生委員長	秋 尾 栄
会則委員長	角 田 義 雄	安全委員長	山 岡 保之助
少年少女委員長	原 春 吉	都政改善委員長	長谷部 照 正
国際委員長	酒 井 直 衛		

例会 記 録

例会日：第 2, 4 (水) 12:30

例会場：ホテル国際観光

7月10日	メンバースピーチ 守随乙作L 演題「各国ライオンズクラブ訪問報告」		演題「フィリピンをめぐる東南アジアの情勢」
7月24日	メンバースピーチ 剣持 勇L 演題「ビジネスと工業デザイン」	12月11日	ゲストスピーカー 東京都立大学教授 松平齊光氏 演題「お祭」
8月14日	東京湾一周納涼会 (4C 合同)	12月25日	クリスマス・パーティー (4C 合同) 白木屋
8月28日	ゲストスピーカー 日本銀行調査局長 織田貞信氏 演題「欧洲の経済事情」	1月 8日	ゲストスピーカー 外務大臣 藤山愛一郎氏 演題「外交問題」
9月11日	ゲストスピーカー 東京工業大学教授 崎川範行氏 演題「原子力発電について」	1月22日	新年会 常盤家
9月25日	ゲストスピーカー 共同通信社外信部長 岩立一郎氏 演題「最近の国際情勢について」	2月12日	ゲストスピーカー 東京工業大学助教授工 学博士 桶谷繁雄氏 演題「欧洲スクーター旅行」
10月11日	婦人の夕 (4C 合同) 椿山莊	2月27日	ゲストスピーカー 日本経済新聞社経済部 次長 武山泰雄氏 演題「アメリカ経済を中心とする最近の世界 経済情勢について」
10月23日	ゲストスピーカー 警視總監 川合寿人氏 演題「新しい警察について」	3月12日	ゲストスピーカー 労働大臣 石田博英氏 演題「当面の労働問題について」
11月13日	ゲストスピーカー 巨人軍監督 水原田裕 氏 演題「野球を語る」	3月24日	D.L.SIMMS 国際第一副会長歓迎会
11月27日	メンバースピーチ 永野 護L	4月 9日	ゲストスピーカー 女優 宮城千賀子氏

- 演題「芸能苦心ばなし」
 4月23日 ゲストスピーカー 慶応義塾大学教授
 奥野信太郎氏
 演題「文学を楽しむ」
 5月14日 ゲストスピーカー 日本点字図書館常務理
 事 本間一夫氏
 演題「盲人と点字図書について」

- 5月28日 ゲストスピーカー 警察庁警備局長
 山口喜雄氏
 演題「最近の共産党の動向について」
 6月11日 メンバースピーチ 古川正重L
 演題「形成美容外科に就て」
 6月25日 メンバースピーチ 各委員長
 (5月10日 バザーと映画の集い 千代田公会堂)

アクティビティ

- 7月 少年少女委員会 NTV「この人を」へ寄付
 (4C 合同5万円) 30,000円
 衛生厚生委員会 YWC A肢体不自由児海浜キ
 ャンプ寄付 (4C 合同4万円) 20,000円
 西九州水害見舞金 21,600円
 9月 少年少女委員会 養護施設贈物東星学園へ野球
 用具一式、福音寮へピンポン用具、生長の家神
 の国寮へ野球用具贈呈 (4C 合同 22,592円)
 11,296円
 衛生厚生委員会 養老院慰問 (都立村山分院)
 (4C 合同38,900円) 19,450円
 9月 Miss G.Harry, Tweed-Banana Festival Queen
 歓迎接待 (鍛冶田L他)
 10月 安全委員会 京橋交通安全展へ寄付 (4C 合同
 25,000円) 12,500円
 11月 安全委員会 「交通安全良い子の集い」へノー
 ト2,800冊寄付(4C 合同39,200円) 19,600円
 12月 点字リーダーズダイジェスト1カ年分購読料
 高槻温心寮へ 3,360円
 衛生厚生委員会 電気洗濯機9台贈呈 墨田母
 子寮、目黒母子寮、滝川母子寮、浅草母子寮、武
 蔵野母子寮、婦人一時保護所、戸山母子寮、本
 所ベタニヤ母子寮、婦人生活文化協会 (4C 合
 同10万円)
 少年少女委員会 養護施設へクリスマス贈物
 武蔵野会(マンドリン5)、二葉保育園(ピンポン
 用具)、松葉保育園(ピンポン用具)、六華園(ピ
 ンポン用具)、福田会(野球用具)、愛育園(オル
 ガン) (4C 合同88,990円)
 12月 朝日イブニングニュースを通じ年末寄付 (4C
 合同5万円)
 3月 衛生厚生委員会 シムズ第一副会長歓迎記念と
 して母子寮へ11台の洗濯機を贈った (4C 合同
 5万円) 墨田母子寮、荒川母子寮、練馬母子寮、
 松江母子寮、立川母子寮、堀船母子寮、三鷹母
 子寮、世田谷母子寮、杉並母子寮、万世母子寮、
 ふきやま母子寮
 シムズ副会長歓迎会母子寮代表招待 (4C 合
 同5,000円) 2,500円
 3月 少年少女委員会 シムズ第一副会長歓迎記念事
 業として養護施設6カ所へ贈物 (4C 合同89,295
 円) 愛育園向島学園 (ピンポン用具)、精舎幼

- 児園(野球用具)、マハヤナ学園(野球用具)、聖
 友ホーム(野球用具)、子供の家(ピンポン用具)、
 バット博士記念ホーム(ブランコ) 4C 89,295円
 情報委員会 宣伝費(シムズ第一副会長歓迎会
 に関して) 3,000円
 4月 東京盲婦人ホーム設立費寄付(杉並区大宮)
 30,000円
 岡山大会バザー出品費 20,730円
 5月 少年少女委員会 千代田公会堂において 4C 合
 同のバザーを催して 272,438 円収益を得たバザ
 ーの当日6カ所の施設へ贈呈式を行なった (4C
 合同 88,500 円) 東京育成園(ファイリングケ
 ース)、目黒若葉寮(ピンポン用具)、治生学園
 (オルガン)、世光寮(ピンポン用具)、錦華学院
 (ピンポン用具)、希望の家(ピンポン用具)
 バナマ LC を通じマイトマイシンを14歳の少年
 へ送る(血液癌の子供) 14,325円
 安全委員会 交通安全協会主催「良い子の集
 い」へノート寄贈 (4C 合同40,600円)
 ライオンズクラブへ入会したいという子供達の
 グループへ理科辞典を贈った 2,400円
 6月 衛生厚生委員会 第2次養老院慰問として東京
 老人ホーム(保谷町)を慰問、演芸、お土産代
 等 (4C 合同 28,720円) 14,000円



メキシコ・バナマCにマイトマイシンを贈る

7年度 1958年7月～1959年6月



(役 員)

会 長 福岡 陽道
前 会 長 浜本 正勝
第一副会長 小野 哲
第二副会長 樋口 杲
第三副会長 秋尾 栄
幹 事 本間 利章
副 幹 事 熊野 達夫
会 計 長谷部 照正

ライオンテーマー 森 卯一郎
テールツイスター 光野 健之助
副 ^テ _{ツイ} ^ス _{ター} 山岡 保之助
理 事 守随 乙作
理 事 加藤 栄治
理 事 酒井 忠博
理 事 穴沢 六郎

(委 員 長)

出席委員長 芦沢 大義
財務委員長 勝野 基信
会員委員長 石関 信助
プログラム委員長 山城 丞二
会則委員長 鹿士 源太郎
少年少女委員長 森 卯一郎

国際委員長 宮内 俊之
事業委員長 芦沢 大義
広報委員長 石川 欣一
教育委員長 迫水 久常
厚生委員長 小野 四郎
安全委員長 山岡 保之助

例会記録

例会日：第 2, 4 (水) 12:30

例会場：ホテル国際観光

7月9日 ゲストスピーカー 科学技術庁企画調整局
技官 井上起夫氏
7月23日 メンバースピーチ 矢野目源一L
演題「中年過ぎの健康法」
8月13日 Roy Keaton 氏歓迎会
8月27日 ゲストスピーカー 小山富士夫氏
演題「わが国にある東洋陶器の銘品」
9月10日 ゲストスピーカー 日本政治経済研究所長
佐野博氏
演題「総評と日教組について」
9月24日 外務省国際連合局参事官 北原秀雄氏
演題「わが国と国際連合」
10月4～7日 第2回アジア大会 東京会館、椿山荘
10月22日 ゲストスピーカー 日産自動車(株)業務部
次長 片山豊氏
演題「豪洲一周ラリーにおける世界の自動車
と日本の自動車」
11月12日 ゲストスピーカー 小泉信三氏
11月26日 ゲストスピーカー 日本電波塔(株)取締役
技術部長工学博士 松尾三郎氏
演題「東京タワー」
12月10日 ゲストスピーカー 共同通信社特信局長

飼手菅四氏
演題「最近のソビエト」
12月19日 クリスマス・パーティ
1月14日 メンバースピーチ 石川欣一L
1月28日 新年宴会 常盤家
2月13日 C.L.STURM 第一副会長歓迎会 東京会館
2月25日 ゲストスピーカー 警視庁交通第二課長
折田二雄氏
演題「東京都の交通事情」
3月11日 ゲストスピーカー 癌研附属病院長 田崎
勇三氏
演題「癌はなれる」
3月25日 ゲストスピーカー 中央気象台海洋部長
寺田一彦氏
演題「気象と経済」
4月8日 ゲストスピーカー 徳川生物学研究所
田宮 博氏
演題「クロレラの話」
4月22日 中沢ガバナール公式訪問
5月13日 フリーターキング 磯江L, 成田L
5月27日 ゲストスピーカー 瀬戸内晴美氏
演題「恋愛について」

6月10日 メンバースピーチ 坂東賛助L
演題「芝居の話」

6月24日 各委員長報告

アクティビティ

- 7月 島根県浜田市水害見舞金をガバナーを通して送金 5,550円
衛生厚生委員会 YMCA 肢体不自由児海浜キャンプへ寄付 (4C 合同48,000円)
メキシコ Tuxpan LC の要請によりマイトマイシンを空輸 (4C 合同32,400円)
Panama LCマイトマイシン (4C合同16,200円)
- 9月 Bellingham Lc のスポンサーで世界一周旅行中の Miss S. Drysdale を江口Lの家庭で3日間お世話をした
- 10月 台風による伊豆水害見舞として静岡 LC を通じ寄付 (5C 合同5万円)
- 11月 堀舟母子寮へピアノ寄贈 (福田太郎L寄付)
H.H. Myers (Newark Central LC) は東京Cを通じ伊豆水害見舞として100ドル寄付された
- 12月 衛生厚生委員会 足立養老院へテレビ1台, 光の家へ白い杖70本, 養護施設5カ所へ贈物 (6C 合同186,680円)
少年少女委員会 友愛学園(オルガン), 愛成学園 (2人乗ブランコ), 滝川学園 (4人乗ブランコ), 東京家庭学校(自転車2), 砂町友愛園(ピンポン用具) 各施設へみかん (6C 合同 98,680円)
- 1月 ブラジルで保育園を開き日本人の子供の世話をしている宮本純子さんへテープレコーダー1台を贈る (6C 合同46,450円)
- 2月 スターム第一副会長歓迎記念事業として 302地区第1,第2リジョン合同で対癌協会へ100万円寄付 (7C 合同事業費311,430円, 当日ファイ
- 21,570円を含む) 103,000円
- 3月 少年少女委員会 文化放送「良い子の集い」 (7C 合同 27,000円)
施設贈物7カ所 (7C 合同111,675円) 立源寺治生学園 (自転車), 多摩大平園 (病人用 ベッド2), 八幡学園(ブランコ), 藤倉学園 (リズム楽器), 杉並学園(自転車 2), 愛児の家(整理ダンス), 救世軍機恵子寮 (蓄音機)お土産菓子
衛生厚生委員会 14カ所の養老院へ草花の種子を贈った (7C 合同28,000円)
- 5月 少年少女委員会 東京都民生局を通じ奨学生の集いへノート贈呈 (7C 合同9,450円)
安全委員会 警視庁交通安全協会主催「良い子の集い」へノート2,500冊寄贈(7C 合同37,500円)
少年少女委員会 パナマヘマイトマイシンを送った (7C 合同29,200円)
- 6月 衛生厚生委員会 日本点字図書館へ寄付 (7C 合同50,000円)
少年少女委員会 民生局児童部養護課に養護施設で使用する8ミリ撮影機, 映写機贈呈 (7C 合同52,640円)
安全委員会 浅草地区へ投光機 (横断歩道照射) (7C 合同100,000円)
少年少女委員会 NTV「この人を」へ (7C 合同40,000円)
青少年音楽協会へ寄付 10,000円
アジア救ライ事業 (全国合同) へ寄付(第1回) 22,000円



100%出席者

8年度 1959年7月～1960年6月



(役員)

会 長 小 野 哲
前 会 長 福 岡 陽 道
第一副会長 岡 村 武
第二副会長 秋 尾 栄
第三副会長 守 随 乙 作
幹 事 光 野 健之助
副 幹 事 大 橋 保 男
会 計 新 藤 喜 作

ライオンテーマー 別 府 英 一
テールツイスター 竜 村 晋
副 ティー ルー 中 沢 彦 七
ツイスター
理 事 酒 井 忠 博
理 事 穴 沢 六 郎
理 事 石 田 吉 男
理 事 樋 口 杲

(委員長)

出席委員長 福 岡 勇
財務委員長 小 貫 頼 慶
会員委員長 三 崎 友 一
プログラム委員長 Charles Boyd
会 則 委 員 長 石 田 吉 男
青少年女委員長 成 田 清 治

国際委員長 Glen Bruner
事業委員長 森 卯一郎
広報委員長 福 岡 陽 道
教育委員長 中 村 栄 一
厚生委員長 加 藤 栄 治
安全委員長 森 卯一郎

例会記録

例会日：第 2, 4 (水) 12:30

例会場：ホテル国際観光

7月 8日 ゲストスピーカー 生産性本部 押川一郎氏
演題「生産性向上運動について」
7月22日 ゲストスピーカー 巨人軍 宇野庄治氏
演題「プロ野球について」
8月12日 ゲストスピーカー 優秀映画鑑賞会専務理事 岡野英規氏
演題「優秀映画について」
8月26日 ゲストスピーカー 共立女子大教授 高橋邦太郎氏
演題「テレビについて」
9月 9日 ゲストスピーカー 三宅艶子氏
演題「タシケント旅行の話」
9月23日 ゲストスピーカー 朝日新聞 末松満氏
演題「東ベルリンへもぐる」
10月14日 ゲストスピーカー 神戸大教授 谷信一氏
演題「美術を通してみた中国の社会」
10月28日 婦人のタ グランドホテル
合同事業資金募集名画鑑賞会「羅生門」
11月11日 メンバースピーチ ブルーナーL
演題「外交即国交」
11月25日 ゲストスピーカー 日本海貿易社長 野口芳雄氏

12月 9日 演題「最近のソ連事情」
ゲストスピーカー 米空軍中佐 マキンントッシュ氏
演題「米国空軍軍人の日本観」
12月23日 クリスマス・パーティー
1月13日 メンバースピーチ 芦沢大義L
1月27日 新年会 常盤家
2月10日 ゲストスピーカー 香川峰雲氏
演題「新しい書道について」
2月17日 F.E.DAVIS 国際第一副会長歓迎会
3月 9日 ゲストスピーカー 東京都教育庁学務部長 佐野幸作氏
演題「東京都育英事業の現況について」
3月23日 ゲストスピーカー 白十字会村山サナトリウム院長 野村実氏
演題「シュバイツア病院見たまま」
3月30日 事業資金募集映画会「女王さまはお若い」
4月13日 ゲストスピーカー 警視庁交通部長 富永誠美氏
演題「都内の交通行政について」
4月27日 ゲストスピーカー 栄太楼 細田胖氏
演題「アメリカ雑感」

- 5月11日 メンバースピーチ 武見太郎L
演題「医療制度の基本問題」
5月25日 映画上映「東南アジアをめぐる（特に宮崎
博士のインドにおける活躍状況）」
6月 8日 ゲストスピーカー 毎日新聞社論説副主幹

林三郎氏
演題「巨頭会談以後の世界情勢」

- 6月22日 各委員長報告
(6月29日 事業資金募集映画会 “大いなる不倫”)

アクティビティ

- 7月 衛生厚生委員会 YMCA 肢体不自由児海浜キ
ャンプへ（全東京合同5万円）
8月 台風7号の被災地へ甲府Cと静岡Cを通して
（全東京合同10万円）
長野県木島保育園へオルガン（全東京合同
28,500円）
12月 少年少女委員会 養護施設へクリスマス贈物、
双葉園（折たたみ椅子33脚）、恵明学園（脱水
機）、砂町友愛園（テーブルコーダー）、調布学
園（テーブル椅子）、至誠学園（整理ダンス）、
子供の家（整理ダンス）、聖フランシスコ子供
寮（テーブル椅子）、天使の園（自転車）、共生
会希望の家（自転車）、のぞみの家（ふとん）
（全東京合同192,650円）
10月 台風15号の被害地名古屋と広島へ見舞金
55,000円
台風被害地見舞金として H.H. Myers(Newark
Central Club)より100ドル、L.R. Allen (Au
ckland)より20,000円、Morris Crutchfield
(Tulsa, Oklahoma)より5ドルを毎日新聞を通
して寄付

- 1月 少年少女委員会 ボーイスカウト新春パレード
旗（全東京合同4万円）
2月 衛生厚生委員会 日本点字図書館へ寄付（全東
京合同5万円）
11月 原爆被爆者治療研究費（全国合同180万円）
55,500円
3月 教育委員会 第1回奨学資金（3名 月2,000円）
72,000円
5月 衛生厚生委員会 白鳥寮へテレビ寄付72,000円
6月 チリ津波寄付金（E1地区合同）24,000円
「この人を」へ（全東京合同5万円）
少年少女委員会 施設11ヶ所へ贈物 六華園（テ
ーブルコーダ）、東京家庭学校（洗濯機）、星美
学園（テーブルコーダー）、赤十字子供の家（ク
リーナ）、聖ジョセフホーム（編物機2台）、福田
会宮代学園（オルガン）、東京サレジオ学園（オ
ルガン）、二葉保育園（ステレオ）、小百合の寮
（アコーディオン）、大滝児童学園（椅子、机）、
生長の家神の国寮（たんす）（全東京合同
221,300円）
浅間ヶ丘若葉寮建設費（全東京合同1万円）



10周年記念大会委員長小野哲Lと
アキレイア出土の壺



八王子市へ合同で青年の家を寄贈

9年度 1960年7月～1961年6月



(役 員)

会 長 岡 村 武
前 会 長 小 野 哲
第 一 副 会 長 石 田 吉 男
第 二 副 会 長 三 崎 友 一
第 三 副 会 長 森 卯 一 郎
幹 事 山 岡 保 之 助
副 幹 事 三 崎 矩 光
会 計 島 原 健 一

ライオンテーマー 叶 善次郎
副 テー マー 鹿 士 源 太 郎
テールツイスター 阪 田 一 夫
副 テー スター 藤 見 太 郎
理 事 樋 口 杲
理 事 広 部 賢 二
理 事 光 野 健 之 助
理 事 新 堂 喜 作

(委 員 長)

出席委員長 土 井 一 良
財務委員長 三 輪 田 元 也
会員委員長 古 川 正 重
プログラム委員長 殖 栗 文 夫
会 則 委 員 長 塩 原 有
青少年委員長 中 沢 彦 七

国際委員長 門 脇 良 教
事業委員長 守 随 乙 作
広報委員長 池 田 幸 雄
教育委員長 武 田 透
厚生委員長 式 場 隆 三 郎
安全委員長 五 味 弘

例会 記 録

例会日：第 2, 4 (水) 12:30

例会場：ホテル国際観光

7月13日 新役員挨拶 自由懇談会
7月27日 ゲストスピーカー NHK 小川和夫氏
演題「三池の話」
8月10日 ゲストスピーカー 小西得郎氏
演題「野球の話」
8月24日 ゲストスピーカー 首都圏整備局長 山田
正男氏
演題「首都整備の問題」
9月14日 ゲストスピーカー 元住宅公団総裁 加納
久朗氏
演題「世界国づくり」
9月28日 ゲストスピーカー アラビヤ石油常務
梶杜正太郎氏
演題「アラビヤの石油の話」
10月 8日 バザーと映画の集い 第一生命ホール
(関東C合同)
10月26日 ゲストスピーカー 経済企画庁事務次官
小出栄一氏
演題「最近のわが国の経済動向」
11月 9日 ゲストスピーカー 共同通信論説委員
坂田二郎氏
演題「国際情勢について」
11月24日 PER STAHL 国際第一副会長歓迎会

東京会館
12月14日 ゲストスピーカー NHK・ジャパンタイ
ムス 平沢和重氏
演題「時事問題裏話」
12月21日 クリスマス・パーティー
1月11日 ゲストスピーカー 三菱信託銀行常務
田中 勉氏
演題「今年の株価の見通しについて」
1月25日 新年会 常盤家
2月 8日 ゲストスピーカー 順天堂大学医学部助教
授 橋本博太郎氏
演題「脳手術について」
2月22日 ゲストスピーカー 日魯漁業専務 平野
魁氏
演題「日本人の食生活」
3月 8日 ゲストスピーカー ベネゼラ大使 Dr.
Carlos Rodriguez-Jimenez 氏
演題「ベネゼラと日本の関係」
3月22日 ゲストスピーカー 早稲田大学教授
五十嵐新次郎氏
演題「英語四方山話」
4月12日 ゲストスピーカー 日本観光協会理事
横田巖氏

- 演題「内外の観光事情」
 4月26日 ゲストスピーカー 平沢和重氏
 演題「時事問題」
 5月10日 メンバースピーチ 大橋保男氏
 演題「東南アジア諸国の表情」
 5月24日 ゲストスピーカー 東大精神科 杉山秀一氏

- 演題「笑いの哲学」
 6月14日 ゲストスピーカー 丸尾長頼氏
 演題「香りと恋愛」
 (6月27日 東京C事業資金募集映画会 “家なき子”)
 6月28日 メンバースピーチ 各委員長

アクティビティ

- 9月 少年少女委員会 本木親隣館保育園へステレオ
 1台寄付 22,800円
 衛生厚生委員会 ハワイの中野L寄贈の1万円
 にて点字タイプライター2台を文京盲学校へ贈
 った 10,000円
 10月 スタール第一副会長歓迎記念事業として
 ☆鉄の肺2基中山厚生大臣を通して国立新発田
 病院、市立小田原病院へ寄付
 (E1地区合同100万円) 24,800円
 ☆眼鏡を買えない子供達1,418人に東京都を通
 して眼鏡を贈呈(全東京合同319,050円)
 8月 YMCA 肢体不自由児海浜 キャンプ(全東京合
 同5万円)
 12月 衛生厚生委員会 日本点字図書館へ寄付
 50,000円
 3月 教育委員会 第2回奨学資金と記念品

- 146,700円
 少年少女委員会 養護施設の子供達へジャータ
 カ絵本500冊贈呈 50,000円
 ボーイスカウトへ 3,000円
 5月 宮崎博士へ 8,000円
 6月 少年少女委員会 愛児館へ食器100人分贈呈
 46,800円
 古衣類を会員の家庭より集めて愛児館へ贈る。
 Pine L.C. Australiaへ綿布200ヤール 24,150円
 10月8日関東Cと合同で催したバザー収益金に
 8,632円追加して30万円とし盲児開眼基金へ贈
 る
 八戸市の大火見舞として例会のファインを送る
 10,200円
 「この人を」へ寄付1年分 50,000円



中山厚生大臣を通じて鉄の肺を寄贈



愛児館へ炊事器を寄贈

10年度 1961年7月～1962年6月



(役 員)

会 長 迫 水 久 常
前 会 長 岡 村 武
第一副会長 守 随 乙 作
第二副会長 森 卯一郎
第三副会長 式 場 隆三郎
幹 事 三 崎 矩 光
副 幹 事 豊 田 治 助
会 計 鹿 士 源 太 郎
副 会 計 三 輪 田 元 也
ライオンテーマー 藤 見 太 郎
副 ライオン
テ マー 五 味 弘

テールツイスター 殖 栗 文 夫
副 テー ル ツイスター 吉 益 敬 一
理 事 (二年目) 光 野 健 之 助
理 事 (") 新 堂 喜 作
理 事 (") 葦 沢 大 義
理 事 (") 池 田 幸 雄
理 事 (一年目) 山 岡 保 之 助
理 事 (") 長 谷 部 照 正
理 事 (") 叶 善 次 郎
理 事 (") 金 子 達 一

(委 員 長)

出席委員長 加 藤 栄 治
財務委員長 和 田 康 宏
会員委員長 秋 尾 栄
プログラム委員長 樋 口 杲
会則委員長 磯 江 道 夫
少年少女委員長 秋 元 時 一 郎

国際委員長 Charles Boyd
事業委員長 光 野 健 之 助
広報委員長 細 田 胖
教育委員長 小 林 利 助
厚生委員長 井 門 幸 男
安全委員長 横 山 忠 雄

例会記録

例会日：第 2, 4 (水) 12:30 例会場：ホテル国際観光

7月12日 メンバースピーチ ガバナー 塩原有L
演題「世界大会出席報告」
7月26日 メンバースピーチ 式場隆三郎L
演題「最近のヨーロッパをみて」
歌の練習川上菊代嬢
8月9日 メンバースピーチ 郵政大臣 迫水久常L
演題「郵政の話」
8月23日 ゲストスピーカー NHK館野守男氏
演題「最近のソ連, 韓国の動き」
9月13日 ゲストスピーカー 高橋 功氏
演題「シュバイツァー病院の話」
9月27日 ゲストスピーカー 南村佑好氏
演題「野球の話」
10月11日 メンバースピーチ 岡村 武L
演題「ソ連見たまま聞いたまま」
10月25日 ゲストスピーカー 東大人類学教室 大給
近達氏

演題「奥アマゾンのインディアン」
11月8日 Stahl会長歓迎会 ホテルニュージャパン
11月22日 メンバースピーチ 芦沢大義L
演題「鉄の動き」
12月13日 ゲストスピーカー 西洋美術館 富永惣一
氏
演題「美術の秋」
12月20日 クリスマス・パーティー
1月10日 メンバースピーチ 上田L「原敬の話」
樋口L「東京昔し昔し」
1月24日 新年会 常盤家
2月14日 ゲストスピーカー 三菱信託銀行 田中勉
氏
演題「今年の株価の見通し」
2月28日 メンバースピーチ 金子達一L
演題「第三の紙」
3月5日 10周年記念 日活ファミリイクラブ

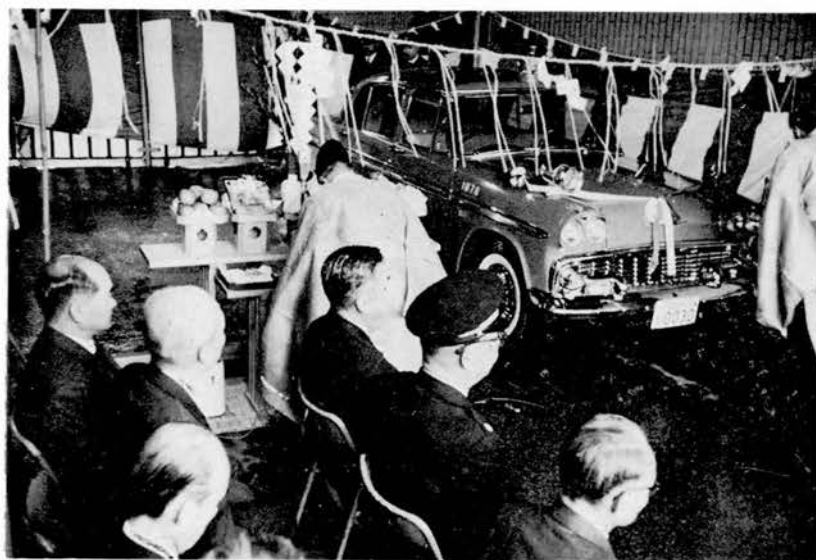
3月28日 ゲストスピーカー 菊水店主 内藤長一氏
演題「たばこの話」
4月 7日 年次大会振替
4月25日 メンバースピーチ 福岡陽道L
演題「モーリスタウン」
5月 9日 ゲストスピーカー 読売新聞編集局次長
高木健夫氏

演題「新聞記者のみた世相」
5月23日 メンバースピーチ 光野健之助L
演題「靈魂は実在するか」
6月13日 ゲストスピーカー 藤浦洸氏
演題「放送放談」
6月27日 メンバースピーチ 役員有志及各委員長

アクティビティ

8月 YMCA身体不自由児海辺キャンプへ寄付 50,000円
11月 少年少女、衛生厚生委員会 肢体不自由児絵画
展へ寄付 100,000円
登別水害見舞として例会フアインを登別Cへ寄
付 7,000円
12月 ボーイスカウト新春パレード参加記念章代とし
て（全東京合同5万円）
3月 10周年記念事業 東京消防庁へ消防指令車1台
寄贈 1,260,000円
教育委員会 奨学資金と記念品 272,790円

安全委員会 深川消防署へ非常用水防工具及び
照明バッテリー一式寄贈 110,000円
5月 衛生厚生委員会 島田療育園へ電気冷蔵庫寄贈
100,000円
衛生厚生委員会 全国ライ療養所11ヶ所へ盲人
用テープ400本贈呈 200,000円
6月 少年少女委員会 会員家庭の不要になった衣類
等を集めて愛児館へ贈呈50個
袋用手拭代 11,200円
NTV番組「この人を」寄付1年分 50,000円
学童へ眼鏡贈呈追加（全東京59,950円）



消防指令車贈呈式



10周年記念に歴代会長、幹事に記念品贈呈

11年度 1962年7月～1963年6月



(役 員)

会 長 守 随 乙 作
前 会 長 迫 水 久 常
第 一 副 会 長 森 卯 一 郎
第 二 副 会 長 池 田 幸 雄
第 三 副 会 長 葦 沢 大 義
幹 事 豊 田 治 助
副 幹 事 五 味 弘
会 計 三 輪 田 元 也
副 会 計 磯 江 道 夫
ライオンテーマー 増 茂 昌 夫
副 ライオン テー マー 三 厨 正

テールツイスター Charles Boyd
副 テー ラー 細 田 胖
ツイスター
理 事 (二 年 目) 榎 島 忠 三
理 事 (〃) 金 子 達 一
理 事 (〃) 山 岡 保 之 助
理 事 (〃) 上 田 常 隆
理 事 (一 年 目) 三 崎 矩 光
理 事 (〃) 藤 見 太 郎
理 事 (〃) 鹿 士 源 太 郎
理 事 (〃) 殖 栗 文 夫

(委 員 長)

出 席 委 員 長 松 本 裕
財 務 委 員 長 三 崎 友 一
会 員 委 員 長 本 間 利 章
プ ロ グ ラ ム 委 員 長 穴 沢 六 郎
会 則 委 員 長 福 岡 陽 道
情 報 委 員 長 山 岡 保 之 助
少 年 少 女 委 員 長 鈴 木 植 一

国 際 委 員 長 式 場 隆 三 郎
事 業 委 員 長 金 子 達 一
広 報 委 員 長 竹 岡 稜 一
教 育 委 員 長 新 堂 喜 作
厚 生 委 員 長 永 井 賢 城
安 全 委 員 長 乙 部 実
青 少 年 交 換 計 画 委 員 長 浜 本 正 勝

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15 例会場：帝国ホテル

7月12日 ゲストスピーカー 毎日新聞東京本社編集
局長 浦上五六氏
演題「時局随想」
7月26日 メンバースピーチ 加藤栄治L
演題「ニース世界大会印象談」
8月 9日 ゲストスピーカー 三菱経済研究所長 町
田一郎氏
演題「経済の話」
8月23日 ゲストスピーカー 科学技術庁長官 近藤
鶴代女史
演題「所感」
9月13日 ゲストスピーカー 菅原通済氏
演題「麻葉天国ニッポン」
9月27日 ゲストスピーカー 東大教授工博 糸川英
夫氏
演題「宇宙科学の現状と将来」

10月11日 ゲストスピーカー 東京工大教授理博
崎川範行氏
演題「合成宝石について」
10月25日 「婦人の夕」家族会 白金迎賓館
ゲストスピーカー 初代国連大使 加瀬俊
一氏
演題「国連と国際情勢」
11月 8日 ゲストスピーカー 東大教授工博 高山英
華氏
演題「都市計画とオリンピック施設につい
て」
11月22日 メンバースピーチ 野村証券常務 川島清
司氏
演題「日本の証券市場に対する外国の関心」
12月13日 メンバースピーチ
高橋L「財団法人アジア教ライ協会の発足

- について」
塩原L「第1回東南アジア大会に出席して」
岡村L「インド旅行談(中印国共問題)」
- 12月22日 クリスマス・パーティー スカイルーム
- 1月10日 メンバースピーチ 田中勉L
演題「今年の株価の見通し」
- 1月24日 新年宴会 赤坂常盤家
- 2月14日 ゲストスピーカー ドクトル・チエコ
演題「中年からの健康法」
- 2月28日 ゲストスピーカー 第17回国連総会日本代表
表 ジャパンタイムス社長 福島慎太郎氏
演題「国連より帰って」
- 3月14日 ゲストスピーカー 前インド大使 那須浩氏
演題「効ライ事業と最近のインド事情」

アクティビティ

- 8月 衛生厚生委員会 YMCA 主催身体不自由児海
辺キャンプへ寄付 50,000円
リッチランド基金募金箱設置
- 9月 イラン大地震見舞 (21C合同411,000円)
36,900円
三宅島爆発罹災者見舞として運動具、百科辞典
を小・中・高校9校へ寄贈
(全東京合同236,400円) 24,600円
十勝岳爆発罹災者見舞として帯広中央Cへ
13,200円
- 10月 安全委員会 千代田区の小学校へ道路横断指導
に使う携帯用マイク15個を贈る 118,500円
- 11月 スローガン「子供達を交通事故から守ろう」に
基き都内40の小学校へ児童通学道路を標示する
安全標識1,000枚を寄贈 (全東京合同60万円)
- 12月 第8回年次大会記念事業「八王子青年の家」の
講堂が完成し東京都へ贈呈(18C 合同 420万円)
440,000円
- 12月15日 N E T 年末助け合いオークションをス
ポンサー (全東京合同504,000円)

- 3月28日 福島ガバナー公式訪問 スカイルーム
- 4月11日 川口、日立、千葉、練馬、世田谷5クラブ
合同例会
- 4月25日 ゲストスピーカー スラマー博士
演題「サリドマイド奇形児手術報告」
- 5月9日 ゲストスピーカー NHK解説室長 藤瀬
五郎氏
演題「時局雑感」
- 5月23日 ゲストスピーカー オーストリア大使
Dr. F. Hartlmayer
演題「SOS. Childrens Villages」
- 6月13日 事業資金募集映画会
10周年記念映画、漫画、北海の果て
- 6月27日 新旧役員引継式 各委員会より年間報告

オークション売上金で660枚の毛布を購入し都
内社会福祉施設110ヶ所へ贈る 64,200円不要衣
料品等を会員の家庭から集めて愛児館へ75袋
(第2回) 贈る

- 2月 新潟及び東北地方豪雪救援金として(地区合同)
50,000円
- 3月 サリドマイド奇形児救助のためフィンランドよ
りスラマー博士招待 (全東京合同 614,930円)
46,620円

教育委員会 奨学資金第4回と記念品

- 278,400円
- 4月 リッチランド基金より光明の家へテープレコー
ダー1台寄付 31,200円
- 6月 東京都美化運動に協力、煙草の吸から回収車4
台を東京都へ寄贈 (24C 合同1,928,000円)
160,000円
- アジア救ライ事業へ寄付 73,000円
- パラリンピック後援費 25,200円
- 少年少女委員会 ガールスカウトへテント1張
寄贈 58,000円



リッチランド基金、全快した市川仁也青年 (中央)

12年度 1963年7月～1964年6月



(役 員)

会 長 石 田 吉 男
前 会 長 守 随 乙 作
第一副会長 池 田 幸 雄
第二副会長 葦 沢 大 義
第三副会長 鈴 木 樞 一
幹 事 細 田 胖
副 幹 事 永 井 賢 城
会 計 小 野 四 郎
副 会 計 槇 島 忠 三
ライオンテーマー 豊 田 治 助
副 ライオン テーマー 西 林 長 太 郎

テールツイスター 福 岡 陽 道
副 テーラー ツイスター 松 本 裕
理 事 (二年目) 三 崎 矩 光
理 事 (") 鹿 士 源 太 郎
理 事 (") 殖 栗 文 夫
理 事 (") 井 門 幸 雄
理 事 (一年目) 森 卯 一 郎
理 事 (") 上 田 常 隆
理 事 (") 三 輪 田 元 也
理 事 (") 武 見 太 郎

(委 員 長)

出席委員長 古 川 正 重
財 務 委 員 長 島 原 健 一
会 員 委 員 長 土 井 一 良
プログラム委員長 殖 栗 文 夫
会 則 委 員 長 別 府 英 一
情 報 委 員 長 光 野 健 之 助
大 会 委 員 長 井 門 幸 男
視 力 保 護 友 成 靖 一
盲 人 委 員 長
少年少女委員長 齊 藤 祐 義

国 際 委 員 長 樋 口 杲
事 業 委 員 長 白 川 国 三 郎
広 報 委 員 長 福 田 太 郎
教 育 委 員 長 榎 山 幸 夫
厚 生 委 員 長 白 川 国 三 郎
安 全 委 員 長 安 藤 陣 一
青 少 年 交 換 計 画 委 員 長 小 野 哲
接 待 特 別 委 員 長 守 随 乙 作

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15

例会場：帝国ホテル

7月11日 メンバースピーチ 上田常隆L
演題「小さな親切運動について」
7月25日 ゲストスピーカー 首都高速道路公団理事
長 神崎丈二氏
演題「東京の自動車専用道路について」
8月 8日 メンバースピーチ 迫水久常L
演題「終戦の真相について」
8月22日 メンバースピーチ 武見太郎L
演題「科学者の見た終戦」
9月12日 大原ガバナー公式訪問
9月26日 ゲストスピーカー 戸塚文子氏
演題「旅について」

10月10日 ゲストスピーカー 政治評論家矢次一夫氏
演題「時事放談」
10月24日 ゲストスピーカー 葛西嘉資氏
演題「パラリンピック」
11月14日 ゲストスピーカー 美術評論家 大久保泰
氏
演題「現代の絵は分りにくいか」
11月28日 ゲストスピーカー 国立ガンセンター病院
長 久留勝博士
演題「胃がんの早期発見」
12月12日 ゲストスピーカー オリンピック組織委員
会事務総長 与謝野 秀氏

演題「オリンピックの話」
 12月19日 クリスマス・パーティー スカイルーム
 1月9日 メンバースピーチ 田中 勉L
 演題「新年の株式見通し」
 1月23日 新年会 宝家
 2月13日 ゲストスピーカー 東京教育大文学部教授
 文博 和歌森太郎氏
 演題「歴史随談」
 2月29日 グリーン会長歓迎会 帝国ホテル
 3月12日 メンバースピーチ 式場隆三郎L
 演題「盲人カナタイプについて」
 3月26日 ゲストスピーカー 国史研究所長 山上八
 郎氏代理
 演題「日本上代史最大の疑問」

4月9日 ゲストスピーカー エンサイクロペディア
 ブルタニカ日本支社副社長 島津光三氏
 演題「インターナショナルコミュニケーション」
 4月23日 メンバースピーチ 福岡 勇L
 演題「吸がらの投捨はやめましょう」
 5月14日 映画上映「日本の民家」
 5月28日 安全、青少年委員会制作映画試写会
 「シュバイツァー伝」「どうろは川だよ橋
 をわたろう」
 6月11日 ゲストスピーカー 共同通信社編集局調査
 部長 万喜久太郎氏
 演題「モスコー生活を中心としてソ連事情」
 6月25日 委員長報告会

アクティビティ

12月 厚生委員会 善行会「小さな親切運動」へ寄付
 50,000円
 古衣類を持ち寄って愛児館へ贈る（第3回）
 102袋約30万円 袋用手拭代 12,400円
 事務局移転に当り岸本ビルにて使用していた机
 椅子、キャビネット等（木製）を東京家庭学校
 へ寄贈 50,000円
 1月 視力保護盲人委員会 日本点字図書館へ寄付
 50,000円
 日本盲人カナタイプ協会へ寄付 50,000円
 2月 オリンピック、国旗掲揚ポール110本とトイレ
 ムットカー2台贈呈（全国合同13,210,000円）
 当クラブラッキーカード492枚購入 492,000円
 衛生委員会 島田療育園へ計算器2台贈呈
 49,000円
 安全委員会 学童向交通安全映画「どうろは川
 だよはしをわたろう」製作費 150,000円

3月 青少年委員会 シュバイツァー伝「人間はみ
 んな兄弟である」スライド製作費 280,000円
 教育委員会 第5回高校生奨学資金と卒業生、
 新入生へ記念品 277,950円
 国際委員会 オーストラリアへ本贈呈 3,275円
 4月 全東京合同 日本赤十字血液銀行へ移動採血自
 動車「全東京ライオンズ号」寄贈（東京全合同
 2,262,400円）
 5月 東京都美化運動にエチケット袋80万枚（オリ
 ムピックの一種目、1千万人の手で東京をきれい
 に）（合同1,137,000円） 69,966円
 衛生委員会 煙草のすいから投捨防止パンフレ
 ムット製作配布 12,000円
 6月 衛生委員会 島田療育園へ患者運搬車、カルテ
 戸棚、配膳車 100,000円
 六華園へ電気冷蔵庫寄贈 50,000円
 新潟地震見舞金 123,000円



日本盲人カナタイプ協会へタイプライター寄贈

13年度 1964年7月～1965年6月



(役 員)

会 長 池 田 幸 雄
前 会 長 石 田 吉 男
第一副会長 葦 沢 大 義
第二副会長 鈴 木 樞 一
第三副会長 上 田 常 隆
幹 事 松 本 裕
副 幹 事 三 厨 正
会 計 土 井 一 良
副 会 計 前 田 幸 蔵
ライオンテーマー 武 内 亀之助
副 ライオン
テ マー 榎 島 忠 三

テールツイスター 坂 本 正
副 テー ル
ツイスター 西 林 長太郎
理 事 (二年目) 三 輪 田 元 也
理 事 (") 森 卯 一 郎
理 事 (") 武 見 太 郎
理 事 (") 小 林 利 助
理 事 (一年目) 豊 田 治 助
理 事 (") 細 田 胖
理 事 (") 永 井 賢 城
理 事 (") 別 府 英 一

(委 員 長)

出席委員長 下 岡 忠 一
財 務 委 員 長 田 中 勉
会 員 委 員 長 森 卯 一 郎
プログラム委員長 武 内 亀之助
会 則 委 員 長 樋 口 杲
情 報 委 員 長 石 関 信 助
大 会 委 員 長 万 代 政 治 郎
視 力 保 護
盲 人 委 員 長 式 場 隆 三 郎
少 年 少 女 委 員 長 山 口 季 次

国 際 委 員 長 勝 野 基 信
事 業 委 員 長 武 内 亀之助
広 報 委 員 長 福 岡 陽 道
教 育 委 員 長 坂 本 正
厚 生 委 員 長 福 岡 勇
安 全 委 員 長 宮 野 武 雄
青 少 年 交 換 計 画
委 員 長 猿 渡 喜 一 郎
接 待 特 別 委 員 長 守 田 俊 郎

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15

例会場：帝国ホテル

7月 9日 メンバースピーチ 森末新一L
演題「輸血の諸問題について」
7月23日 ゲストスピーカー 毎日新聞社外信部長
大森 実氏
演題「激動する東南アジア」
8月13日 ゲストスピーカー 佐藤美子氏
演題「随想」
8月27日 メンバースピーチ 福岡陽道L
スライド「善意でつなぐ明るい社会」
9月10日 ゲストスピーカー 日本青年会議所会頭
小谷隆一氏
演題「日本青年会議新活動について」

9月24日 ゲストスピーカー 宮内庁臨時皇居造営部
長 高尾亮一氏
演題「新宮殿造営についての話」
10月 8日 ゲストスピーカー 河西三省氏
演題「オリンピックの憶い出」
10月22日 ゲストスピーカー 元外務次官 前駐ソ大
使 山田久就氏
演題「ソ連の近況」
11月12日 ゲストスピーカー 経営科学研究所所長
工博 加藤ランジ氏
演題「時代の進歩と経営者の使命」
11月26日 ゲストスピーカー 国鉄副総裁 磯崎徹氏

- 代理
演題「国鉄の当面する諸問題について」
- 12月10日 ゲストスピーカー 読売新聞論説委員
細川忠雄氏
演題「師走の世相」
- 12月21日 クリスマス・パーティー スカイルーム
- 1月14日 メンバースピーチ 田中 勉L
演題「新年の株式見通し」
- 1月28日 新年会 宝家
- 2月11日 ゲストスピーカー チャーチル会理事長
林 謙一氏
演題「チャーチル会とチャーチル」
- 2月25日 メンバースピーチ 万代政治郎L
演題「ネクタイの話」
- 3月11日 メンバースピーチ 武内亀之助L
下岡忠一L 演題「私の履歴書」

アクティビティ

- 7月 少年少女委員会 ボーイスカウト夏期キャンプ
へ寄付 10,000円
- 9月 東京都清掃運動に協力エチケット袋80万枚を東京
都へ寄贈(全東京合同112万円) 60,000円
少年少女委員会 都内全小学校(1,052校)へ
老人福祉ハガキ30枚宛送り小学生より老人へ慰
文ハガキを出してもらうことを依頼 318,220円
- 10月 衛生委員会 インド救済協会へ寄付
100,000円
皇居外苑保存協会へ標識整備費として(全東京
合同70万円) 15,000円
安全委員会 児童交通安全映画「どうろは川だ
よ橋をわたろう」の小学校巡回用パンフレット
費用 80,000円
煙草のすいから投捨防止運動としてオリンピッ
ク会場にて「すいから入」20万個を配布した
(全東京合同28万円)(当C会員会社12社協賛
118,000個1,652,000円)
- 11月 少年少女委員会 スライド「人間はみな兄弟で
ある」用映写機テープレコーダ(小学校貸出用)
128,000円
11月9日よりパラリンピック開催に当り「パラ
リンピックを成功させよう」というTVスポッ
ト広告(全東京合同42,000円) 1,572円
- 12月 少年少女委員会 シュパイツァー伝「人間はみ
な兄弟である」のスライドおよびテープ100本
を製作し都内区役所、市役所48ヶ所へ2組づつ
送り各小学校へ貸出すことを依頼した90,000円
各家庭の不要衣類を持寄り足立区の愛児館へ贈
る。112袋約20万円袋用手拭代 15,500円
ライオンズアイバンク主催「盲人へ白い杖を贈
るためのチャリティショウ」に協賛 9,000円
- 1月 大島大火見舞金 39,600円
安全委員会 学童向交通安全映画「どうろは川
だよ橋をわたろう」の小学校巡回費 80,000

- 3月25日 ゲストスピーカー 麻生武治氏
演題「へそ曲り談義」
- 4月8日 ゲストスピーカー 元外務大臣 大平正芳
氏
演題「わが国の当面する諸問題について」
- 4月22日 メンバースピーチ 古川義三L
演題「世界とところどころ」
- 5月13日 ゲストスピーカー 果実酒協会理事長
石田 穰氏
演題「日本の果実酒」
- 5月27日 メンバースピーチ 並河栄治郎L
演題「最近のフィリピン事業」
- 6月10日 ゲストスピーカー オーストラリア大使官
Mr. P. R. Searcy
演題「日豪貿易への期待」
- 6月24日 委員長報告会

- 厚生委員会 小さな親切運動善行会へ寄付
50,000円
タバコの吸がら投捨防止運動へ 100,000円
- 2月 少年少女委員会 警視庁防犯部少年課ハーモニ
サークルの活動資金として寄付 50,000
- 3月 視力保護盲人委員会 日本点字図書館へ点字複
写器購入費 100,000円
教育委員会 高校生奨学資金 300,000円
卒業生と新入生に記念品 10,400円
北海道冷害見舞金(全国合同) 13,500円
- 4月 衛生委員会 重症心身障害児施設島田療育園へ
寄付 100,000円
日本聾話学校へ聾児教育用ビデオテレビ寄贈
(1R 1Z 合同 46万円) 100,000円
視力保護盲人委員会 岩手県玉山村敷川小中学
校は栄養不足のため、眼が悪い児童が多いので
ミルク代を送る 50,000円
- 6月 敷川小中学校へ給食費として17万円を盛岡Cを
通して送った。このお礼として子供達がすずら
んを集めて送って来た。これがすずらん給食と
して毎日新聞に大きく掲載され政府より冷害僻
地の800校へ5億円の給食費が支給されるきっ
かけとなった。 170,000円



愛児館へ衣類寄贈

14年度 1965年7月～1966年6月



(役 員)

会 長 葦 沢 大 義
前 会 長 池 田 幸 雄
第 一 副 会 長 上 田 常 隆
第 二 副 会 長 武 見 太 郎
第 三 副 会 長 樋 口 杲
幹 事 三 厨 正
副 幹 事 宮 野 武 雄
会 計 田 中 勉
副 会 計 前 田 幸 蔵
ライオンテーマー 槇 島 忠 三
副 ライオン 山 口 季 次

テールツイスター 守 田 俊 郎
副 テーラー ツイスター 西 林 長 太 郎
理 事 (二 年 目) 別 府 英 一
理 事 (〃) 細 田 胖
理 事 (〃) 永 井 賢 城
理 事 (〃) 豊 田 治 助
理 事 (一 年 目) 本 間 利 章
理 事 (〃) 三 崎 友 一
理 事 (〃) 松 本 裕
理 事 (〃) 小 島 正 五 郎

(委 員 長)

出 席 委 員 長 坂 本 正
財 務 委 員 長 白 川 国 三 郎
会 員 委 員 長 山 岡 保 之 助
プ ロ グ ラ ム 委 員 長 前 田 正 男
会 則 委 員 長 鈴 木 檀 一
情 報 委 員 長 細 田 胖
視 力 保 護 福 岡 勇
盲 人 委 員 長
少 年 少 女 委 員 長 鈴 木 諭 一

国 際 委 員 長 大 橋 保 男
専 業 委 員 長 前 田 正 男
広 報 委 員 長 中 根 麟 之 助
教 育 委 員 長 三 浦 文 次 郎
厚 生 委 員 長 秋 本 時 一 郎
安 全 委 員 長 三 輪 義 明
青 少 年 交 換 計 画 委 員 長 豊 田 治 助
接 待 特 別 委 員 長 池 田 幸 雄

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15

例会場：帝国ホテル

7月 8日 メンバースピーチ 万代政治郎L.
演題「一本のネクタイについて」
7月22日 ゲストスピーカー NHK解説委員 坂田
二郎氏
演題「最近のベトナム情勢」
8月12日 映画上映「銀座の地下を掘る」
8月26日 ゲストスピーカー 東富士関
演題「終戦直後の相模よも山話」
9月 9日 佐藤ガバナー公式訪問
9月30日 ファッション・ショウ
10月14日 ゲストスピーカー 日本白寿会会長 新田
豊造氏
演題「健康長寿と平常の心がけ」
10月28日 ゲストスピーカー 元東京弁護士会会長

菅原 裕氏
演題「時局放談」
11月11日 ゲストスピーカー 田 英夫氏
演題「日韓問題」
11月25日 ゲストスピーカー 日本点字図書館 本間
一夫氏「欧米の盲人福祉」
葛飾盲学校長鈴木力二氏「盲教育随想」
12月 9日 ゲストスピーカー 日本ユースホテル会
長 中山正男氏
演題「ユースホテルの話」
12月21日 クリスマス・パーティー スカイルーム
1月13日 ゲストスピーカー ジャパンタイムス論説
委員 小林庄一氏
演題「1966年経済の見通し」

- 1月27日 新年会 植むら
 2月10日 ゲストスピーカー オペラ歌手 長門美保氏
 演題「声を通じたあれこれ」
 2月24日 ゲストスピーカー 日本観光協会会長 平山 孝氏
 演題「日本の観光について」
 3月10日 映画上映「ジェミニー4号」
 3月24日 ゲストスピーカー 一赤青少年課長 橋本裕子氏
 演題「青少年教育と奉仕活動」
 4月14日 映画上映「われらは奉仕する」
 4月28日 ゲストスピーカー アマチュア奇術研究家

- 児玉岩治氏
 演題「奇術と目の錯覚」
 5月12日 ゲストスピーカー 日産生命保険副社長 藤本正雄氏
 演題「催眠術の話」
 5月26日 ゲストスピーカー 経済評論家 三鬼陽之助氏
 演題「財界よも山話」
 6月 9日 ゲストスピーカー TBSテレビ放送部副部長 吉兼 実氏
 演題「アメリカ第七艦隊とベトナム戦争」
 6月23日 委員長報告

アクティビティ

- 8月 視力保護盲人委員会 ライオンズ・アイバンク
 主催の映画会に協賛(切符30枚購入) 9,000円
 青少年交換計画委員会 富士山で死亡した日米交換学生 Miss Carlson 追悼金(地区合同) 65,500円
 9月 少年少女委員会 都内全小学校1,068校へ老人福祉ハガキ30枚宛配り老人の日に子供達から知り合いの老人に慰問のハガキを出すように依頼 227,420円
 10月 安全委員会 日本身体障害者安全運転会の組織作りと更生援護の助成金として富士新報福祉事業団へ寄付 150,000円
 11月 少年少女委員会 子供の国の開園に当り椅子5人掛10脚を寄贈 196,000円
 視力保護盲人委員会 日本点字図書館へ寄付 100,000円
 東京ライトハウスへ寄付 10,000円
 日本キリスト教奉仕団テープ・ライブラリーへ寄付 10,000円
 盲老人ホーム聖明園へ寄付 27,000円
 12月 会員の家庭より頂いた古衣類を愛児館へ贈る(107袋約20万円) 手拭袋代 17,640円
 故式場隆三郎Lご遺族よりご香典返しとして当

- クラブを通じて日本点字図書館へ寄付 250,000円
 1月 三沢市大火のお見舞金としてE4地区へ30,000円
 視力保護盲人委員会 盲導犬学校設立資金として寄付 39,000円
 衛生委員会 インド救済事業へ寄付 100,000円
 衛生委員会 “心身障害児に愛の手を”のスローガンに基き愛隣会、島田保育園へ寄付 200,000円
 2月 衛生委員会 上智厚生事業団愛児館へ食器洗滌消毒器1台贈呈 150,000円
 厚生委員会 小さな親切運動本部へ寄付50,000円
 視力保護盲人委員会 葛飾盲学校・文京盲学校・久我山盲学校・八王子盲学校へ放送教育の録音テープ400本を贈呈 186,000円
 3月 教育委員会 第6回高校生奨学資金11人分(1人年3万円)、記念品および選考調査費 350,900円
 5月 第12回年次大会記念として全東京C合同で日赤へ50万、藤根協会へ30万円寄付 18,500円
 国際委員会 Australia の Footscray L.C. へ日本紹介本“This is Japan”を送った 3,775円



ファッション・ショウ 司会者前田(正)Lと守田L

15年度 1966年7月～1967年6月



(役 員)

会 長 武 見 太 郎
前 会 長 葦 沢 大 義
第一副会長 樋 口 杲
第二副会長 酒 井 忠 博
第三副会長 守 田 俊 郎
幹 事 西 林 長 太 郎
副 幹 事 坂 本 正
会 計 北 岡 源 太 郎
副 会 計 小 竹 永 三
ライオンテーマー 秋 元 時 一 郎
副 ラ イ オ ン テ ー マ ー 穴 沢 六 郎

テールツイスター 万 代 政 治 郎
副 テ ー ル ツ イ ス タ ー 宮 野 武 雄
理 事 (二 年 目) 本 間 利 章
理 事 (") 小 島 正 五 郎
理 事 (") 松 本 裕
理 事 (") 三 崎 友 一
理 事 (一 年 目) 安 藤 陣 一
理 事 (") 福 岡 勇
理 事 (") 三 厨 正
理 事 (") 小 野 四 郎

(委 員 長)

出席委員長 山 口 季 次
財務委員長 若 林 法 雄
会員委員長 三 崎 矩 光
プログラム委員長 三 厨 正
会則委員長 前 田 正 男
情報委員長 塩 原 有
視 力 保 護 古 川 正 重
盲 人 委 員 長
青少年女委員長 松 波 鉄 治

国際委員長 長 井 貞 義
事業委員長 成 田 清 治
広報委員長 殖 栗 文 夫
教育委員長 安 藤 陣 一
厚生委員長 小 山 田 泰 彦
安全委員長 成 田 清 治
青少年交換委員長 数 佐 三 郎
接待特別委員長 葦 沢 大 義

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15

例会場：帝国ホテル

7月14日 ゲストスピーカー ブリタニカ日本支社長
フランク・ギブニー氏
演題「国際的なマスコミの発展における教育の重要性」
7月28日 ゲストスピーカー 前東大総長 茅誠司氏
演題「日本の科学」
8月11日 メンバースピーチ 八木治郎 L
演題「話のはなし」
8月25日 メンバースピーチ 福岡陽道 L
演題「盲導犬」
9月 8日 ゲストスピーカー 作家 土岐雄三氏
演題「女房操縦の心得」
9月22日 ゲストスピーカー 国立ガンセンター病院
長 久留勝博士

演題「初期の胃癌」
10月13日 映画上映 「父 その愛」
10月27日 ゲストスピーカー 中央公論社社長 嶋中
鵬二氏
演題「日本人の読書」
11月10日 ゲストスピーカー Japan Times 取締役
長谷川進一氏
演題「世界の青年運動」
11月24日 ゲストスピーカー 俳人 中村汀女氏
演題「心の泉」
12月 8日 ゲストスピーカー 東洋経済新報社編集長
清瀬茂樹氏
演題「年末株界の変動」
12月21日 クリスマス・パーティー シアターレスト

- ラン
- 1月12日 ゲストスピーカー 落語家 林家正蔵氏
演題「落語あれこれ」
- 1月26日 新年会 長谷川
- 2月 9日 ゲストスピーカー 出光興産(株)社長
出光佐三氏
演題「日本人」
- 2月23日 メンバースピーチ 鈴木 武L
演題「2.26事件の思い出」
- 3月 9日 ゲストスピーカー 日本経済新聞社論説委員 古田 保氏
演題「恐妻覚宣言」
- 3月23日 15周年記念祝賀会 孔雀の間

アクティビティ

- 9月 少年少女委員会 老人の日に都内各小学生より
慰問はがきを出してもらうように各小学校へ福
祉はがきを配布 405,823円
- 少年少女委員会 ブラジルで日本人の子供達の
保育園を開いている宮本純子さんへ 20,000円
- ライオンズクラブ50周年記念平和論文コンテス
ト協力費(地区合同) 26,400円
- 11月 視力保護盲人委員会 日本点字図書館へ寄付
50,000円
- 日本盲人カナタイプ協会へ寄付 50,000円
- 東京ライトハウスへ寄付 50,000円
- 聖明園へ寄付 20,000円
- 12月 古衣類を会員の家庭から頂いて愛児館へ贈った
(第5回目) 95袋約20万円、袋用手拭代
16,120円
- 1月 平和論文コンテスト応募者へ記念品 6,375円
- 日本ユースホステル協会へシール代 5,000円
- 2月 皇居外苑保存協会へ鋼製駒止柵190基を寄贈
(1R1Z 合同985,790円) 82,149円
- 3月 15周年記念事業 東京消防庁へ「救急医用監視

- 4月 3日 ゲストスピーカー 毎日新聞社論説委員長
橋善守氏
演題「中共文化大革命の今後」
- 4月27日 ゲストスピーカー NHK解説委員 坂田
二郎氏
演題「東京都政はどう変わるか」
- 5月11日 メンバースピーチ 山根 実L
演題「モスコウ見聞記」
- 5月25日 ゲストスピーカー 朝田静夫氏
演題「拡大する日本の航空路」
- 6月 8日 メンバースピーチ 武見太郎L
演題「長生きの科学」
- 6月22日 委員長報告会

装置”1台および全身副子兼用担架 20 台を贈呈
984,500円

教育委員会 高校生奨学資金 360,000円
記念品 9,140円

視力保護盲人委員会
日本盲導犬協会へ寄付 50,000円
ライオンズ・アイバンク協会へ寄付 50,000円
葛飾・文京・久我山・八王子4 盲学校へテーブ
代として寄付 80,000円

青少年交換計画委員会 E1 地区協賛 39,900円

- 5月 厚生委員会
全国重症心身障害児を守る会へ 150,000円
インド救ライ協会へ 100,000円
島田療育園へ 100,000円
小さな親切運動本部へ 100,000円
高年貧困者収容施設賛育会へ 100,000円
渋谷C主催交通安全運動基金募集チャリティ・
ショウ協力 12,800円
- 6月 視力保護盲人委員会 日本アイバンク協会読売
光のプレゼントへ 200,000円



消防庁へ救急医用監視装置寄贈

16年度 1967年7月～1968年6月



(役員)

会 長 樋口 杲
前 会 長 武見 太郎
第一副会長 酒井 忠博
第二副会長 守田 俊郎
第三副会長 本間 利章
幹 事 坂本 正
副 幹 事 前田 正男
会 計 小竹 永三
副 会 計 小山田 泰彦
ライオンテーマー 朝吹 英一
副 ライオン テーマー 穴沢 六郎

テールツイスター 宮野 武雄
副 テー ル ツイスター 白川 国三郎
理 事 (二年目) 安藤 陣一
理 事 (") 福岡 勇
理 事 (") 三 厨 正
理 事 (") 小野 四郎
理 事 (一年目) 土井 一良
理 事 (") 北岡 源太郎
理 事 (") 万代 政治郎
理 事 (") 西林 長太郎

(委員長)

出席委員長 前田 幸蔵
財務委員長 鹿士 源太郎
会員委員長 石田 吉男
プログラム委員長 永井 賢城
会則委員長 細田 胖
情報委員長 大原 久之
視力保護 猿 渡 喜一郎
盲人委員長
青少年委員長 城戸 尚夫

国際委員長 島原 健一
事業委員長 石田 吉男
広報委員長 三輪田 元也
教育委員長 菅野 新太郎
厚生委員長 森岡 一郎
安全委員長 藤川 敏行
青少年交換計画 大堀 弘
委員長
接待特別委員長 武見 太郎

例会記録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15 例会場：帝国ホテル

7月13日 ゲストスピーカー 一竜斎貞丈氏
演題「話の話」
7月27日 メンバースピーチ 長谷部照正L
演題「外人の株式投資」
8月10日 映画上映「日本の鯨」
8月24日 メンバースピーチ 横山祐吉L
演題「最近の青少年」
9月14日 山口ガバナー公式訪問
9月28日 ゲストスピーカー 巖田圭子氏
演題「草絵の話」
10月12日 ゲストスピーカー 佐藤尚武氏
演題「国際眼の欠けた日本人」
10月26日 ゲストスピーカー 警視正 桜井基綱氏

演題「交通事故防止について」
11月 9日 メンバースピーチ 武見太郎L
演題「吉田元首相の思い出」
11月23日 ゲストスピーカー NHK平野宗義氏
演題「沖縄問題と日本の進路」
12月14日 ゲストスピーカー 俵萌子氏
演題「女の気持」
12月21日 クリスマス家族会 シアターレストラン
1月11日 メンバースピーチ 岡村 武L
演題「珍獣物語」
1月25日 新年会 福田家
2月 8日 ゲストスピーカー 東京銀行調査部長 竹内一郎氏

- 演題「今年の国際経済の見通し」
 2月22日 ゲストスピーカー 富士製鉄常務武田豊氏
 演題「心のからくり」
 3月14日 ゲストスピーカー 東京女子医大教授
 中山恒明氏
 演題「成人病で死なない方法」
 3月28日 メンバースピーチ 黒川直也氏
 演題「ライオンイズムに対する新時代の挑戦」
 4月11日 ゲストスピーカー 宮崎松記博士

- 演題「インド救済センターに関する報告」
 4月25日 ゲストスピーカー 伊藤忠兵衛氏
 演題「明治の貿易」
 5月 9日 ゲストスピーカー 浪越徳治郎氏
 演題「健康五原則」
 5月23日 映画上映 城北学園記録「明日の子供達」
 6月13日 映画上映「超高層霞ヶ関ビル」
 6月27日 委員長報告会

アクティビティ

- 8月 第13回全国大会で決議されたアジア救済・インドセンター援助として3年間1人300円抛金の第1回半期分として 6,350円
 9月 8月末の新潟方面の豪雨被災者にE7地区ガバナーを通じて送金 120,000円
 10月 安全委員会 全国交通安全運動旬間に(10月22日～10月31日)本年度スローガン“交通の災禍を絶とう愛の手で”の懸垂幕を都内10ヶ所に掲げ交通安全運動に協力 172,000円
 豪雨被害のためにチャーターナイト5周年記念を中止された佐世保L.C.に見舞金 2,000円
 11月 少年少女委員会 下記の3施設に贈呈、立源寺治生学園一電気冷蔵庫及びアイロン、聖友ホーム調理台・足洗場増築費、六華園洗面所改築費 350,000円
 12月 古衣類回収贈呈(第6回)年末に当り各会員の家庭より衣類をいただき、上智厚生事業団(愛児館)へ贈った65袋、20万円相当額、袋製作費(手拭代)19,240円
 少年少女委員会 クリスマスにお菓子及び会員の家庭より頂いた絵本約100冊を持つて立源寺治生学園、聖友ホーム、六華園を訪問

- 260,640円
 3月 教育委員会 奨学生12名に1人年額3万円の奨学資金を贈る。入学及び卒業祝として記念品を併せて贈呈(第8回) 370,400円
 視力保護盲人委員会 日本盲導犬協会へ 200,000円
 “母と子の交通読本”配布分担金(地区合同) 22,000円
 アジア救済協会インドセンター援助費として第2回分(全国合同) 6,300円
 4月 厚生委員会 下記6ヶ所に寄付金、アジア救済協会インドセンター、日本心身障害児協会、島田療育園、高年層貧窮者施設“同胞互助会”、全国重症心身障害児を守る会、小さな親切運動本部、日本聾話学校(聴能訓練用電話器3台) 490,000円
 5月 視力保護盲人委員会 日本点字図書館、読売光のプレゼント協会、盲老人ホーム聖明園へ 350,000円
 厚生委員会 東南アジア文化友好協へ第二次世界大戦東南アジア戦争孤児の救済基金10,000円
 十勝沖地震見舞(E3地区、E4地区へ) 200,000円



15周年記念事業のアクティビティにより消防庁長官より感謝状を受けた

17年度 1968年7月～1969年6月



(役 員)

会 長 酒 井 忠 博
前 会 長 樋 口 杲
第一副会長 田 中 勉
第二副会長 永 井 賢 城
第三副会長 福 岡 勇
幹 事 殖 栗 文 夫
副 幹 事 松 波 鉄 治
会 計 井 門 幸 男
副 会 計 小 山 田 泰 彦
ライオンテーマー 穴 沢 六 郎
副 ライオン テーマー 小 笠 原 秀 郎

テールツイスター 三 井 定 雄
副 テー ル ツ イ ス ター 前 田 幸 蔵
理 事 (二年目) 土 井 一 良
理 事 (") 北 岡 源 太 郎
理 事 (") 万 代 政 治 郎
理 事 (") 西 林 長 太 郎
理 事 (一年目) 朝 吹 英 一
理 事 (") 小 竹 永 三
理 事 (") 宮 野 武 雄
理 事 (") 坂 本 正

(委 員 長)

出席委員長 新 堂 喜 作
財 務 委 員 長 松 本 裕
会 員 委 員 長 大 原 久 之
プログラム委員長 榎 島 忠 三
会 則 委 員 長 石 関 信 助
情 報 委 員 長 芦 沢 大 義
視 力 保 護 大 堀 弘
盲 人 委 員 長 熊 野 達 夫
少年少女委員長

国際委員長 豊 田 治 助
事業委員長 城 戸 尚 夫
広報委員長 三 輪 義 明
教育委員長 古 川 正 重
厚生委員長 鹿 士 源 太 郎
安全委員長 大 橋 保 男
青少年交換計画委員長
接待特別委員長 樋 口 杲

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15

例会場：帝国ホテル

7月11日 委員会別懇談会
7月25日 ゲストスピーカー 東京アマチュア・マジ
ッシャン・クラブ会長 坂本種芳氏
演題「奇術よも山話」
8月 8日 ゲストスピーカー 特許庁長官荒玉義人氏
演題「特許は儲かるか」
8月22日 ゲストスピーカー 毎日新聞社外信部長
関口 泰氏
演題「アメリカ大統領選挙について」
9月12日 ゲストスピーカー 衆議院議員賀屋興宜氏
演題「長期並びに短期における日本の展望」
9月26日 ゾーン合同ガバナー公式訪問(柿本L代行)
10月11日 ゲストスピーカー 国鉄総裁石田礼助氏

演題「国鉄経営の問題点について」
10月24日 ゲストスピーカー 前民社党委員長 西尾
末広氏
演題「現在の政局と民社党の使命」
11月14日 ゲストスピーカー NHK元トンチ教室
青木一男氏
演題「お話の話」
11月28日 ゲストスピーカー 外務省顧問 前駐米大
使 武内竜次氏
演題「国際関係についての感想」
12月12日 ゲストスピーカー 日魯漁業(株)副社長
平野 起氏
演題「金太郎飴哲学の提唱」

- 12月19日 クリスマス家族会 シアターレストラン
 1月 9日 ゲストスピーカー 衆議院議員石田博英氏
 演題「21世紀までの諸問題」
 1月23日 新年会 宝ホテル
 2月13日 ゲストスピーカー 警視庁健康管理本部長
 梅沢 勉氏
 演題「老化を防ぐ」
 2月27日 ゲストスピーカー 富田重雄氏
 演題「医療漫談」
 3月13日 メンバースピーチ 名和クリニック院長
 名和能治L
 演題「成人病について」
 3月27日 ゲストスピーカー 野村総合研究所専務
 水上兵衛氏
 演題「昭和40年代の日本経済雑感」

- 4月10日 ゲストスピーカー 若築建設社長 日本ク
 ラウンレコード社長 有田一寿氏
 演題「産業界から見た大学問題」
 4月24日 ゲストスピーカー 前副知事 万博協会事
 務長 鈴木俊一氏
 演題「一年後に迫った万国博について」
 5月 8日 ゲストスピーカー 岩波書店会長小林勇氏
 演題「思い出の著者たち」
 5月22日 ゲストスピーカー 衆議院議員社会党
 堀 昌雄氏
 演題「金融の諸問題」
 6月12日 ゲストスピーカー 早稲田大学文学部長
 戸川幸男氏
 演題「大学紛争」
 6月26日 委員長報告

アクティビティ

- 8月 マニラ地震見舞 521,080円
 インド救ライ事業へ半期分(全国合同) 6,200円
 万国博覧会協力費半期分(全国合同) 14,880円
 10月 視力保護盲人委員会 老盲人ホーム聖明園建設
 資金募集チャリティショウ券10枚 15,000円
 11月 沖縄救ライ協力費(全国合同) 62,000円
 厚生委員会 心身障害児のための写真展へ寄付
 20,000円
 12月 少年少女委員会 中米コロンビアのクラブより
 の依頼により、会員より“おもちゃ”を集めて
 恵まれない子供達へ送る 36,660円
 厚生委員会 会員の各家庭の不要衣類を集めて
 愛児館へ送る65袋、袋手拭代 19,500円
 盲人委員会 歳末チャリティショウ券を購入し
 て聖母ホームへ贈る 35,000円
 1月 国際委員会 日比友好親善のためにマニラ市リ
 サール公園の日本庭園に石燈一基を寄贈
 150,000円
 1月 インド救ライ協力費半期分 6,200円
 万国博協力費(半期分) 14,880円
 世界大会記念事業
 2月 時計台建設および交通読本 製作配布(地区合
 同) 187,500円
 3月 教育委員会 高校奨学生12名に奨学資金および
 卒業祝として記念品 374,400円
 視力保護盲人委員会 日本盲導犬協会へ寄付
 350,000円
 4月 厚生委員会 小さな親切運動へ寄付 50,000円
 アジア救ライ協会インドセンターへ寄付
 100,000円
 心身障害児施設、島田療育園へ寄付 100,000円

- 5月 厚生委員会 沖縄風疹障害児(難聴児)救援の
 ため、補聴器代として寄付 130,000円
 ペオグラード市で開催される世界ろうあ者競技
 大会に日本選手団派遣費として、日本ろうあ体
 育協会へ 50,000円
 6月 安全委員会 交通受傷事故防止用器材4組を警
 視庁へ寄付 200,000円
 皇居外苑植樹緑化宮城附近の遊歩舗道に植樹を
 行ない北の丸公園へ灰皿50個を設備(16C 合同)
 60,000円



盲導犬と福岡(陽)L

18年度 1969年7月～1970年6月



(役 員)

会 長 上 田 常 隆
前 会 長 酒 井 忠 博
第 一 副 会 長 永 井 賢 城
第 二 副 会 長 福 岡 勇
第 三 副 会 長 古 川 正 重
幹 事 小 笠 原 秀 郎
副 幹 事 松 波 鉄 治
会 計 島 原 健 一
副 会 計 大 橋 保 男
ライオンテーマー 加 藤 栄 治
副 ライオン テーマー 石 黒 長 治

テールツイスター 白 川 国 三 郎
副 テー ル ツ イ ス ター 熊 野 達 夫
理 事 (二 年 目) 朝 吹 英 一
理 事 (〃) 小 竹 永 三
理 事 (〃) 宮 野 武 雄
理 事 (〃) 三 井 定 雄
理 事 (一 年 目) 別 府 英 一
理 事 (〃) 金 沢 辰 次 郎
理 事 (〃) 城 戸 尚 夫
理 事 (〃) 殖 栗 文 夫

(委 員 長)

出 席 委 員 長 三 浦 文 次 郎
財 務 委 員 長 三 輪 義 明
会 員 委 員 長 前 田 正 男
プ ロ グ ラ ム 委 員 長 細 田 胖
会 則 委 員 長 田 中 勉
情 報 委 員 長 山 根 実
視 力 保 護 守 田 俊 郎
盲 人 委 員 長
少 年 少 女 委 員 長 三 厨 正

国 際 委 員 長 鍛 冶 田 進
事 業 委 員 長 細 田 胖
広 報 委 員 長 竹 岡 稜 一
教 育 委 員 長 秋 元 時 一 郎
厚 生 委 員 長 山 口 季 次
安 全 委 員 長 森 岡 一 郎
青 少 年 交 換 計 画 委 員 長 光 野 健 之 助
接 待 特 別 委 員 長 三 崎 矩 光

例 会 記 録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15

例会場：帝国ホテル

7月10日 ゲストスピーカー 宮内庁管理部長兼皇居
造営部長 高尾亮一氏
演題「宮殿の屋根」
7月24日 ゲストスピーカー 日本原子力発電(株)社
長 一本松珠氏
演題「エネルギー源としての原子力発電」
8月14日 ゲストスピーカー 共同通信社論説委員長
太田康正氏
演題「ニクソンのアポロ外交と日米関係」
8月28日 ゲストスピーカー 三井高圧化学(株)シス
テム部長 一橋大学講師 石原善太郎氏
演題「コンピューター利用と企業経営」
9月11日 ゲストスピーカー 落語家 柳家小さん師
匠

演題「落語よもやま話」
9月25日 ゲストスピーカー 三菱経済研究所所長
町田一郎氏
演題「システム化とは」
10月 9日 ゲストスピーカー 日本棋院名誉九段
瀬越憲作氏
演題「囲碁雑感」
10月23日 メンバースピーチ 有竹鳥獣店専務 有
竹隆L
演題「南米動物記」
11月13日 世界大会記録映画「ひとつの光が」
11月27日 メンバースピーチ 上田常隆L
演題「台北ではえるアジアの獅子会」(ア
ジア大会報告談)

- 12月 9日 ゲストスピーカー 東大名譽教授平井敦氏
演題「本洲、四国連絡橋の問題点……特に
長大吊橋について」
- 12月18日 クリスマス家族会 シアターレストラン
- 1月 8日 ゲストスピーカー 富士銀行常任監査役
紅林茂夫氏
- 1月22日 新年会 喜可久
- 2月12日 亀井ガバナー公式訪問
- 2月26日 ゲストスピーカー 警視總監 秦野 章氏
演題「70年代の諸問題」
- 3月12日 ゲストスピーカー 日本ナショナルトラスト
西阪文雄氏
演題「日本ナショナルトラスト」

- 3月26日 ゲストスピーカー 東大教授 大島正光氏
演題「月旅行の裏話」
- 4月 9日 メンバースピーチ 藤間 豊L
演題「六代目尾上菊五郎の思い出」
- 4月23日 年次大会(4/12例会) 振替 日本武道館
- 5月14日 ゲストスピーカー 毎日新聞社外信部副部
長 前ソウル特派員 石川 昌氏
演題「特派員報告—最近の韓国事情」
- 5月28日 ゲストスピーカー 菅原通済氏
演題「薬物乱用」
- 6月11日 ゲストスピーカー ケンブリッジ・リサー
チ研究所所長 今井正明氏
演題「70年代の生甲斐」

アクティビティ

- 7月 インド救ライ事業協力費(地区合同) 6,150円
冬季オリンピック協力費(地区合同) 29,520円
- 10月 渋谷C主催の精薄児施設旭出学園援助のために
行なわれたチャリティショーの入場券20枚購入
16,000円
- 10月 9日 眼の日に行われたライオンズアイバン
ク主催のチャリティショウ入場券30枚購入
9,000円
(アイバンクではこの利益により盲人用時計を
盲人に贈る)
- 11月 視力保護盲人委員会 地区視力委員会合同事業
費として拠金 30,000円
- 12月 厚生委員会 盲精薄者の援護施設光道園(福井
県鯖江市)へ寄付(手さぐりでこの子らの手を
ひいての本100冊購入費) 28,000円
- 1月 東京都警察懇話会へ寄付(1R,1Z) 100,000円

- 2月 インド救ライ協力費として(地区合同) 6,050円
- 3月 安全委員会 子供の交通安全教育に使用するオ
ーバーヘッド・プロジェクター2組と安全教育
フィルム3巻を警視庁交通部に贈呈。353,000円
- 教育委員会 高校生12名へ奨学資金, 新入生4
名と卒業生4名へ記念品を贈呈 373,600円
- 4月 視力保護盲人委員会 日本盲導犬協会へ寄付
450,000円
- 5月 厚生委員会 アジア救ライ協会インドセンタ
ー, 島田療育園, 小さな親切運動本部, 全国重
症心身障害児を守る会, びわこ学園へ贈呈
450,000円
- 5月5日(子供の日)に千代田Cのスポンサーで
結成されたレオクラブへお祝金として25,000円
- 6月 第9回東洋及び東南アジア大会協力費60,000円



上田会長と10年会員表彰(西林, 秋元, 島原, 三厨, 別府の各L)

19年度 1970年7月～1971年6月



(役 員)

会 長 永井 賢城
前 会 長 上田 常隆
第一副会長 福岡 勇
第二副会長 古川 正重
第三副会長 前田 幸蔵
幹 事 朝吹 英一
副 幹 事 前田 正男
会 計 大橋 保男
副 会 計 持田 信夫
ライオンテーマー 石黒 長治
副 ライオン テーマー 式場 聡

テールツイスター 熊野 達夫
副 テーラー ツイスター 三浦 文次郎
理事(二年目) 別府 英一
理事(〃) 金沢 辰次郎
理事(〃) 城戸 尚夫
理事(〃) 殖栗 文夫
理事(一年目) 藤間 豊
理事(〃) 小笠原 秀郎
理事(〃) 島原 健一
理事(〃) 白川 国三郎

(委 員 長)

出席委員長 長谷川 万治
財務委員長 若林 法雄
会員委員長 土井 一良
計画委員長 豊田 治助
会則委員長 鹿士 源太郎
情報委員長 槇島 忠三
視力保護 金子 為雄
盲人委員長
少年少女委員長 牧野 増雄

国際委員長 浜本 正勝
事業委員長 土井 一良
広報委員長 長谷部 照正
教育委員長 浮田 祐二
厚生委員長 小宮山 宇一
安全委員長 宮野 武雄
青少年交換計画 成田 清治
委員長
接待特別委員長 岡村 武

例会記録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15

例会場：帝国ホテル

7月9日 映画上映「和菓子」細田 胖L
7月23日 ゲストスピーカー 松木天村氏
演題「70年はどう変わるか」
8月13日 ゲストスピーカー 国家公安委員 津田正
夫氏
演題「その後の治安問題について」
8月27日 メンバースピーチ 福岡陽道L
演題「奇態な数」
9月10日 ゲストスピーカー 最高検察庁検事総長
竹内寿平氏
演題「少年法改正の問題点」
9月24日 交通安全映画上映「危い…あなたの子が」
10月8日 ゲストスピーカー 京大名誉教授岩村忍氏

演題「北アジアを通じての東西文化交流について」
10月22日 ゲストスピーカー お茶の水女子大講師
東畑朝子氏
演題「老化を防ぐための食事」
11月12日 ゲストスピーカー 日本国連協会副会長
日高信六郎氏
演題「国連への期待」
11月26日 ゲストスピーカー 東京医科歯科大教授
島本多喜雄氏
演題「動脈硬化のお話」
12月10日 ゲストスピーカー NHKアナウンサー
大塚利兵衛氏

- 演題「情報化時代」
- 12月18日 クリスマス家族会 富士の間
- 1月14日 上田ガバナー公式訪問 1R 17合同
- 1月28日 新年会 喜可久
- 2月12日 ゲストスピーカー 少年友の会理事長
大浜英子氏
演題「非行少年に愛情を」
- 2月25日 ゲストスピーカー 国民経済研究協会会長
稲葉秀三氏
演題「最近の日本経済の動向」
- 3月11日 ゲストスピーカー 共同通信 ジャパンタ
イムス社長 福島慎太郎氏
演題「最近における国際情勢—特に中国問
題を中心として」

- 3月25日 ゲストスピーカー 日興証券常務 梅村正
司氏
演題「最近の株式市況」
- 4月 8日 映画上映「魚市場の一日」
- 4月22日 ゲストスピーカー 漫画家 岡部冬彦氏
演題「現代と笑い」
- 5月13日 ゲストスピーカー 交通遺児育英会専務理
事 玉井義臣氏
演題「交通遺児について」
- 5月27日 メンバースピーチ 守田俊郎L
演題「良き人達」
- 6月10日 ゲストスピーカー 玉川上水管理事務所所
長 小島貞男氏
演題「下水を飲むか海水を飲むか」
- 6月24日 委員長報告会

アクティビティ

- 8月 冬季オリンピック協力費 29,280円
ボーイスカウト世界ジャンボリー協力費(全国
合同) 61,000円
- 9月 日本点字図書館チャリティショウ協力費
12,000円
第9回東洋東南アジア大会参加シスターC会員
招待費 21,600円
- 10月 視力保護盲人厚生委員会 地区視力保護盲人委
員会アクティビティ協賛金として 60,000円
ライオンズ・アイバンク・チャリティショウ協
力費 10,000円
- 11月 地区青少年交換計画委員会協賛金 120,000円
千代田レオクラブ協賛金 120,000円
原宿C野球招待会協賛金(施設の子供, 老人招
待) 5,000円
- 12月 厚生委員会 アジア救ライ協会インドセンタ
ー, 島田療育園, 全国重症心身障害児を守る会,
東京善意銀行へ寄付 400,000円
故高橋貞太郎Lご遺族より50万円を当クラブに
寄付されたのでご遺志によりアジア救ライ協会
インドセンターへ寄贈
- 1月 東パキスタン風水害救援金, フィリピン台風災
害救援金を日本赤十字社を通して送金
188,800円
- 1月 インド救ライアクティビティ協賛金(地区合同)
24,200円
- 2月 少年少女委員会 東京家庭裁判所内少年友の会
(非行少年保護施設)へ 200,000円
東京家庭学校および聖友ホーム(養護施設)へ
カラーテレビ2台寄贈 180,000円
聖フランシスコ子供寮(養護施設)へ建設資金
として寄付 90,000円
ボーイスカウト世界ジャンボリー協力費として
(全国合同) 60,500円
- 3月 教育委員会 高校生12人へ奨学資金, 新奨学生
4人および卒業生へ記念品贈呈 380,800円

- 武蔵野C主催チャリティショウへ協力10,000円
- 4月 盲人用電話交換機を購入し, 盲人電話交換手1
号の牧康子さんへ貸与(年次大会記念事業 100
万円) 200,000円
皇居外苑緑の会植樹(苗木300本, 花820株)
を皇居外苑保存協会へ贈呈(19C合同) 60,000円
教育委員会 小さな親切運動本部へ 50,000円
- 5月 視力保護盲人委員会 日本盲導犬協会へ施設建
設基金として寄付 400,000円
安全委員会 交通遺児育英会へ奨学資金として
350,000円
厚生委員会 久留米養護学校へ 100,000円
- 6月 教育委員会 今年で12年になった奨学生および
卒業生を招待して座談会を開催 70,556円
国際委員会 国際協会本部へ寄贈する日本庭園
協力費 18,150円



クリスマス家族会 熊野, 豊山, 鈴木の各委員

20年度 1971年7月～1972年6月



(役 員)

会 長 福岡 勇
前 会 長 永井 賢城
第一副会長 古川 正重
第二副会長 前田 幸蔵
第三副会長 豊田 治助
幹 事 森岡 一郎
副 幹 事 小宮山 宇一
会 計 持田 信夫
副 会 計 城戸 尚夫
ライオンテーマー 式場 聡
副 ライオン テーマー 金沢 辰次郎

テールツイスター 三浦 文次郎
副 ティー スター 川辺 正夫
理 事 (二年目) 藤間 豊
理 事 (") 小笠原 秀郎
理 事 (") 島原 健一
理 事 (") 白川 国三郎
理 事 (一年目) 石黒 長治
理 事 (") 中沢 彦七
理 事 (") 大橋 保男
理 事 (") 若林 法雄

(委 員 長)

出席委員長 大原 久之
財務委員長 金子 達一
会員委員長 殖栗 文夫
計画委員長 鈴木 武
会則委員長 酒井 忠博
情報委員長 中根 麟之助
視力保護 森末 新一
盲人委員長
青少年委員長 三井 定雄

国際委員長 浜本 正勝
接待特別委員長 永井 賢城
事業委員長 大原 久之
PR委員長 松本 裕
教育委員長 倉橋 泰史
厚生委員長 藤井 寛
安全委員長 滝浦 潤
青少年交換計画 横山 祐吉
委 員 長

例会記録

例会日：第 2, 4 (木) 12:15

例会場：帝国ホテル

7月 8日 ゲストスピーカー 日本山岳協会会長
松方三郎氏
演題「エレベートの登攀について」
7月22日 ゲストスピーカー サンケイ新聞社政治部
長 山根拓二氏
演題「内閣改造後の展望」
8月12日 メンバースピーチ 国際理事 迫水久常L
演題「時局漫談」
8月25日 ゲストスピーカー 日本経済新聞社論説委
員 斎藤志郎氏
演題「アメリカのドル防衛」
9月 9日 ゲストスピーカー 前通産省重工業局長
赤沢璋一氏

演題「日本重工業の内面」
9月23日 ゲストスピーカー ライフ・コンサルタン
ト浅野八郎氏
演題「初対面の鑑識法」
10月 1日 鈴木ガバナー公式訪問 1R, 1Z 合同 パレス
ホテル
10月28日 ゲストスピーカー 参議院議員 安西愛子
氏
演題「歌と人生」
11月11日 ゲストスピーカー 日本航空会長 松尾静
麿氏
演題「両陛下ご訪欧の大任を果たして」
11月25日 ゲストスピーカー 毎日新聞編集局長

- 兼社会部長 畑山 博氏
演題「ニュースの裏話」
- 12月 9日 ゲストスピーカー 順天堂病院教授 中島章氏
演題「女性とコンタクトレンズ」
- 12月16日 クリスマス家族会 富士の間
- 1月13日 ゲストスピーカー 作家 安岡章太郎氏

- 1月27日 新年会（於喜可久）
- 2月 1日 ゲストスピーカー 帝国ホテル取締役料理長 村上信夫氏
演題「西洋料理あれこれ」
- 2月24日 ゲストスピーカー NHKチーフアナウンサー 鈴木健二氏
演題「日本人と奉仕」

アクティビティ

- 8月 青少年交換計画委員会 青少年交換計画協賛金として拠出 119,000円
- 9月 青少年交換計画委員会 台北中央Cと佐賀葉がくれCとの青少年交換で来日した台北の子供たちを会員の家庭に宿泊させた
都内見物・土産品等費用 60,665円
- 10月 少年少女委員会 山梨県塩山市乾徳山恵林禅寺修養道場建設費 100,000円
- レオ委員会 千代田レオクラブ協賛金

- 118,000円
アジア救ライ協会インドセンターへ（地区合同） 35,400円
交通遺児育英基金へ（地区合同） 23,600円
- 11月 厚生委員会 アジア救ライ協会インドセンター、愛隣会、全国重症心身障害児を守る会、東京都心身障害者福祉センター、全日本精神薄弱者育成会へ寄付 410,000円



クリスマス家族会委員（福岡会長、酒井、浮田、朝吹の各L）と歌手島田祐子、ピアノ奏者福田富美子の両嬢

「開眼」——リッチランド基金——

守 隨 乙 作

まごころのこもったサービスほど人の心を動かすものはない。しかもその余韻はオアシスのごとく次から次へと旅人の渴きをいやす。眼疾のためにまさに失明せんとしていた青森市の市川少年は、米人青年牧師 Halvarson に伴われて県立中央病院を訪れた。診断の結果は即刻入院手術を必要とし、費用は概算5万円。それも確実に視力が回復するかどうか、やってみなければわからないということであった。

不幸な少年は暗然とした。この貧しい少年に5万円はあまりにも大金であった。しかし Halvarson はひるまなかつた。彼は米国のリッチランドの母親のもとにこの援助を依頼した。伯父の Mr. Huckleberry がライオンズのメンバーであった。ただちに役員会が開かれて青森市へ承諾の電報が打たれた。非常な速度で。

リッチランド・クラブはその金を東京クラブから手渡して欲しいといってきた。東京クラブの役員会は緊張した。保護を受けるのは日本の少年であり、サービスを申し出たのは海を越えた他国のクラブである。東京クラブでは、この青森の失明少年を開眼させるのに要する費用を負担することに決めた。そしてリッチランド・クラブからの送金は東京クラブにおいてリッチランド・ライオンズクラブにおいてリッチランド・ライオンズクラブ眼科手術基金と名付け、視力保護のために永久にサービスしてもらうことに定め、リッチランド・クラブの承認を得た。

以上のことは、青森の東奥日報に「愛の光は国境を越えて」と題し、また Columbia Basin News に "Ichikawa is getting along just

fine" の見出しの下に詳細に報道されてから、大平洋の兩岸でがぜんさわがしくなってきた。シカゴの本部からは、この話の経緯とリッチランド基金の様子を知らせよといってきた。青森市ではこの話がもとになって、12月12日東北地方最初のライオンズクラブが誕生した。

リッチランド基金第1号として2万円が市川少年に、第2号として板橋の養育院に眼鏡が贈られ、いままで新聞も読めなかった大勢の老人たちを喜ばせた。3番目に2万円をまた市川少年へ。

これらの支出はその都度クラブの定例会合で会員から拠金せられて、リッチランド基金は依然として贈られたときのういういしい姿で東京クラブのバランスシートを飾っている。これは衛生厚生委員会の所管である。

私はこの一連の事柄を通じて、人々がそのポイントにおいて実にナイス・ショットを打っていることに深い感激を覚えた。ライオンズクラブのメンバーともなれば、5万円くらいの金はことと次第によってはだれでも喜んで寄付してくださるものと信じている。しかしこの関係者が自分もサービスをしながら、他人にもサービスの機会を与えるという崇高な精神を随所に発揮されていることを見て、私は感激に震えるのである。

ライオンズの印刷物には、いたるところに "We Serve" "It is great to be a Lion" という文字を見る。私はこの言葉の意味がほのぼのと自分の心の目に映ることを感じた。

(東京クラブ会報1956年7月号のクラブ活動抄録欄より)

すずらん給食の藪川をたずねて

藤 沢 良 雄

あれから6年半が経過し、時代の変遷で生徒は卒業し、村長、校長も交代して当時のことを知る人も少ないと思うが、東京クラブのご協力と上田常隆がパナール協議会前議長のご支援でまれにみる好成績を得たアクティビティが、今日どのように残されているかを報告する義務があると考えて、9月29日東京を出発して現地におもむく。

盛岡へ着いた時、岩手山には例年より20日も早く雪が降っていて、きびしい冬の高冷地藪川の様子を案じながら村役場を訪問。

「村では、村内の地域格差をなくするため交通網の整備に力を注いでいる。藪川地区も48年度には道路が全面舗装せられる予定で、本村の学校給食センターから配食できると期待している。啄木記念館ができて観光客も多くなり、本村もクローズ・アップされて来た」

（玉山村長、米島重悦氏）

「停年退職して盛岡市郊外に居住し、卒業者の就職あっせんに努力している。埼玉県所沢、川越方面の病院へ就職させた十余名の看護婦たちに、そば粉と山芋を持参して『そばとろ』をつくり、きのこ汁をごちそうして郷里をしのばせ大変喜ばれている。彼女たちの中には勤務の余暇に定時制高校に通う者もあり、大変張り切っている。辺地の子供にも良いチャンスを与えると格段の張り切りをみせ、立派な社会人になることを知り喜んでいる」（元校長 宮五郎先生）

「県内各地の辺地校は全般に生徒数が減少しています。この地域も分校及び小学生は、当時合計181名おりましたが、現在140名です。川場分校には3名の児童がおりましたが、4年生になったので閉鎖してこの学校へ通わせております。明年は4人の新入生があるのでなんとか方法を考えなければなりません。県も僻地校の教育には力を入れてくれております。この中学校には生徒数32名に対し教員7名が配属されており、師弟の間柄も良

く、実に穏やかです。

すずらん給食運動のとき、佐藤首相が花巻空港に到着の際にすずらんを差し上げた千葉まさ子さんは、卒業後愛知県の東洋紡に就職し、勤務の余暇に定時制高校を卒業、鈴鹿大学教養学部に進み、ことし夏休みに帰郷して2週間この学校で訓練しました。学校卒業後は郷里に帰って児童の教育に専念すると申し出ておりました。私たちはこういう若い人たちの養成にいいしれぬ楽しみを覚え努力しております。辺地の子供を平地の児童なみに育てるにはたくさんの問題が山積みしております。落ちついて長く住む教員が必要ですがなかなか得られません。運動競技等を通して村内、郡内の他校の児童と交わることも児童の意識高揚に役立ちます。さきごろ平地の学校の運動会に出て入賞した者がおり、一般の児童もやればできるという自信を得ましたが、集団で出かけるには交通費の問題があります。幸い本校には新しい体育館ができて冬期間も室内競技の練習ができるので、先生も生徒も大変喜んでおります」（藪川中学校校長 鈴木貞雄先生）

10月4日の岩手日報に「心尽しの山のさち」という記事があった。東京杉並の飯塚さんほか2名は、昭和44年から一関市の3級辺地校まつるべ分校へ図書や文房具、菓子等を送り、手紙をやりとりしているうちに児童たちと仲良しになった。子供たちは東京のおじさん3人を分校に招待するため山菜採りで旅費を生み出し、不足分はPTAが負担することにして、紅葉が美しい3日に招待が実現した。すずらん給食に似たケースである。

僻地にはこうした人情があり、都会の人たちも僻地に関心を寄せる。ライオンズクラブの友愛の精神が実を結んだものと感謝し、ほほえましい心持ちで上野行き列車に乗り込んだ。

（元東京クラブ会員）



第52回世界大会（武道館）の両陛下



L武見のサンタクロースとL上田

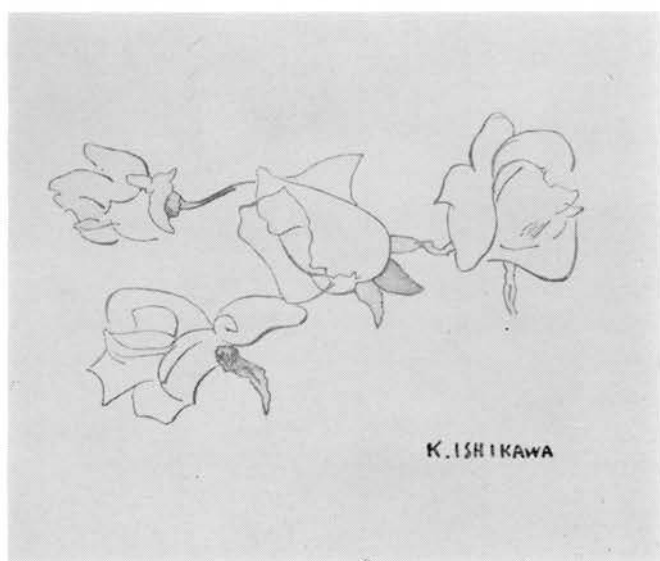


ご気嫌のL藤間（尾上松緑）と樫山文枝さん



15周年で表彰された歴代幹事

歴代会長回顧録



石川欣一画「ばら」

日本ライオンズクラブの原点

初代幹事 塩 原 有

日本ライオンズクラブの結成された経緯については、日本ライオンズ10周年に際して発行された「日本地区十年史」に、西郷徳男Lがきわめて正確かつ詳細に記述されているので重ねて述べることは避ける。当時の関係者のひとりとして、日本のライオンズにぜひ知っておいていただきたいことを申し述べることにする。

東京クラブがマニラクラブをスポンサーとして結成されたことは周知の事実であるが、なぜマニラクラブがスポンサーになったか。1952年（昭和27年）当時の日本とフィリピンとの関係を顧みると、もちろんまだ国交回復していないのみならずフィリピン人の一般対日感情はきわめて陰悪な時代であった。現駐比大使ト部敏男氏の話でも（当時参事官としてマニラ在勤）、官邸の近くの橋の上から「バカヤロウ」と罵声がとんだほどであった。同年2月、津島寿一元蔵相が全権として賠償交渉に行ったが、交渉成立せずに帰国している。

そんなさなかにマニラクラブが東京クラブのスポンサーとなったのは、当時の国際理事マヌエル・ゴンザレス氏（元マニラクラブ会長）をはじめマニラクラブの寛容の精神の発露にほかならない。マニラクラブは、東京クラブより3年前にハワイのクラブがスポンサーでできたので、そんなに古い歴史はない。ハワイがスポンサーになるというならだれもが当然の成り行きと思ったかもしれない。

昭和27年にホテル帝都で日本ライオンズクラブの第1号東京クラブが発足し、3月21日のチャーター・ナイトにシカゴから第1副会長エルバート氏、マニラからゴンザレス氏が飛んで来た。ゴンザレス氏はその演説のなかで、「フィリピンは今次の戦争によって多数の人材を失い、物質的、精神的にいうにいわれない被害を受けた。しかしそれは戦争だから水に流して、ライオンズの組織を通してお

互に手を取り合って行こう」といつてくれた。“Let bygones be bygones”という言葉を使った。その言葉は私の耳にいまでもはっきり残っている。

当日出席された村田省蔵先生はじめ石川Lや私ども日本とフィリピンの国交回復に努力していた者には全く頭の下がる思いであった。被害を与えた日本側からは、過去をして過去たらしめようなどといえた義理ではない。また被害を受けた方からもなかなかいえるものではない。非常に勇気のいることである。

ライオンズクラブでは何かあると寛容の精神というが、これほどあざやかに寛容の精神を身をもって示した例がほかにあるだろうか。この意味において、私は日本のライオンズクラブの原点は寛容の精神から成り立っているといいたい。東京クラブ結成の経緯は、世界にライオンズクラブ多しといえども、特筆大書すべき事例であると私は確信する。

ライオンズクラブは他クラブ（国内、国外とも）とよく姉妹クラブの関係を持って友好を深めている。東京クラブでもマニラクラブの要請によって、1968年11月8日マニラにおいて調印式を行なった。このときは同時に、マニラクラブと韓国のソウルクラブも姉妹クラブの調印式を行なったが、ソウルより15,6人のメンバーが飛行場からまっすぐ式場に駆けつけた。わが東京クラブは私と福岡勇Lのたったふたりでたいへん淋しい思いをした。

ちなみに日本のライオンズクラブが海外のクラブと姉妹関係を結んだ数は、台湾が圧倒的に多く26、韓国9、アメリカ、カナダ16、フィリピンは、私の知るかぎりでは東京クラブとマニラクラブ、名古屋金城クラブとパギオクラブ、東京数寄屋橋クラブとラスピニアスクラブ、東京赤坂クラブとサンパブロクラブの4つにすぎない。もう少し交流があってもよいのではないかと思う。

例会運営に苦心

1953年6月、初代会長石川欣一Lより話があり、次期会長は大原がやるようにとのこと。私はまだライオンズクラブのことについて十分のみこめていないし、また他に立派なメンバーがおられるので極力辞退したのだが聞き入れられず、これは全メンバーの一致した推薦だから辞退しては困るということで、ついに2代目会長を引き受けた次第である。

東京クラブはいうまでもなく前年1952年3月、フィリピン、マニラクラブがスポンサーとして日本に初めて設立されたライオンズクラブであり、当時のチャーター・メンバーは56名（うち外国人21名）であった。1953年6月までの退会者29名、新たに入会された方もあり、引きついだときのメンバーは36名であった。

その後1年間の会員移動は新入会者12名、退会者8名、死亡1名で、新入会者には永野護L、田口連三L、中沢彦七Lなどの有力な方々がおられた。

ところで、その当時の出席率を見るとはなはだ悪く、1年間を平均して48%、最もひどい例会では6、7人というときもあった。

この出席率の悪い理由を考えると、要するに例会が面白くないことである。すなわち、クラブメンバーに外国人が多く、例会の雰囲気が外人に占められて日本のメンバーは会場の片すみに小さくなっている有様であった。占領下という特殊な環境に置かれているとはいえ、なんとか例会を愉快なものにしなければならぬと真剣に考えたものである。

その後1954年5月ごろになると例会の空気

第2代会長 大原久之

も次第に明るくなってきて、なんとしても良いメンバーをふやそうという気運が盛り上がり、100名を目標として会員増強運動が強力に進められ始めた次第である。

当時のゲスト・スピーカーの記録をたどってみると、

東京タイムス社長岡村二一氏

「話術について」

小林辰四郎L 「欧米を巡って」

大原久之L 「フィリピンの現状と

日比親善」

田口連三L 「台湾の話」

宮田重雄L 「ヨーロッパをめぐる」

星嶋二郎L 「最近の欧米事情」

福田太郎L 「欧米各国のLCの発展

について」

朝日新聞社参与浜田恒次郎氏

「ヨーロッパの政治動行について」

古川緑郎氏 「銀座八丁裏表」

永野護L 「フィリピンより帰って」

日本癌研究所放射線科長塚本憲甫氏

「水爆による放射線癌について」

日本テレビ福井近夫氏 「テレビについて」

日赤子供の家松田修氏「孤児、混血児の問題」

などである。

なお当時の事務局の方をふり返ってみると、東京クラブの創立以来事務を担当してきたO君が事務上の問題を起こし、ついに彼を解任して1953年11月、千葉小枝子嬢が新たに事務担当者として任命され、今日に至っている次第である。

最古参クラブの真価

第5代会長、いまは亡き永野護ライオンのもとで、私は第一副会長をつとめた。永野ライオンは当時、岸内閣の運輸大臣として非常に多忙の身であったので、例会に毎回出席することはとても無理な状態であった。事実、このことを条件として永野さんは会長を引き受けられたのである。したがって私はその年度、つまり1956～57年のほとんど、会長代理をつとめさせられることになった。その翌年度（1957～58）東京ライオンズクラブの第6代会長に推された私は、実際には1年半近くの任期をつとめたわけである。

当時をふり返って、会長時代の主な思い出を心にさぐるとき、その期間の長かったのにくらべて、私個人の非力を知り、みじめな気持ちになる。もし親切な人がいて、在任中の業績を指摘してくれたとしても、それらはあげて、当時の幹事で、後に17代会長となられた酒井忠博ライオンと、クラブ会員によって私のために選ばれた役員の方々の行動力と、熱意と献身的奉仕に負うものである。これらすべての方々に心からお礼を申しあげる。

私の個人的体験をとおして、一般的観察をふたつあげてみよう。日本ライオンズのこれからのクラブ運営の参考にもなると思う。ひとつは、クラブ幹事の地位と役割に関する、日本に独特な、特質的一面である。日本以外の多くの国ぐにのクラブ幹事の役割は、事務処理補佐役といったものだが、日本におけるクラブ幹事はあたかも米合衆国大統領にたいする国務長官の役割に似ている。米国の国政を研究するものなら誰でも知っているとおりに、大統領は国家の最高政策に関しては、副大統領よりも国務長官に大きく依存しているのである。このことから導き出す私の結論は（1）幹事になる人は会長と同等の資格を有すること、（2）会長の全き信頼を得、（3）会長の無条件の承認のもとに選出され、最後に、（4）それに反対する根拠のないかぎり、幹事

第6代会長 浜 本 正 勝

としての任期終了後最も早い機会に会長に選任さるべきである。この結論は副幹事の選考にもそのままあてはまる。この場合、次期会長のもとで正幹事をつとめられるか否かが、選考を大きく左右するからである。この慣行が履行されれば、会長の運営方針の持続性という好結果も生まれる。つぎにこの問題にふれよう。

会長をつとめた人なら誰でも知っているとおりに、12カ月という短期間では、どれほどのこともなしとげられないものである。就任まもなく、永野会長は守随幹事と私を呼んで、方針の持続性に重点を置こうといわれた。われわれとしては、会員同志のむすびつきをつよめ、ゆるぎなく、とけ合ったクラブづくり重点をおきたい、そのためには会員拡大計画を見送ることも止むを得ないという考えであった。ライオンズクラブとは、その真髓において、社会全体の人間同志と幸不幸をともにするという、同じ考えに立つ人々のあつまりであるからして、この精神とその実践活動とは、まずそのクラブ内において実施されるのが道理というものであろう。すなわち、ことわざに教えるとおりに、「慈愛は家からはじまる」である。自明であるがゆえに忘却される例は、人間世界では実にありふれたことなのである。私のいわんとするところは、新任の会長がいかにか具体的な概念をもっている、その概念の実践とか運動とかはその任期中には達成不可能だということである。少なくとも、3期ないし4期、継続するだけの価値がない概念や運動は、はじめからクラブの基本方針としてとりあげるべきでない。

最後にひとこと、考えをのべて結びとした。日本最古参クラブとしての真価は、すべての点において、事実上日本の最高クラブたることにある。然らずんば、それは東京ライオンズクラブにとって価値のない単なる歴史的事件にすぎないものとなるであろう。

追われ通しの1年

私が会長だったのは、今では十年ひと昔前のこととなってしまった。先任会長6人のうち、石川欣一、高橋貞太郎、永野護の各Lはすでに他界され、小林辰四郎Lは退会、大原、浜本両Lのみが毎例会でお目にかかれる。当クラブ20年目の姿である。

数限りない楽しい思い出、日本ライオニズムの風習となったと思われる企てもあった。
☆ライオン誌日本語版発刊

世界9番目の外国語版として発行が許され、1958年7月から実現した。昨今の目ざましい発展は年間百万部の発行となり、英語版に次いで他を大きく引き離しているのはまことにうれしい。広告媒体としての価値を高く評価したスイスからは博覧会関係の広告依頼が来たり、靖国神社々頭の狛犬の表紙に関して西独では故事来歴を詳しく知りたがったり、インド、豪州からは掲載記事の英訳を求めて来た。今日までの同誌の発展は日本の大きな誇りである。

☆宮本純子嬢

終戦後、満州から引き揚げた26、7歳の宮本嬢はブラジルに渡って、日本移民の子供たちの毎日の姿に心を痛めた。畑に、原始林に両親が働きに出て、あばらやに残る幼児をなんとか育てねばと決意した彼女は、まず母国に帰ってリーダー・ダイジェストを訪れた。われらの同人殖栗Lが彼女の切なる申し出を東京クラブに持ち込まれたのである。日本橋クラブにも呼びかけて、当時としては最高級のソニー・テープレコーダーを調達した。日本の幼稚園での童謡、遊戯、教育示唆の数々と日本橋クラブ福島Lと私の言葉が吹き込まれて、遠くブラジルに持ち帰られた。現地では放送の電波にもとり、テープは大切にパラナ州の施設に保存されているという。またこの幼児教育施設は、在米北邦人の援助も大きく加わって、今日では立派な組織に発展しているとのことである。

第7代会長 福岡陽道

☆豪州からバナナ女王

Murwillunba Lions Club が後援した Tweed Banana 祭で選ばれたバナナ女王 Miss Glenice Harry が母親とともにご褒美の日本観光に来て、われわれをたずねて来た。鍛冶田Lの協力を受けて、まず横浜に着いた巨船を出迎えた。当方側はかつてのミス東京に同行してもらった。Miss Harry は日本女性の美と才知には度胆を抜かれたらしく、愚問賢答の数々。爾来ご両人の日本理解と親近感は深められている。毎年クリスマス・カードをもらい続けているし、女王は2児の母となったとの知らせももらっている。

☆日本に出来ない年は死んでいる

シドニー、Kagaragh Lions Club の W. J. Bale は足が不自由なのに毎年日本に来て、妻を失った悲しみを癒している人である。英語が全くわからない横須賀の小さい宿屋の親切に打たれて以来そこを常宿にして、横須賀線を利用して日本橋、渋谷といったクラブを訪問している。バス会社の経営をむすこに譲って、毎年の訪日に生きがいを感じるといふ。電車の中でも往来でも、自分の荷物はいつのまにか見知らぬ日本人が持ってくれている。席はどこにでも用意されている。本国の同国人からこのような好意を受けたことはいっぺんもない。私の親類は1億に近い日本人です。東京駅横須賀線ホームに送ってあげた時の涙を溜めた彼の言葉である。別れ際に千円札を出して、東京クラブの基金に黙って入金して下さいといった。その後何度も来日しているらしい。前記のことがあって3年目、1962年3月、英文読売に「日本人に感謝しきれない」の投書に同Lの署名があった。彼が私に残した最後の言葉は、「日本に出来ない年が来たら、死んだと思って下さい」。このごろ気にかけて仕方がない私である。

思い出の深い、楽しい、だが追われ通しのなんとなく忙しい1年であった。

在任中の回想

私の手元に、1953年7月から54年6月当時の東京クラブの役員、委員および会員の名簿がある。302 地区ガバナーは石川欣一Lで前会長、会長は大原久之L、会員は39名となっている。

私は、1954年、式場隆三郎Lの紹介で入会した。この名簿を見ると、その後の退会、転籍、死去等を除いて、現在も会員である方々は9名ではないかと思う。

初代会長の石川欣一Lがなくなれたのは1959年の夏、私が8代会長に選ばれて間もないころであった。石川Lには、入会当初から新参の会員としてなにかとご指導を受けた。会長に就任してからはなお一層ご助言を期待していたのに、私にとっては大きな柱が突然倒れ落ちたようなショックであった。

私は、石川Lの言動の中から本来のライオニズムの真髄を読みとれるように思ったのである。もっとも、人間のことだから長所もあれば短所もある。私は石川Lを偶像化しようとしたのではないが、私にとっては味わいのあるひとつの人間像として心の中に強く焼き

第8代会長 小野 哲

つけられたのである。これは全く私の個人的な問題で、客観的なものではない。

わが国のライオンズクラブの偉大な発展過程において、社会とのつながりの中で多くの奉仕活動を行ない、外観から見て多少の変化があったことは事実である。しかし、その本旨にはなんら変わったものがないはずである。最近、原点にかえろうといわれている。この意味を考える必要があるのではないだろうか。

私は、石川Lが私が会長就任してからもご健在であったなら、ライオンズクラブのあり方についてとくにご教示をいただく機会が得られたことと、まことに残念に思うのである。

会長在任中、クラブ活動その他多岐にわたるクラブ運営について、光野幹事をはじめ役員各位のご協力と会員各位のご支援によってとにかくにもライオニズムの常道にそって職責を果たさせていただいたことを深く感謝するとともに、石川Lの見えざるご指導を心からありがたく思っている。



学童交通整理手旗費寄贈

インド救ライ

会長在任の1年を振り返ってみて、全くの
醉生無死、細瑣は数知れぬにしても、大した
間違いも仕出かさなかったかわりに、これぞ
と胸を張れる仕事を残した覚えもない。まあ
まあどうやら無難に任期をつとめ上げたとい
うだけで、何ともおもはゆい次第である。

従って、在任中の出来事で、いまだに胸臆に
思い出を止めるものは、これとって見当た
らない。しいてひとつだけ取り上げるならば、
それはアジア救ライについて世間に呼びかけ
る第一陣を承ったことぐらいであろうか。

周知のごとく、アジア救ライ——当初はイン
ドが対象であった——の真摯な声は、前年
京都で開かれた大会において上がった。すな
わち、ほとんど放置に近い状況下におかれて
いる気の毒な数百万人の患者に対して、人類
愛から発する救済をわが国ライオンズ最初の
大事業として大会決議にとり上げたのである。
その具体的計画の第一歩として、ライの
病理、臨床の権威として右に出る者のなかつ
た碩学、宮崎松記医博に、インドに赴いて調
査ならびに診療に当たられんことを乞い、必
要な諸経費は、各クラブのアクティビティに
依存することになったのである。

しかしこの仕事は、将来への強力な発展の
必要を考えると、ライオンズの力のみをも
ってしては、なかなか容易なわざではないと
観ぜられたので、広く国民輿論に訴えて、そ
の積極的支援をもとめる必要があった。

こうした情勢に対し、かねてからこのよう
な仕事に大きな関心と理解を示されていた毎
日新聞社から全面的協力を得られることにな
ったのは、何とも心強い次第であった。これ
によって鼓舞激励されることはかり知れない
ものがあつた。

そこでこの方針による第一着手として、当
時まだ有楽町にあった毎日旧社屋の講堂を拝
借して、同社後援のもとに、“インド救ライ
の夕べ”——実際はもっと肌ざわりのやわら

第9代会長 岡村 武

かい表現の会名であつたように思うが——を
催すことになった。スピーカーには、この問
題に最大の熱意を示され、しかもインドの実
情にもっとも通暁しておられる前駐印大使那
須博士を煩わし、その前座をつとめるお鉢が、
主催者に名をつらねた東京クラブを代表する
私に回ってきたのである。

この計画で一番心配したのは、世間様がは
たしてどのくらい共鳴と同情を与えてくれる
かということであつた。さしずめどれだけの
聴衆が集まるかということだ。せっかく道具
立てはできても、肝腎の入場者がガラガラで
はガッカリである。堅い決意もくじけかねな
い。そこで毎日新聞の好意で、その紙上に相
当のスペースをさいて広告を掲載していただ
くほか、大衆向きの面白そうな映画を添え物
にして何とかプログラムの格好をつけた。

結果は案ずるより生むが易いとでもいう
か、上乘の首尾、手応え十分の反響であつた。
当夜の会場はほぼ満席、来会者無慮四百を数
える盛況。その満堂を見渡しながらホッとす
ると同時に、大新聞社の持つ大衆動員力のす
ばらしさにあらためて驚嘆し、かつその努力
に謝意を表したものである。

かくて私は、たまたま東京クラブ会長であ
つたという故をもって、アジア救ライ対外活
動スタートの号砲係りを相つとめる光栄に浴
したのである。

今や全国的な国民善意の結晶として、イン
ドの首都ニューデリーにほど遠からぬ風光明
媚なアグラの地に立派な病院が建設され、宮
崎博士をはじめとする奉仕の医療団が、寧日
なき診療に献身され、インド全階層の感謝の
的となり、両国友好促進に大きな寄与をされ
ている現状を目の当たりにして、今さらなが
ら深い感慨なきをえないのである。

なお宮崎博士過般の栄えある叙勲は当然の
ことながらフェロー・ライオンとしても衷心
からお祝いを申しのべたい。

迫水会長とともに

思い出深い東京クラブ10周年の年に、縁あって迫水Lと会長、幹事のコンビを組んで以来、歳月は流れのごとしとはよくいったもので、さらに10年の年月を過去のものとしてしまった。改めて東京クラブ20周年記念に当たり、ふりかえてみると感ひとしおの気持ちができる。

当時、迫水Lは池田内閣の郵政大臣を務められており、特にその道ではカミソリ迫水という異名を持っておられ、過去にもこれからも、このような政府の要職にある人がライオンズクラブの会長、またはその他の役職を兼務されることはあまりないことといっても過言ではないと信ずる。毎日が多忙のひとつにつき、歴代幹事の中でも非常に責任が重かったのである。

なんとか大過なく幹事としての責任を果たすことができたのは、会員各位の全面的なご協力をいただいたこと、さらに直接的には、守随第1副会長、豊田副幹事の両先輩の積極的な後援によるものであったと心から感謝している。

私どもの年度は、まず東京クラブの10周年記念、302 複合地区の10周年記念、加えて当クラブから E1 地区にガバナーを選出するという、まことにバラエティに富んだ行事の多い年であった。さらに重ねて、国際理事候補の選出問題も加わり、今でこそ簡単なひとことで書きつづっているが、多事多難の年であったと思う。今ではむしろ当時がなつかしく思われるが……。

当時、東京には18クラブがあり、各クラブの幹事による幹事会は結束がかたく、合同事務局の機構計画もでき上がり、現在の全東京合同事務局の基礎をつくることができたことは、また別の意味で忘れられないひとつの思い出である。

クラブにおいては、例会で生の音楽と歌を

第10代幹事 三 崎 矩 光

実施することを取り上げ、これを私どもの新年度からスタートさせることができ、現在なお引き続いており、会員みなさまに好評をいただいていることはうれしいことのひとつである。

また、例会場を帝国ホテルに移すことを計画し、故高橋貞太郎Lのご協力で、当時の帝国ホテル社長犬丸氏とのたびたびの交渉によりやっとの思いで了解を取りつけた。さて今度は会員各位のご了解を得なくてはいけない。うまく賛同を得られるだろうかと心配であったが、おそるおそるアンケートをとったところ過半数の賛成を得、本当に努力のしがいがあった。が、今までの例会場は10年近く使いたれた例会場であり、小野哲Lが専務をしておられたのでご心配のご意見もあり、思案していたところ、たまたま日本橋クラブの例会場が手狭で困っておられ、よろこんで後を引き受けて下さることになってすべて円満に終了することができた。

あれやこれやと当時を回想すると、語りつくすことができないほど多々あるが、なんといっても、迫水Lと弱冠20何歳かの若獅子というコンビでこの1年間をともに歩いたことがいろんな意味で意義があった。迫水会長ののっかりじょうずには天才の感があり、ただただ感服するのみである。これがひいては数年後の E-1 地区ガバナー迫水L、地区幹事三崎とのコンビにまで発展してしまい、今日でもその因果関係は続いており、うれしいのやら悲しいのやら全く見当がつかない次第である。

最後に、日本ライオンズも東京クラブのあゆみとともに20周年を迎えるわけだが、今後に残された問題は多々あると思う。が、ますますよき方向に発展し、ライオンズクラブでのモットーである地域社会に奉仕する精神をいだし続けようではないか。

在任中のあれこれ

私が会長になるなんて……。

1962年の初春、私はなんだか落ちつかなかった。

4月4日、オリンエント・ガバナー会議。

4月7日、E-1地区第8回年次大会（世界大会の日本招致とイタリアライオンズの大学来日、交歓）。

4月8日、日本ライオンズ創立10周年記念祝典。このとき迫水東京クラブ会長に初めてライオン帽をかぶっていただいた。爾後愛用されている。

5月、オール東京ライオンズ連合会は福岡現会長の日米ブラインドビルで合同して事務をとることになり、東京クラブも住みなれた岸本ビルからここへ移ることとした。

5月6日、札幌クラブ結成。

6月7日、新宿歌舞伎町に国旗塔寄付。歌舞伎町では以後国旗掲揚町例にして下さった。

しかし何よりも一番心配だったことは、東京クラブの例会場を現帝国ホテルへ移すこと、そこで会長をやらされるということであった。

いろいろあった。いろいろあったが結局、多数のメンバーから激励されて私は「清水の舞台」に上がった。

何よりも私を元気づけてくれたのは、幹事に豊田Lを得たことである（豊田Lが会長適格者であったが、大阪クラブから移籍間もなくで遠慮された）。それに、1952年ライオンズ創立のときから力を尽された千葉嬢（お年がわかって申しわけがない）が非常にめんどろをみて下さった。

7月12日、帝国ホテルの例会で迫水前会長から会長バッジを引き継いだときは、一瞬参議院議長になったような錯覚に陥った。

毎週1回豊田Lと国際文化会館で朝食をとることにした。

第11代会長 守 随 乙 作

1. 出席率を上げること
2. 例会は標準的にやること
3. 国際的気分を盛り上げること
4. アクティビティを活発にやること

これが東京クラブの目標であった。宗教的、人種的、政治的偏見にとらわれず、寛容の精神をもって人類の平和を築く、これはライオンズクラブのモットーである。

まず例会場に世界各国ライオンズの小旗を掲げた。坂田L、福岡L、本間L等のお骨折りで芸大から学生を迎え、歌とピアノで激励してもらった。国旗を掲げて国歌を斉唱する。会場の入口に Richland Fundの壺を設けた。スピーカーは年の初めに委員会別で割りつけた。

例会は順調に回を重ねた。外国人の Visitors もふえてきた。ときどき家族とともに旅行もした。

クリスマスが来た。私は日本ライオンズの創立者故石川欣一Lをしのび、また熱誠をもってライオンズの創始者メルビン・ジョーンズをたたえた。クリスマスはにぎやかでよい。池田LがNHK少年合唱団を迎えて下さった。

青森、仙台の結成式に出席した。

年を越したら慣れてきた。チャーター・ナイトも多かった。ばくぜんと忙しく（変な表現だが）日を送っているうちに次年度の役員発表の例会が来た。

上田Lが黙々として開票の手伝いをされていた情景が今もまぶたに残る。偉い人には信念があると感じた。

会社で仲人をした数も最高であった。たくさんの方のメンバーからご援助を受けた。私は本当によいことをさせてもらった。私の一生で最良の経験かもしれない。いちいちお名前をあげないが、東京クラブの皆様本当にありがとう。

思い出のまにまに

石田Lが例の温顔をたたえて、「細田さん、
どういう風にやりましょう」、「そうですね、
あんまり肩に力を入れて力投しても仕方あり
ませんし……」といった会話がその年の東京
クラブの会長、幹事の最初に取り交わした言
葉であった。仲間はずれでも、「いばってい
る」といわれても、なるべく近所付き合いな
どをしないマイ・ペースのクラブ運営で行こ
うと、会長の「無為にして化す」的な雰囲気
に便乗して幹事生来のズボラをきめ込もうと
試みたにもかかわらず、ご多分にもれず相当
目まぐるしい年であった。

まず、全東京合同事務局が緑のお濠端から
日本橋の巷へ移ったことである。当クラブの
各氏から「岸本ビルの部屋は歴史的にも、環
境的にもやはりすてがたい。なんとかわがク
ラブだけでも使えないか」との声が上がり、
大家さんの新堂、加藤両Lからも「どうぞそ
のままお使いになっては」というありがたい
ご意向もあったのだが、幹事の知恵たらずで、
主として財政的理由によってご好意に報い得
なかったことを今日もまだ悔やんでいる。

もうひとつ、おそらく空前絶後の快挙事を
述べよう（さしきわりのあったらご容赦下さ
い）。それは日光クラブのチャーター・ナイト
のことなのである。日光クラブは新堂L等
のみなみなならぬお骨折りででき上がった、
当クラブが生んだ16番目のクラブである。役
員会の席上で、今までスポンサー・クラブで
ありながらいつも生んだクラブのチャーター
・ナイトに当クラブの参加者がきわめて少な
いのはまことに遺憾である、という発言があ
り、今度の日光へは大挙して出席し祝福しよ
うとの議が起こり、さっそく幹事にその人集
めの厳命が下された。当クラブのメンバーは
だれでも祝福の意は十分あるのだが、本務の
ご多忙からそのことを怠るはめになってい
ることが痛いほどわかっているだけに、幹事
は大変なことだわいと心の中で困惑を禁じ得

第12代幹事 細田 胖

なかった。

各委員会から少なくとも1名が参加してい
ただくことを要請し、強引に押し通した。そ
して着々とお名前が集まってきてもなお大変
な心配である。切符も手配し、先方へ通告し
ても皆様それぞれ要職にある方ばかり、いつ
要務が舞い込むかわからない。当日東武浅草
駅で電車に乗り込んで人員をチェックするま
でハラハラの連続。だが本当に良かった。数
えて20名になんなんとする大デレゲーション、
大いに快哉を叫んでほんとひと安心。だが幹
事小生もチャーター・ナイトは初参加、どん
なことになるやらと途中の会話も上の空。

式が型通りに始まった。参加クラブの紹介
を日光クラブの幹事の読み上げで始まる。だ
がいっこうに「東京ライオンズクラブ」の呼
び上げがない。かたわらにスポンサー・クラ
ブの幹事として介添えしている小生も気が気
でない。日光の幹事Lは完全に「上気」して
いて、それまでも式の運行は必ずしもスム
ースとはいえない。ああせっかく大勢で来て、
常日ごろひとりかふたりで「ウオー」と景気
の悪い存在を、きょうこそ大きな「ウオー」
でと思ってご足労願った各Lになんの顔やあ
ってととつおいつしているうちに、壇下から
ひと声あり、山岡大先輩幹事である。すっく
と立ち上がり、「紹介もれがあります。東京
クラブの名を呼び上げなさい」と例の調子で
私ともども日光クラブ幹事をきめつける始末。
日光子が一番はじめに呼んだと私にいう。小
生やゝやけ気味で、「なんでもいいからもう
1回大きな声で東京ライオンズクラブとい
なさい」と語気するどくせまり、とどのつま
り彼氏もう1回大きく呼び上げ、空前の大デ
レゲーションは壇上(たしか大原Lであった)
壇下でいっせいに「百獣一挙にほゆ」の形容
のごとき「ウオー」を発してことがおさま
った、というおそまつを書きつつ当時を思い
出して冷や汗を禁じ得ない。

すずらん給食

私が東京クラブの会長をさせていただいた1年間（昭和39年7月から40年6月）は、ちょうど東京オリンピックがはなやかに行なわれた年に当たり、全国のライオンズクラブが手を携えて、オリンピック用の施設としてトレーラーの移動便所とメイン・スタジアムの旗竿を寄贈するという、いかにもライオンズ精神に満ちた奉仕をした年であった。それにもまして任期の終わりに起った「すずらん給食」こそ、ライオンズの極致と申し上げてもはばからない運動であったことを思い起こして、今更ながらその火を点ぜられた盛岡クラブ（今野梓会長）と各ブラザー・クラブ、並びにこれを社会キャンペーンとして追いつけ、ついに佐藤総理をも動かした毎日新聞社（上田常隆社長——東京クラブ）に頭の下がる思いである。

すずらん給食、なんともすがすがしい名前である。しかしその実体は僻地に咲くかれんな花と裏腹に、その地に就学する欠食児童の痛々しい姿を今更ながら思い起こして涙ぐむのである。

藪川小、中学校は盛岡市から東へバスで2時間半、さらに徒歩8キロの北上山系の中の僻地校。この付近は冬は氷点下20度という極寒地帯、地区の80世帯の主食は粟とヒエだけしかも学校給食はミルクだけなのに生徒の半数は弁当を持ってくるができない。

宮校長の「完全給食で欠食児童を救おう」の訴えを聞いた盛岡クラブは、給食設備資金として15万円を贈ることを決めると同時に、東京日本橋、東京の両クラブにも協力を呼びかけられたので、両クラブとも大賛成、とりあえず全児童に対し週3回、年間110日間の完全給食する費用49万5千円の半額25万円を出すことになった（残りは国庫補助）。

第13代会長 池田幸雄

4月7日、今野盛岡クラブ会長らは同校を訪れ、同クラブからの寄金の一部12万円と東京日本橋、東京両クラブからとりあえずの5万円、パン皿200枚と冷蔵庫1台を贈った。これに対して生徒たちは付近の山からスズランを摘み、輸送機関のご好意でリレーされて、4月10日、盛岡クラブの会員方が私たち東京クラブには帝国ホテルで、東京日本橋クラブには国際観光ホテルで手渡された。生徒たちの摘まれたスズランは両クラブの会員たちにその場でひとたば千円でまたたく間に売り切れた。その売り上げ代金は再び盛岡クラブを通じて藪川校に贈られた。こうした運動は次々と拡がって、協力されたクラブは都内、横浜の20数クラブに達した。

「私たちライオンズクラブは社会施設にいろいろな寄付や労力奉仕をしてきました。しかし単に与えるだけでは、相手側に“もらい癖”を植えつけるだけになって教育的にはマイナスです。ぜひ自立することをライオンズクラブはお手伝いさせていただきたいのです」今野盛岡クラブ会長の言葉は私たちライオンズ全体の本当の声である。

この「すずらん給食」には大きな大きなおまけがついた。毎日新聞社のキャンペーン記事を読まれた佐藤首相は、欠食児を解消するために予備費から5億円を緊急支出して、全国の僻地校に実施するようにと閣議決定され、これが直ちに実行に移されるようになった。

おりから参議院議員選挙応援のために花巻空港に降り立った佐藤総理に、山の子たちはかけ寄り、「総理大臣さま、給食ありがとう」とスズランの花束をプレゼントした。総理の眼には涙が宿ったそうである。

在任中の回顧

1965年から1966年にかけての会長在任で、スローガンは「心身障害者に愛の手を」であった。アクティビティ合計額は191万6千円余で、視力保護委員会の39万2千円余、厚生委員会の51万7千円余、安全委員会の身体障害者の運転免許キャンペーンの15万円等はこのスローガンを目標としたアクティビティであったといえる。

これらの資金を得るために、事業委員会の努力により次のふたつの行事が開催され、それぞれに所期の業績をあげることができたのがまことに印象的であった。

第1は9月29日、帝国ホテルスカイ・ルームにて Charity Fashion Show を開催し、「婦人の夕べをかねてのご観賞で、涼秋の夕べを楽しくお過ごし下さい」という委員長の呼びかけで、収支残高46万6千円余をあげた。

第2は3月12日、東商ホールにて落語名人会を開催し、「春3月名人6師匠（小勝、文楽、円生、円遊、正蔵、小さん）の競う人情ばなしに、しばし都塵をながして下さい」という委員長の呼びかけで、これも収支残高47万5千円余の資金を得ることができた。

さて、当時におけるライオンズ活動にはふたつのムードというか、底流というかがあったように思う。ひとつは、1969年第52回世界大会が東京で開催されることに決定、足かけ6年にわたって続けられた招致運動が実を結び、日本の悲願が達成されたのである。このときに派遣された日本のデレゲーションに、わがクラブから迫水久常元ガバナー、浜本正勝委員の2名が参加され、そのご活躍とご努力の報告を全員感激をもって聞き入ったことだった。ライオンズ世界大会がアメリカ以外の国で開催されるのは、フランスのニースに次いで第2番であり、東洋においてはもちろん初めてである。そこで3年後に開催される

第14代会長 葦 沢 大 義

東京大会についてはぜひともこれを成功裡におさめなくてはならぬが、東京クラブの使命と責任が大きいものであるということであった。

ふたつには、わが国におけるライオンズ活動が漸次隆盛になりつつあるが、華美に過ぎる傾向が一部にあり、原点に立ち帰った反省が必要であるという意見が出はじめているとともに、東京クラブがとにかく日本における最初の結成クラブであるという自負に対する反撃というか、「東京クラブよ出しゃばり過ぎるな」ということであった。私も三厨幹事とともにこれらの底流というか、ムードというかについてもとくと留意をしたつもりであった。

次期ガバナー、次期国際理事の選任については、わがクラブには多数の先輩有資格者があるわけで、その各位をおたずねして立候補のご内意を伺ったのであるが、いずれもかたくご辞退なされたのみならず様々ご高配とご指示をいただいたことを忘れることができない。

不幸な出来事としては、青少年交換計画にて来日したカールソン嬢が富士山で遭難事故のため死亡したことだったが、佐藤三蔵ガバナーが率先して対策に挺身されたことを明記しておきたいと思う。東京クラブとしては、L武内亀之助、L武場隆三郎がご逝去されたことは悼みても余りあり、いまその思い出を新たにしている。

最後に、第1副会長L上田がご多忙のため次期会長ご就任がかなわず、異例のこととなったが、L上田は3期後の会長をつとめられたのみならずさらに名ガバナーとして大活躍をなされた。衷心より敬意を表するとともに、私どもの責任の一端を解除していただいたように思い、感謝している次第である。

私の会長1年

ライオンズクラブの会合は1カ月2回であるが、私にとっては、この2回は実に楽しい友情に満ちた雰囲気の中で話し合いのできる、快い場所であった。役員稼業をあまりたくさんしている私は、このような伝統と歴史と人間性に満ちたグループの幹事役をすることは少し場なれないものがあつた。それより私が10年以上のライオン生活で感じていた大きなことを考えたのである。それは、ライオンズ精神が常に満ち続けられた名誉ある東京クラブの会長というの、たいへん重荷であるように思えたことである。幸いに西林Lが幹事を引き受けて下さり、その他の副会長以下の方々からも御協力をいただいて、1年間の楽しい思い出を残して会長の席を去ったことは、一生の思い出である。

私の会長在任中の大きな仕事は、ライオンズ50周年記念の行事であり、東京クラブ15周年、また、これに伴う記念行事として平和論文コンテストが行なわれた。平和ムードに満ちているようにみえて、実は戦争の脅威にさらされている多くの矛盾の中で、若い人の平和論文がどのような形で出てくるかが興味のまとであった。私は、幾つかの論文を読んで強く感じたことは、次代をにう若い青年層に尊敬すべき何人かの人がいるということを確認できたことであつた。

ライオンズ50周年記念晩餐会がホテル・ニューオータニで開催され、国際ライオンズの半世紀にわたる人類史上に残した大きな功績を回顧し得たことは幸いであつた。また、その後3月には東京クラブの15周年記念の晩餐会が開かれ、古い関係者も招かれて、日本におけるライオンズクラブの歴史が手にとるようになられた。この歴史は他に類例のない歴史であると私はその一員であることを誇りとした。

大失敗の思い出としては、新潟市において

第15代会長 武 見 太 郎

5月20日に行なわれた年次大会におけるガバナー選挙であつた。その当時、一部のライオンズクラブの中には、必ずしもライオンズらしい雰囲気が感じられないところもなかつたわけではない。酒井Lその他のベテランの方々はこの情勢を非常に心配され、ぜひ東京クラブから最適任者を出して日本の各クラブの健全な発達をと希望されたのであつた。相当な困難を予測しつつもいろいろ準備を進め、いよいよ新潟において開かれる段階になつてわれわれが敗退したのはまことに残念であつた。その大会における情勢は決してライオンズ精神に満ちあふれたものでなかつたことをまのあたり確かめることができた。それ以後私は年次大会への出席を遠慮する気分になつた。しかし、情勢は推移し、ガバナーの選出は最近ではスムーズに行なわれるようになり、ライオンズ精神の復活を証明しているようにみえてきたことは楽しいことである。ライオンズというヒューマニティに満ちた団体が、政治的な動きによって左右されることは厳に警戒されなければならない。

クラブ行事の中でゲストスピーカーの選出はたいへん大事なものである。私の1年間の経験では、まことに東京クラブにふさわしいゲストスピーカーを迎えることができたことを心から感謝している。実に多方面の方々で学者もあり言論界の方もあり文学者もあり医師もあり出版社の社長さんもあり新聞人もあり経済界の人もいた。このようなゲストスピーカーを選び得たことも、実は関係して下さった方々のたいへんな努力であつた。

要するに私の在任1年は西林幹事をはじめとして副会長及びその他の役員諸氏並びに会員各位の非常な御支援をいただいて、とにかく期限を終了したということである。私自身としては、この1年間の思い出は一生消えることはないであろうと思う。

世界大会準備と坂本Lのことなど

第16代会長 樋口 果

会長在任中を回想するに、特記すべきことといえば、世界大会東京誘致の準備に多忙をきわめたことである。

アジアにおいて初めてのライオンズ世界大会が日本に誘致されるというので、その準備委員に推され、パレード部会の委員長としてダラス大会を視察のため渡米した。

このような世界的コンベンションは、日本では初めてのことで、フロート、バンド、パトنگールを交えた総数1万人近いパレードは前例がないとて、警視庁と再三交渉し協議を重ねたが、パレード・コースも日比谷通り、三宅坂、青山通りと二転三転し、大部隊の集結、解散の場所も大会開催の1カ月前になっても結論を得なかった。それに加えて、激増した過激学生のゲバ棒騒動で（デモに関する規定はあっても、パレードに関する規定がないとて）、警視庁の警備部、交通部の担当官を納得さすのに困憊をきわめた。結局、迫水大会委員長の出馬を願い秦野警視總監との主脳会談でようやく開催の運びとなったのである。周知のごとく、大会は予想以上の成功裏に終止し、参加各国の好評を博した。

顧みるに、ライオンズのコンベンションは加盟各国会員相互の親睦のためのお祭りであった。しかし、日本ライオンズの終始一貫した力強い結束の成果を今更のごとく痛感する次第である。

その他思い出すことといえば、台北獅子会より姉妹クラブ締結の申し込みおよび東京クラブのスポンサークラブであるマニラクラブより、日本におけるライオンズの「マイル・ストーン」建設の提案があったことである。

台北中央クラブの代表団が、ソウルクラブを訪問した帰途東京に立ち寄り、自分に会見を申し込まれた。自分は代表団の宿泊しているホテル・オオタニで彼ら一行8名と会談したとき、首席代表L周医博より姉妹クラブ締結を申し込まれたのである。さっそく役員会

に計り、帝国ホテルの例会に代表団一行を招待して、喜んで締結する旨を伝えた。

ライオンズ世界大会がいよいよ東京において開催されることが決まったというので、マニラクラブより、世界大会を兼ね、日本におけるライオンズの「マイル・ストーン」を建設してはという手紙を受け取った。役員会に計り、チャーター・メンバーに一任した。このことは次期会長に引き継いでもらい、やがて、日本ライオンズの発祥の地パレス・ホテル（旧帝都ホテル）のお濠に面した竜の口寄りの庭園内に記念の碑が建てられ、東京大会の行事のひとつとして、日・比ライオンズ出席のもとに除幕式が行なわれたのである。この記念碑の建設に由来する、恩讐を越えたフイリピンクラブの寛容の精神を改めて痛感する次第である。

伝統ある東京クラブの会長として大過なく任期を全うできたのは、ひとえに故坂本正Lという八面六臂な名幹事に負うところ大であった。

坂本Lは、日活系の日本観光KKの常務取締役として業務多端にもかかわらず、例会には100%に近い出席率で、常に当為即妙な司会ぶりで例会の雰囲気盛り立て、ライオンズの幹事としては特色ある存在であった。

他クラブとの交流に、アクティビティに、事務的なことはすべて坂本Lにまかせっきりで、私にとっては良い女房役であった。

彼が世話役をした最後の新年会は上野のタカラホテルであったが、パーティの和気あいあいたる雰囲気の中に、微醺をおびてことのほかごきげんであったときの姿が眼に浮かぶ。惜しくも宿病でまもなく他界されたことを聞き、あの古武士的風貌の坂本Lがと耳を疑ったのである。クラブにおいては特異なキャラクターであった彼の姿が、例会で見られなくなったことは寂しいきわみである。

在職中4つのハイライト

私どもの任期の間を顧みるといろいろのことが思い出されるが、何といっても44年7月東京において開催される世界大会を前に、日本のライオンがその準備協力に全勢力を傾注していたことである。その中心である東京は日夜を分かたず東奔西走、会員の方々は年間を通じてほとんどこの仕事で明け暮れたといっていた。その甲斐あって、われわれ任期直後に開催された宿願の第52回世界大会が、大きな反響と成果をおさめて無事終了したことはまことに御同慶のいたりであった。

われわれ就任早々の7月、フィリピンに大地震が発生。フィリピンは日本ライオンズのスポンサーで、マニラクラブは東京クラブの生みの親、さっそく役員会で見舞金50万円をマニラクラブ宛送ることを決議、8月2日に送金をした。

3つ目のハイライトは、フィリピン、台湾及び大韓民国とのシスター・クラブ締結であった。前々からこれらの国からシスター・クラブ締結の申し出があったのだが、われわれライオンズクラブは全世界のクラブが皆ブラザークラブであるゆえ、あえてシスター・クラブ締結を特別なクラブ間で結ぶ必要はないのではないかとこの観点から見送られてきたのである。たまたま、ソウルクラブから数人のメンバーが来日、締結を強く要望されたので、東京クラブは日本で一番古いので、3国の最も古いクラブと締結することに決定した。

11月、第7回オリエン特及び東南アジア大会がフィリピン、マニラ市で開催されるにあたり、マニラクラブからその際シスター・クラブの調印をしたいとの申し出があったので、たまたま同大会に参加する塩原元ガバナー、福岡勇Lをクラブ代表として18日の調印式に送った。

台北クラブ並びにソウルクラブとの締結は、世界大会開催のおり東京に各代表が来ら

第17代会長 酒井 忠 博

れたときに調印式を行なうことで話がまとまり、われわれはパレスホテルにその準備をしてその日を待ったのであった。調印式は翌年の7月3日、上田常盛会長によってシスター・クラブ・レセプションがマニラクラブ、台北クラブ、ソウルクラブの大会参加会員列席のもと開かれ、その席上で行なわれた。前会長としてこの調印に私も出席して私の会長時代からの宿題を完了したのであった。

宿題といえはもうひとつあった。それは前会長からの申送りであった。フィリピンから東京クラブ結成の記念として東京のどこかに、何かを作ってはどうかという提案であった。メンバーが鳩首した結果が、東京クラブの結成とチャーター・ナイトを行なった所は、いまのパレスホテルのある位置に元あった林野庁の建物を改装したホテル帝都であったので、その位置に記念するものを作ってはどうかとの結論に達した。パレスホテルに発祥の地の由来を話し、ホテル庭園に記念碑建立の許可を懇請した。同ホテルからは心よく承諾の旨の返事があったので、その準備を進めた。これまた除幕式をより有意義たらしめるために、世界大会中と決定したのである。

バレンゴア国際本部フィリピン駐在員、エルバート元国際会長等多数の臨席のもとに、東京クラブ初代会長故石川欣一Lの未亡人の手によって、除幕式が行なわれたのであった。

以上4つが私の在職中のハイライトといえるかと思う。

日本ライオンズ20年を迎えるにあたり、驚異的發展の跡を顧みつつ一度「ライオンの原点に立ち帰り」、これを転機として真のライオンイズムとは何かを再度熟考しつつ新しい世代に向けて邁進して行こうではないか。われわれはすでにライオンズとして青年期を迎えようとしているのだ。

静かな情熱家高橋貞太郎L

第18代会長 上田常隆

高橋貞太郎Lがちょうど1年前京都で急逝された時は78歳だったが、とても80に近い老翁とは思えぬ矍鑠ぶりであったから、当時訃報を聞いた者はみんなその耳を疑ったものである。

おそらく帝国ホテルの設計監理という大仕事と取り組んで、それが完成、ほっとされた隙に付け込んだ病魔ではなかったろうか。

高橋貞太郎Lは実に厳格な人であった。日常生活において時間を守るというようなことから、みずからの事業の上においても、またライオンズのメンバーとしても、その身辺から近づきがたいような厳格な空気が出ていた。このことが人から誤解を受けるものともなったのは事実であるが、それも長い付き合いのうちには高橋Lの良さがわかり、その味を理解されていった。

高橋Lの手がけた仕事としては、明治神宮絵画館をはじめ旧赤坂離宮改修、秩父宮御殿、川奈ホテル、新大阪ホテル、学士会館など硬軟とりどり枚挙にいとまがない。しかし何といてもその傑作は、晩年の心血を注いで作った帝国ホテルの新館であろう。そして東京クラブの例会はその帝国ホテルで開かれるのだから、高橋Lも満足だったことと思う。

さて、そのライオンとしての高橋Lだが、入会は昭和28年（1953年）1月。そして逝去の年1970年まで18年間、完全に毎年100%の出席率を保持したライオンである。

元来高橋Lは真摯な学者タイプであり、学生時代この方、とっぴな逸話など全く見つけることのできない人であるかわりに、一度これと心に決めたものにはとことん打ち込んで行く人であった。

本業の建築設計は当然のこととして、ライオンズクラブはその次に打ち込んだ対象であった。そしてライオンズクラブがアクティビティのひとつとしてアジア救ライに力を致すことになるや、アジア救ライ協会常任理事と

して自分がその事業の中心であるかのごとき力の入れ方で、同氏なきあと後任者に困ったということは同氏がいかにも大きな推進力になっていたかを示す証左である。

話をもとへ戻して、高橋Lは入会の翌々年東京クラブの会長に就任し、クラブの事務所を高橋建築事務所へ持って行った。翌年はDG、その翌年は第4代日本地区ガバナーとしてシカゴの本部を訪問している。

なるほど当時は会員数も少なかったかもしれないが、入会5年にしてガバナー就任とは、高橋Lがいかにもライオンズ活動に打ち込んだかを有力に物語るものである。すなわち東京のというより日本ライオンズクラブの草分け的存在として重きをなし、あらゆる要職を勤めて20年に近い高橋Lにある程度の独断専行的言動のあったことも否めない。それもライオンズ活動に対する熱意と真剣さとの経歴から来る自信がそうさせたものと思う。私もその独断の被害を受けたことがあるが、別に腹も立たず、その愛すべき稚氣にニッコリとこれを受けたものである。事実、例会の日など会場を飄々乎として歩いている高橋Lの姿には憎めないものがあつた。

帝国ホテル新館落成の披露パーティの日、1階のあの広いロビーのいすにひとりすわって天井をながめている紳士がいる。よく見ると高橋Lであった。私はそばに行って「おめでとう、感無量でしょう」と呼びかけたが、「ありがとう」と言ったきりあとは何も言わないで、また天井をながめていた。

おそらく万感こもごも胸中を去来して、その苦心のあとを回想している最中であつたのであろう。私は、高橋Lがそのライフ・ワークともいふべき作品と盛んに語り合っている最中を邪魔したことに気がついて、あいさつもしないでその場を去り、パーティ会場に向かったことである。

光栄の1カ年と悲しい思い出

第19代会長 永井賢城

ライオンズの役員は指名されたら辞退することができない。役員は当番のようなものだ。できるできないよりまずやることだといわれて、とうとう1年間会長の要職をけがしてしまった。上田会長の後をうけ、19代会長としてガバナーに就任された前会長のカバーによってなんとか全うすることができたのは良識ある東京クラブの会員の方々のおかげと感謝致した次第である。

1970年9月、名古屋で開催されたアジア大会を機会に、シスター・クラブを結んでいるマニラ、台北、ソウルの各クラブの出席会員を招待したことであった。なにしろパーティーには不馴れの私にとって大過なく過ごすことができたのは、ライオンズ精神を十分身につけた東京クラブの会員諸氏のご援助によるもので、友愛の精神を十分感じたと共に、シスター・クラブの方々の寛容の精神に接することができ、当時の会長として身に余る光栄であった。

私の任期の1年間はガバナーをわがクラブ

から出している関係上、ホスト・クラブの会長として肩身の広い思いをした。

E-1地区年次大会には大会委員長として、常陸宮殿下ご夫妻をお迎えして立派な大会のお手伝いができると張り切っていたところ、期日の4、5日前に偶発的にも痛風に見舞われ、この名誉ある大役をはたすことができなかったことは、会員の皆様様大変ご迷惑をかけたばかりでなく、私にとっても残念でならなかった。

悲しい思い出のひとつとは、9月末故高橋貞太郎Lの突然の危篤に直面したときである。発病地京都にお見舞いに行ったときの印象を、私は一生忘れることができない。

入会以来15年を過ぎてやっとライオンとして一人前になったような気がする。会長に指名されイヤイヤ就任した私だった。満20年を迎える歴史ある東京クラブの目に見えない偉大な力に支えられていたことを、今更ながら驚いている次第である。



10年会員に記念品贈呈

原点にかえろう

第20代会長 福岡 勇

1971年6月24日の例会日に、私は永井前会長から東京クラブ第20代会長として胸に会長バッジを授けられた。そして72年6月までの1年間これをお守りすることになった。

会長バッジはメンバー各位のバッジと同型なのだが、いざ胸につけることになると、その重みがひしひしと感じられる。それはこのバッジがわが日本のライオンズ20年の歴史を物語っているからである。

1952年3月21日、フィリピンのマニラクラブをスポンサーとして、国際理事マヌエル・ゴンザレス、国際代表ジョージ・バレンゴア両氏の手から、ホテルテイト（現パレスホテル）において、東京クラブ初代会長石川欣一Lの胸にこの会長バッジがしっかりと付けられたのである。その時のチャーター・メンバーは56名であった。それ以来20年間、連綿として歴代会長の胸にクラブのシンボルとして受け継がれてきたのである。

当時のチャーター・メンバーで、長年クラブの発展につくされ、現在籍のメンバーは古川正重L、井門幸男L、石田吉男L、石関信助L、大原久之L、塩原有L、浜本正勝Lの7名の方々である（別に中根麟之助L、福田太郎L）。ここに改めてその功をたたえようではないか。この間物故されたメンバーは田辺隆L（1953年11月10日没）以下16名を数えている。そのご冥福を心からお祈りする次第である。

創設以来、アジア大会、東洋及び東南アジア大会等への参加、結集を経て、1969年には第52回世界大会を東京クラブがリーダーとなって東京において開催し、世界のライオンズから絶賛を博したのはまだこの間のことのよ

うに思われる。

今や、世界146カ国にクラブ数25,218、メンバー958,239名（1971年5月31日現在）を数え、わが日本では1,055クラブ、86,209名（7月31日現在）に及び、名実ともに世界第2位にランクされている。この20年間に誠に驚くべき急成長ぶりである。しかし数のみを誇りとすることなく、内容が充実したものでなければならない。

最近、盛んに「原点にかえれ」といわれている。なぜだろうか。勢いの盛んなときはややもすればその本質を見誤り、創設時の精神を忘れがちとなるからであろう。

友愛と寛容、そして謙虚さをもって現状をみつめ、もう一度原点にかえろうではないか。



東京オリンピックに際し吸がら入れ20万個寄贈配布を指示する福岡勇L

物故会員追憶



地区大会で乾盃する高橋Lと永野L



石川Lの哲学的ローア



落穂寮へ寄付する式場Lと高橋L

石川Lとともに

塩 原 有

石川Lも私も戦争中はマニラに滞在していた。石川Lは毎日新聞より派遣されて、マニラの英字新聞の編集に関係されていた。私の方は当時の内務省より派遣されて、比島政府の顧問をしていた。仕事の方面が違うので、当時は石川Lとは交渉がなかった。

戦後、村田省蔵さんが巣鴨から出所され、戦時中比島派遣軍の最高顧問、引き続き駐比大使として活躍された関係上、日比国交回復の民間運動を提唱され、その傘下にわれわれが集まったときに私と石川Lの交遊が始まった。当時、石川Lはすでに毎日新聞を勇退されて自由の体であったので、フィリピン友の会の事務所へはひんぱんに来られた。そこで私とともにジョージ・バレンゴアに会い、ライオンズクラブをつくるきっかけとなった次第である。その詳細の経緯は日本ライオンズ十年史に西郷徳男Lが書いておられる。

石川Lはプリンストン大学を卒業され、したがって英語は自由自在で、新聞記者としてのみでなく、チャーチル大戦回顧録その他翻訳出版があり、英文学者としても著名の人であった。多年新聞人として修練されたせいかきわめて膚ざわりのよい人柄で、私も初めからしまいまで全く気持ちよくお付き合いをいただいた。長身瘦軀、ベレー帽がまことによく似合った。

3月に発足したので6月いっぱいまで規則の上では新年度にはいったが、役員は全員そのまま引き続いて就任した。石川会長も幹事の私も計算の上では2度続けてやったことになる。翌年はエルバートが会長として公式訪問に再び来日した。初代会長に石川Lのような人が就任したことを非常に喜んでいた。

6月いっぱいまで次期会長、幹事に引き継いだ。この時シカゴは日本を302地区と指定してきた。そして初代ガバナーに石川Lを指名してきた。私は石川Lの要請で地区幹事としてひとつでも多くのクラブをつくることに

専念することになった。地区といっても当時は、1953年から1954年の1年間クラブ数はたった6つ（東京、横浜、神戸、大阪、松山、京都）、メンバー数200名ぐらいであった。

1959年、302地区の地区大会が京都で行なわれたが、その直前シカゴ本部は第17エリア（日本、フィリピン、香港、台湾）を代表する国際理事に石川Lを推薦してきた。17エリアの会議の結果この年は日本が国際理事を出す番であった。石川Lについてはだれひとり異存がないので、別に大会で選出するような手続きは採らなかった。その年は6月にニューヨーク市で第42回世界大会が行なわれた。

このころ石川Lは身体の不調を訴えられていた。京都大会終了後一緒に帰京したが京都駅で列車を待っていた間、私は石川Lにいろいろ質問してみた。最近よい薬が見つかりにくいかよいので世界大会は何とか行って来られるだろうと話しておられたが、私は非常に不安に感じた。はたせるかなニューヨークから帰った石川Lの顔色はまっ黄色で明らかに黄疸。直ちに入院したが、ついに不帰の客となられてしまった。かえすがえすも残念なことであった。

東京クラブができて間もないころ、フィリピン友の会で事業資金獲得のため、来日したアメリカのサーカスの切符を皆で手わけして売ったことがある。そのときジョージ・バレンゴアがどこから聞き出したのか、サーカスのライオン使いがライオンズのメンバーであるといってきた。会いに行こうということになり、石川L、ジョージ夫妻、私ども夫婦と5人でささやかな花束を持って蔵前国技館にライオン使いに会いに行った。クラブ名や名前は20年前のことで忘れてしまったが、ライオンの檻の前で記念写真をとった。これが本当のライオン・テマー（ライオンを馴らす者）であると大笑いした。愉快的思い出のひとつである。

L石川欣一の追憶

中 根 麟之助

私の尊敬するL石川欣一が逝かれてから早や12年になる。非常に交友関係の広い方だったが、私は毎日新聞社の後輩として、Lの晩年においては一番親しい間柄であったといささか自負している。

性格はらいらくで明朗、学生カタギというのか、全くあけっぱなしの方だった。アルコールには減法強く、ずいぶんお供して飲み歩いたものである。特に洋酒に詳しく、お蔭で私もいささか「通」ぶることを言えるようになった。

「きょうまで飲んだウイスキーの量はお風呂屋の湯漕いっぱいぐらいになると思うよ」これがいっぱいきげんでのお得意の言葉だった。

戦後、毎日新聞の傍系として生まれたユニークなサン写真新聞——ザ・サン・ピクトリアル・ディリー——の方へ出向して、石川社長・上田専務（元東京クラブ会長）・中根広告部長の時代があったものである。博識でお顔も広く、このためお蔭をもって私自身各界の方々へご紹介を受け、大変公私ともに役立ったことである。

親しいグループで談笑することがお好きなので（もちろんアルコール付き）、私の発案でキンイチ（欣一）会を結成して、毎月第1金曜日には必ず相寄り相集まって、大いに飲みかつ話をするという談笑の時を過ごす会を催したものである。主なメンバーは辰野隆、堀内敏三、玉川一郎、長谷川春子、三越の岡田茂、東山千栄子、女優の鹿兒島夏子、石川欣一夫人等々多士済々、時間のたつのを忘れた。

L石川はお酒が強いばかりでなく絵が非常におじょうずで、水彩でサラサラ描かれる絵は見事なものだった。それで年に2回ぐらいは1泊の遠出を試み、風景などをめながらスケッチを楽しみ、その名をチャーチル会と名付け、お互いに腕を競い合った。たしか当

時、藤山愛一郎さんのチャーチル会が有名だったのだが、その向こうを張った形だった。

それはライオンズクラブの草分け時代だったが、私もライオンズに入会させられ、そのため現在ライオンズでは最古参になるわけである。当時、例会は日比谷の日活ホテルで催され、国際人を交えたまことになごやかで面白い会であったことを記憶している。少々お行儀は悪かったが、英語や中国語、日本語などが乱れ飛び、自由発言もたくさんあり、「スピーチ、スピーチ」の呼び声など和気あいあいの例会のようにおぼえている。

ライオンズクラブが大発展を遂げた今日、例会の雰囲気は少々絆を着た感じを受けるのは私ばかりではないと思うが、L石川が生存されていたら、「なんとお行儀が良すぎることよ。もっとくだけてやろうや」といわれるのじゃないかと思ったりしている。

元会長のL上田常隆が思い出をお書きになるのが順序だと思うが、実はL上田をメンバーにしたのは私で、ライオンズとしては私が先輩であるというわけだからだろう。L上田ならもっと面白い逸話をご存じじゃないかと思うが、私にとご要請があったので筆をとったわけである。

昭和34年8月4日、胃ガンで急逝された時は、本当に驚いた。まだ64歳のお若さでもっともって活躍して頂きたかった方である。私にとってもかけがえのない良き先輩、良き飲み相手を失って悲しんだものである。平素L石川の態度は上下の区別なく、だれと接しても同じで、模範的ともいえるほど民主々義公平平等を貫かれた立派な方だったと思う。

あの当時の日本のライオンズクラブが、今や日本全国にわたって大発展を遂げつつある現状を、ご生存のままL石川にお見せしたかったなあ——こんなことを思いながらなつかしく追憶している。

石川先生の思い出

石田吉男

ある日、石川欣一先生がひとりのフィリピン人を伴って来訪された。私がまだ専売公社に勤めていたころのことである。上司の勝田さんと同席でお会いすると、今度日本にライオンズクラブをつくることになったので、参加してほしいとライオンズについての説明をされ、自分が会長になるし幹事は塩原氏だというお話である。塩原氏とは旧知の間柄で同行されたフィリピン人も好ましい感じの人で、今度つくられるクラブというのになんとなく親近感を持った。勝田さんが、これはどうも英語で話ができないといかんようだから、とりあえず君だけ参加してはどうかといわれる。こんな次第で会員になって、碌々としているうちにもう20年もたったのかと、今更ながら光陰の速さにおどろいている。

日本パイプクラブ会長としての石川先生とは、たばこに関係のあるいろいろな会合や催しでは常に一緒であった。またそのころ、年に数回パイプクラブの講演旅行というのがあった。石川先生引率のもとに、辰野、石黒宮田、渡辺、玉川の諸先生、中村、小野両画伯など、それに故式場Lが監督で、1泊2日ぐらいの日程で各地をまわり、とんち教室、20の扉、話の泉の裏話などで満堂の聴衆をわかせ、その道中がまたきちがい病院の遠足といわれるほどのにぎやかさだった。ひとすじなわではいけないこれらの諸先生方が和気あいあいとして旅を楽しまれたのも、石川先生が中心となっておられたからである。深い学殖を持たれ、知性のないことを極端にいとわれながら、酒を愛し、たばこを愛した石川先生はまた自由を愛し、知性の人々のつどいのリーダーとしては最もふさわしい方であった。

先生がパイプの趣味を会得されたのは、プリンストン大学での学生時代のようなのである。その後の米国や英国での生活でみがきがかか

り、たばこやパイプについて実に造詣が深かった。「煙草とパイプ」「たばこ談義」などの著書もあり、たばこに関する随筆も多い。この「たばこ談義」の中に、次のような一文がある。

「自分でもよく承知しているが、どうせ私がなにか商売めいたことをはじめれば、それは士族の商法で、結局損をするにきまっている。……だが、それにもかかわらず、やはり何かやりたい。目下、3,40年後の隠居仕事として最もやりたいのは煙草屋である。」そして、銀座の大通りをちょっとはいったところに店を開き、軒には K.ISHIKAWA, TO-BACCONIST と金文字の看板を出し、ショーウィンドーの陳列、ガラス戸棚のしつらえ、店内の照明、美しいお嬢さん客との応待と、それからそれへと空想して楽しんでいられる。私の思い出では、先生とたばことはどうしても切り離せない。

先生には、魚河岸のすしや、四谷のてんぷらや、藤沢のうなぎやなど、手ごろなおいしい味の店をいくつか教えていただいた。これもまたなつかしい思い出のひとつである。

昭和34年6月の末、地方の支部局長会議の最中に先生がおいでになったとの連絡があった。中座して室外へ出ると、米国大使館ヘビザをとりに来たから立ち寄った、あす米国へたちますというごあいさつであった。日本人ライオンとして初めての国際理事となるべく、ニューヨークの世界大会に出席するための渡米であった。先生がわざわざあいさつにみえたことがなにか異例のような感じがして、妙に気にかかったことを覚えている。帰国後すぐにご入院、8月4日に逝去された。世界大会出席のための無理が影響したと思われ、石川先生はまさに日本のライオンズのために身を捧げられたものというべきであらう。

石川欣一Lをしのんで

古川正重

ある秋の夕方、何の委員会の帰りだったか大柄な石川先生に誘われて、小柄な私と口ひげの岡村Lと3人で、六本木の俳優座の近くの小さなバーに立ち寄ったことがある。

先生は「この近くに親戚があるので……」といわれていらっしゃったが、この時初めて先生の令夫人はあの有名な東山千栄子さんの実妹であられることを知った。

3人の話がだんだん「山へ、山へ」と進んで行くのには驚いた。それもそのはずで、先生はお若いときから山登りがお好きで、いわゆる夏山のベテランであり、岡村Lはスキーがおじょうずで、冬山のベテランであった。私は山で生まれ、山で育ったいわば山から下った男であり、おふたりのように都会で生まれて趣味で山に登るのとは違うけれども、おふたりの山の話は季節や登り降りの差こそあれなつかしかった。

その夜の先生のネクタイが何色であったかは思い出せないが、グレーのズボンにえび茶のジャケットを着けていられたと思う。そしてイキな焦げ茶のソフト帽を持っておられたので、「先生、その帽子すてきですね、どこ製ですか」と尋ねてみた。先生は外国生活が長かったので、外国の思い出でも聞かせていただくかという考えがあったからである。「これはイタリアのナポリのだ」とおっしゃってしばらく考えておられた。たぶんその帽子にまつわる山の思い出があったのではないだろうか。

突然先生はその帽子を私の頭にのせ、「大きな頭だね……。これ、君にあげるよ」といわれたのである。私は一瞬とまどったが、先生はその時ニコリとほほえまれたのである。

その帽子が、いまここにある。

先生はたくさんの著書や翻訳を出版されておられたが、「花開く、ニューイングランド」

という文学史の本の翻訳（1951年出版、三笠書房）で日本芸術院賞を授賞された、と記憶している。この本の著者は米文学者のヴァン・ウィック・ブルックス氏で、先生とは交友関係にあったようだ。

その本の序文に、
著者のことば

日本語版によせて

……そして私は2日前、数マイルへだてた所に住んでいるヘレン・ケラーの家で晚餐を共にしたことを、あなたに話さなくてはならぬ。あなたは知っているだろうが、彼女は去年日本を訪れ、丁度1カ月前、車一杯の贈物が日本の友人の所から届いた。彼女の家は上から下までそれ等の品で充滿している……中略……なんという奇蹟だろう！若し私の作品の如何なるものでもが、あなたの国の読者たちにとって興味深いものである事がわかれば私は非常に幸福を感じる。

1949年7月

ヴァン・ウィック・ブルックス

上はブルックス氏よりの、「序文を書いてあげてもよい」ということが書いてある手紙の一部だが、訳者（石川先生）は、「それよりもこの手紙の部分を使用したい」と申し入れて、ケラー女史の快諾を得て引用したものである。このことは、日本ライオンズクラブが創立される2、3年前のことである。

なぜこのようなことをくどくど書くかと思われるだろう。それは、石川先生が日本にライオンズクラブを創立する前からヘレン・ケラー女史に大きな関心を持ち、また日本人がヘレン・ケラー女史に寄せた関心を非常に重要視されていた。すなわち日本人にはライオンズ精神がすでに芽ばえていて、十分に成長する素地のあることを知っておられ、そして20年後の今日の盛会を信じておられた、ということをお私は証明したかったからである。

永野護Lの追憶

山 根 実

私と永野Lとの出会いは32年前にさかのぼる。就職のお願いに上京したとき、当時すでに大成されておられた先生は、同郷の一介の学生の私をあたかも子供のように暖かく迎えて下さって、伊藤忠商事へお世話下さった。

1954年、先生の熱心な勧誘により東京クラブのメンバーになり、例会ごとに先生の訓育を受けるチャンスにめぐまれた。

1957年12月、張群先生のご招待で先生と故木下茂Lと秘書の方と私の4人で、囲碁使節団として台北を訪れたとき、先生は暇をみては高官の方々にライオニズムの本旨を説いておられた。それが実を結んで、1958年から台北クラブは正式に発足した。

また1956年3月9日、日比賠償調印に至るまで4度ばかり下工作にフィリピンに先生のお供をした。先生は在比中暇をみては身体障害者や特殊病院を訪問され、物心両面から激励されたが、ある孤児院ではとてもきたないひとりの孤児が先生にダッコを強要した。先生はニコニコ微笑をたたえながら監視員の制

止するのを軽くおさえられて、真白い麻の洋服の上にその孤児をダッコされて頬ずりをされた。並みいる子供たちからワーという歓声が起こった。私たち少数の日本人はのどを押さえて感激したものである。

またマニラやダバオのクラブの例会にしばしば出席されて、日本のクラブの現況を説明されるのはもちろん、将来の発展性を強調された。また同地のクラブのメンバーからのいろいろな相談にも気軽に答えられて、日比間の民間外交にも大変協力された。いつもそばにいる私はただただ頭の下がる思いでお手伝いさせていただいたが、先生は心身のすみずみまで、また生まれながらのライオニズムに徹せられた方で友愛と寛容の精神のかたまりのような方だった。

先生が亡くなられて早くも2年、私は先生が心残りであったであろうと思われるライオニズムのよりいっそうの高揚のために、微力ながら受け継いで行こうと決心している。それが先生への恩返しと思っている。



目黒区養護施設児童慰安会

式場隆三郎Lの追憶

式 場 聡

早いものでことしは父隆三郎の7年忌、東京クラブの20周年を迎える年となった。

ライオンズクラブと亡父との関係は、私はよく知らない。むしろ他のメンバーの方々がよくご存知なのではないかと思う。私の記憶では、父の親友であった石川欣一Lがマニクラブのスポンサーで1952年に東京クラブを結成して、その1カ月後に入会したと聞いていた。その後のクラブ活動については、ほとんど東大精神神経科の研究生活のために知る由もなかった。

しかしいつしか市川クラブが、伊東クラブが生まれ、病院のバラ園でライオンズのパーティが開かれるに及んで、私どもの家庭にもライオンズクラブが根をすえるようになったと思える。

この一事を通じてわかるように、父は自分の仕事を理解させ、協力させるためにはあらゆる犠牲を辞せず、相手の迷惑も転じて福となすような努力家であった。その反面、理解しようとしめない相手には眼もくれず、知らず知らずのうちに相手を自分のペースにまきこんでしまうという特技の持ち主でもあった。

また精神科医の特性とでもいえるのか、なにげなく不可能だと思える発想を実行にうつし、それを強引と思える方法でやりとげてきたが、その実際面ではかなり細部にわたって文献を集め、詳細な検討を加えた上での行動であって、けっして衝動的な行動はしない人であった。いろいろな仕事を次から次へと手掛け、一見関連のなさそうな仕事までも始め、

家人をあせんとさせることも少なくなかったが、いずれにせよ新しい仕事をすることに情熱を傾けていた。

しかしやはり芸術的なものに対する情熱が父の生きがいであったと私は信ずる。深夜帰宅した一刻を李朝の壺をめで、新着の画集をひもといてすごす毎日であった。旧友バーナード・リーチ氏や、浜田庄司氏らと夜を徹しての芸術論をたたかわせるときなどの生き生きした表情や、張りのある話し方は今も忘れられず、その方々の作品が身近にあるだけに私の最も敬愛できる父の姿であった。しかも書画骨董というけんらん豪華なものはきらい、粗野な民衆芸術を、絵画は地味な印象派の作品を愛していた。

私との医学的な対話もいつしか芸術論に発展し、作品の健康、不健康さなどという、私のような芸術に縁のうすい半可通をつかまえての議論に終わるのが常であった。

父の死後、私が頭を悩ましたひとつに墓をどうするかがあった。さんざん考えた末に、1961年に父が山下清とともに詣でたゴッホの墓を思い出し、父が精神科医として、また芸術愛好家として最も愛し、ライフ・ワークとして研究してきたゴッホの墓を模した墓石をつくったが、ともに詣でた山下清もこの8月に世を去ってしまった。

世に理解されない精神障害者たちのためにライオンズ精神を生かしてたたかった一生であったが、私もこの気持ちだけは忘れずに生きたいと念じている。

会 員 名 簿

(☆チャーターメンバー)

秋 尾 栄 (入会 1954年12月)	細 田 胖 入会 1960年6月	黒 田 斐 雄 入会 1970年2月
秋 元 時 一 郎 (入会 1959年11月)	本 間 利 章 入会 1956年2月	小 林 真 賛 雄 入会 1964年5月
葺 沢 大 義 (入会 1956年6月)	☆ 井 門 幸 男 入会 1952年3月	小 島 正 五 郎 入会 1958年3月
有 竹 隆 (入会 1965年4月)	飯 嶋 嶋 三 入会 1960年10月	小 宮 山 宇 一 入会 1969年3月
朝 吹 英 一 (入会 1965年1月)	池 田 幸 雄 入会 1955年8月	横 島 忠 三 入会 1954年1月
別 府 英 一 (入会 1957年1月)	池 崎 道 男 入会 1971年2月	万 代 政 治 郎 入会 1956年9月
土 井 一 良 (入会 1956年7月)	☆ 石 田 吉 男 入会 1952年3月	松 本 裕 入会 1960年2月
榎 山 幸 夫 (入会 1956年6月)	☆ 石 関 信 助 入会 1952年3月	松 波 鉄 治 入会 1964年8月
☆ 福 田 太 郎 入会 1952年3月 1960年5月再入	石 黒 長 治 入会 1965年3月	松 浦 弾 入会 1970年5月
福 岡 勇 入会 1956年1月	鍛 治 田 進 入会 1965年9月	前 田 正 男 入会 1960年4月
福 岡 陽 道 入会 1955年1月	金 子 達 一 入会 1960年1月	前 田 幸 蔵 入会 1963年3月
☆ 古 川 正 重 入会 1952年3月	金 子 為 雄 入会 1965年8月	牧 野 増 雄 入会 1965年3月
藤 川 敏 行 入会 1964年10月	金 沢 辰 次 郎 入会 1967年1月	三 厨 正 入会 1959年9月
藤 間 豊 (尾上 松 緑) 入会 1964年10月	加 藤 栄 治 入会 1956年1月	三 崎 友 一 入会 1956年1月
藤 井 寛 入会 1970年3月	川 辺 正 夫 入会 1969年3月	三 崎 矩 光 入会 1956年1月
☆ 浜 本 正 勝 入会 1952年3月	城 戸 尚 夫 入会 1954年5月大阪 1960年7月転入	光 野 健 之 助 入会 1955年2月
長 谷 川 万 治 入会 1956年3月	木 川 道 彦 入会 1971年2月	三 浦 文 次 郎 入会 1958年11月新潟C 1960年3月転入
長 谷 部 照 正 入会 1956年1月 1964年1月再入	北 岡 源 太 郎 入会 1960年10月	三 輪 義 明 入会 1954年8月名古屋C 1959年9月転入
原 田 慶 司 入会 1969年11月	倉 橋 泰 史 入会 1961年2月	森 卯 一 郎 入会 1955年4月
樋 口 梶 入会 1954年7月	熊 野 達 夫 入会 1956年5月	森 末 新 一 入会 1963年3月
広 谷 豊 蔵 入会 1971年11月	栗 田 正 夫 入会 1961年2月	森 田 宏 二 入会 1967年11月

守 田 俊 郎
(坂東三津五郎)
入会 1955年7月京都C
1962年10月転入

守 屋 俊 章
入会 1970年1月

持 田 信 夫
入会 1964年5月

森 岡 一 郎
入会 1966年2月

永 井 賢 城
入会 1956年1月

中 村 栄 一
入会 1955年9月福岡C
1956年10月転入

中 沢 彦 七
入会 1954年5月

☆ 中 根 麟 之 助
入会 1952年3月
1961年6月転入

中 川 馨
入会 1971年7月

中 山 理 々
入会 1962年10月

成 田 清 治
入会 1959年1月

西 林 長 太 郎
入会 1969年9月

新 野 晃 三
入会 1966年11月

小 笠 原 秀 郎
入会 1966年1月

☆ 大 原 久 之
入会 1952年3月

大 橋 保 男
入会 1953年4月大阪C
1957年9月転入

岡 村 武
入会 1952年11月

小 野 哲
入会 1954年11月

小 野 四 郎
入会 1955年3月

尾 関 進
入会 1970年5月

斉 藤 祐 義
入会 1956年1月

酒 井 忠 博
入会 1956年3月

迫 水 久 常
入会 1958年2月

鹿 士 源 太 郎
入会 1957年4月

式 場 聰
入会 1966年2月

島 原 健 一
入会 1959年1月

清 水 八 十 治
入会 1958年2月

新 堂 喜 作
入会 1957年8月

篠 木 達 夫
入会 1970年10月

☆ 塩 原 有
入会 1952年3月

白 川 国 三 郎
入会 1956年7月

菅 野 新 太 郎
入会 1965年10月

鈴 木 楯 一
入会 1954年7月

鈴 木 武
入会 1961年8月

武 見 太 郎
入会 1958年10月

竹 岡 稜 一
入会 1956年5月大阪C
1960年5月転入

田 中 勉
入会 1962年3月

竜 村 晋
入会 1956年1月

友 成 靖 一
入会 1954年7月

豊 田 治 助
入会 1953年4月大阪C
1957年3月転入

富 松 規 行
入会 1963年3月千葉C
1964年8月転入

滝 浦 潤
入会 1969年9月

殖 栗 文 夫
入会 1957年4月

上 田 常 隆
入会 1954年5月大阪C
1961年8月転入

浮 田 祐 二
入会 1963年12月

若 林 法 雄
入会 1953年4月大阪C
1963年4月転入

山 根 実
入会 1954年3月

山 口 利 吉
入会 1969年3月

横 山 祐 吉
入会 1963年4月

森 信 夫
入会 1971年9月

不在会員

守 随 乙 作
入会 1954年4月

八 木 治 郎
入会 1966年3月

国 際 役 員

国 際 理 事

石川 欣一 (1959年6月—1959年8月)
 迫水 久常 (1970年7月—1972年6月)

地区ガバナー

石川 欣一 大原 久之
 (1953—54) (1963—64)
 高橋 貞太郎 迫水 久常
 (1956—57) (1964—65)
 塩原 有 上田 常隆
 (1961—62) (1970—71)

大 会 一 覧

地 区 大 会

第1回 1955年5月 神 戸 302 地区大会
 第2回 1956年5月 大 阪 302 地区大会
 第3回 1957年5月 東 京 302 地区大会
 委員長三崎友一
 第4回 1958年4月 岡 山 302 地区大会
 第5回 1959年5月 京 都 302 地区大会
 第6回 1960年4月 新 潟 E 地区大会
 第7回 1961年4月 名古屋 E 地区大会
 第8回 1962年4月 東 京 10周年記念大会
 委員長小野 哲
 第9回 1963年4月 札 幌 E 1 合同大会
 E 3
 第10回 1964年4月 仙 台 E 1 合同大会
 E 4
 第11回 1965年4月 東 京 E 1 地区大会
 第12回 1966年4月 横 浜 E 1 合同大会
 E 5
 第13回 1967年5月 新 潟 E 1 合同大会
 E 7
 第14回 1968年4月 東 京 E 1 地区大会
 第15回 1969年4月 東 京 E 1 地区大会
 第16回 1970年4月 東 京 E 1 地区大会
 第17回 1971年4月 東 京 E 1 地区大会

複合地区大会

第10回 1964年6月 東 京 302複合地区大会
 委員長樋口 杲
 第11回 1965年6月 大 阪 302 複 合 地 区 会
 大
 第12回 1966年6月 名古屋 302 複 合 地 区 会
 大
 第13回 1967年6月 福 岡 302 複 合 地 区 会
 大
 第14回 1968年6月 札 幌 302 複 合 地 区 会
 大
 第15回 1969年5月 広 島 302 複 合 地 区 会
 大
 第16回 1970年6月 仙 台 302 複 合 地 区 会
 大
 第17回 1971年6月 静 岡 E 複合地区大会

子クラブ一覧

クラブ名		結成年月日	エクステンション 功 労 者
横	浜 C	1952年 8 月 6 日	
神	戸 C	1953年 2 月10日	塩原, 豊川
札	幌 C	1956年 2 月28日	(岡部)
函	館 C	1956年 9 月 3 日	森, 秋尾
青	森 C	1956年12月12日	守随, (菊地)
東 京 新 橋	C	1957年 1 月30日	守随, 石川
東 京 渋 谷	C	1957年 2 月 8 日	守随, 浜本
仙	台 C	1957年 4 月 5 日	(岡部)
東京日本橋	C	1957年 4 月12日	福岡(陽)
甲	府 C	1957年10月17日	石川, 小野(四)
東 京 芝	C	1958年 6 月26日	酒井
市	川 C	1961年 2 月 1 日	式場
川	口 C	1961年 5 月 8 日	秋尾, (美馬)
伊	東 C	1961年12月 5 日	式場, 酒井
日	立 C	1962年 1 月22日	酒井, (島村)
日	光 C	1963年 1 月26日	新堂, 酒井
千	葉 C	1963年 3 月28日	式場, (湯浅)
東 京 練 馬	C	1963年 3 月29日	酒井, (鈴木浩)
東京世田谷	C	1963年 3 月30日	酒井, 豊田

物故会員

田 辺 隆 (1953年11月10日) 45歳
立 上 秀 二 (1954年8月2日)
伊 沢 義 為 (1955年11月2日) 59歳
二 宮 新 (1957年10月11日) 73歳
田 中 茂 (1958年9月5日) 46歳
石 川 欣 一 (1959年8月4日) 64歳
武 内 亀之助 (1965年7月7日) 59歳
式 場 隆三郎 (1965年11月21日) 66歳
与 良 正 (1968年4月11日) 60歳

坂 本 正 (1969年3月3日) 60歳
安 田 金 吾 (1969年5月1日) 60歳
穴 沢 六 郎 (1969年9月10日) 69歳
永 野 護 (1970年1月3日) 79歳
宇 野 庄 治 (1970年2月3日) 66歳
高 橋 貞太郎 (1970年10月1日) 78歳
猿 渡 喜一郎 (1971年9月13日) 66歳
三 井 定 雄 (1972年2月23日) 66歳

祝 尾 栄 73.5.2
山口 利吉 73.7.25
福岡 芳 73.12.22
大橋 伴昌 74.1.18
田中 健 74.2.20

退 会 者

古川 緑波 (1952年6月)
松島 喜作 (7月)
山中 清三郎 (〃)
岡松 成太郎 (8月)
G.Krakower (9月)
吾妻 貞勝 (10月)
津末 京二 (〃)
G.B.Morgulis (11月)
J. S. Sykes (〃)
I. Szpiro (〃)
S. Haar (〃)
牧野 澄雄 (〃)
田中 弘之 (12月)
J. Tropp (〃)
友成 誠 (〃)
堂本 孝次 (〃)
近藤 幹 (〃)
南江 治郎 (〃)
W.F.Provost (〃)
L. Sarreal (〃)
清水Kazutaka (〃)
F.C.D. Rosa (1953年1月)
石田 博 (〃)
V.O. Cobarrubias (2月)
J. B. Bolano (3月)
H.N.Borger (〃)
A. Chuh (〃)
J. Farrell (〃)
伊集院郁三郎 (〃)

J.O.Rechter (1953年6月)
A. Shvets (〃)
R.L. Beddillion (10月)
A. Hatem (〃)
則武 東平 (1954年1月)
豊川 良之助 (〃)
津末 宗一 (〃)
安田 実 (3月)
山田 四郎 (〃)
J. M. Ferris (〃)
藤沢 伝 (8月)
宮田 重雄 (10月)
W. Nicholas (12月)
M. Houda (1955年5月)
牛山 清人 (7月)
星島 二郎 (10月)
鈴木 佐内 (〃)
前田 洋治 (〃)
横山 忠雄 (〃)
今村 栄吉 (1956年1月)
桜庭 政雄 (〃)
J.A. Gracewicz (〃)
新美 堅太郎 (2月)
間中 義三 (〃)
P.J. Demetros (3月)
高島 得之 (6月)
津久井七々雄 (〃)
野間 海造 (7月)
M. Chang (〃)

松本 敏夫 (1956年8月) 転籍
角 張 真輔 (10月)
山田 忍三 (11月)
青木 大吾 (12月)
窪寺 五雄 (〃)
江藤 巖 (1957年1月)
黒崎 城平 (〃)
伊藤 忠孝 (〃) 転籍
小林 利雄 (〃) 〃
笠井 朝義 (〃) 〃
勝田 雄次郎 (〃) 〃
三好 万寿雄 (〃) 〃
水野 弥三 (〃) 〃
水谷 巖 (〃) 〃
奥山 清平 (〃) 〃
西郷 徳男 (〃) 〃
高洲 湘二郎 (〃) 〃
竹崎 宇一 (〃) 〃
山川 隆雄 (〃) 〃
Keneth 安田 (2月)
池田 栄一 (〃) 転籍
剣持 勇 (〃) 〃
岡田 武雄 (〃) 〃
沢 勝蔵 (〃) 〃
塚本 憲甫 (〃) 〃
菅波 称平 (3月) 〃
市川 惣三郎 (〃)
安藤 清太郎 (4月) 転籍
福島 正雄 (〃) 〃
西野 政雄 (〃) 〃

亀井多計雄 (1957年4月) 転籍	宮内俊之 (1960年6月) 転籍	池田満 (1965年6月)
小谷虎次郎 (") "	神山真 (")	橋本博太郎 (")
工藤敏博 (") "	平岡弘男 (")	広部賢二 (")
細山武夫 (") "	高橋武雄 (8月)	岡田伍佐久 (7月)
佐藤信助 (5月)	吉田秀太郎 (1961年3月)	小林辰四郎 (10月)
斉見昌平 (6月)	吉田英夫 (6月)	下岡忠一 (11月)
松岡源之真 (8月)	G. Bruner (")	林信男 (12月) 転籍
Peter 岡田 (9月)	田口連三 (")	吉益敬一 (1966年1月) "
津田隆治 (")	藤本正雄 (")	乙部実 (4月)
岩田義雄 (10月)	内藤一男 (7月) 転籍	久邇邦昭 (5月)
桑原用二郎 (12月)	J. J. McSweeney (9月)	小林利助 (6月)
木村保 (")		末田萬有 (7月)
山岡重孝 (")	中川俊思 (")	古川義三 (12月)
日比野恒次 (1958年1月)	永野巖雄 (10月)	観世正司 (")
尾和吉次郎 (2月)	高橋威夫 (")	並河栄治郎 (1967年1月)
原田直治 (6月)	和田康宏 (1962年2月)	平野清 (3月)
小鴨鉄也 (")	叶善治郎 (")	小野達郎 (5月)
真殿益造 (7月)	今木万寿男 (4月)	長井貞義 (6月)
若菜三郎 (8月)	三枝正勝 (7月)	鈴木論一 (")
中西小一 (9月)	酒井直衛 (")	富永誠美 (")
松本勝司 (10月) 転籍	横山忠雄 (")	勝野基信 (")
原春吉 (11月) "	吉本武一 (1963年2月) 転籍	村山甚一 (9月)
小川道之助 (") "	武田透 (")	石川準吉 (10月)
仲田治 (") "	片倉亮平 (")	山内英麿 (11月)
笹村越郎 (") "	阪田一夫 (3月) 転籍	井垣薰 (1968年1月)
角田義雄 (12月)	門脇良教 (")	小山田泰彦 (4月)
秋根章 (1959年1月)	磯江道夫 (")	大堀弘 (")
別所鎮雄 (")	藤見太郎 (6月)	山田松之助 (6月)
笹村順造 (")	小松繁 (")	菊島奕仙 (")
橘英雄 (")	福田英雄 (")	武内平三郎 (7月)
井上宗大 (") 転籍	千田真清 (")	三輪田元也 (")
山浦利器衛 (3月)	窪田恭一郎 (9月) 転籍	山城承二 (")
福井近夫 (9月)	五味弘 (11月) "	山岡保之助 (10月)
本田勇男 (10月)	増茂昌夫 (")	数佐三郎 (")
株木正郎 (")	江口謙吉 (")	船橋要 (11月)
島崎千里 (")	高橋毅 (")	下山田政友 (1971年1月)
吉田正一 (12月)	松田秀一 (")	C. Boyd (3月)
田中治郎左衛門 (")	井上寿郎 (1964年1月)	山口季次 (6月) 転籍
佐野巖 (1960年1月)	菱刈隆文 (4月) 転籍	森本一三 (")
若林秀雄 (")	橋本三八 (10月) "	三好道矢 (")
小安哲史 (")	八十島親義 (12月)	安藤陣一 (8月)
谷口貞固 (3月)	越原襄 (1965年1月)	小竹永三 (11月)
小貫頼慶 (") 転籍	木下茂 (2月)	宮野武雄 (12月)
藤沢良雄 (6月) "	池田正久 (6月)	松任竹麿 (1972年1月)

例会音楽の発端

阪 田 一 夫

10年以上も前のことになりますが、ちょうど日本のライオンズが第1次発展、すなわち西部劇時代を過ぎて整備期にはいったころのことです。最初のライオンズ・ヒムに加えるに、古関裕而作曲の国産ライオンズの歌ができました。

ところがこの歌、節まわしがむずかしく、音楽教育を受けていないわれわれ大衆にはなかなか正調で歌えない。ついモニャモニャと歌うことになりまことに意気あがらずということでありました。そこでお師匠さんと呼ばれるという提案をしましたところ、いい出し兵衛が世話をしろということになり、家に帰って長女（当時芸大在学中）に相談したら、「私よりもっとものおじしない美人を連れて行って、自分は伴奏するが、どうか」というオファーあり、この河上さんというものおじしないお嬢さんと私の長女が相つとめろしわざとなりました。当時当人たちに聞いた

ところでは、「おじさまたちがよくいうことを聞いて、一生懸命に大きな口で歌ってくれるのでとても面白い、やりがいがある」と申しておりました。

その後河上さんは結婚されてミラノ在住だと聞きました。私の娘はドイツ政府の奨学金をもらい、芸大中退でハンブルグの音楽学校に3年半留学しました。出発するときにクラブから頂いた立派な織物で作ったドレスはドイツで人目をひき、大いに面目を施したとのことです。現在はシカゴに住んでおり、2女の母になり、歌の方はときどきテレビで日本の歌を歌ったり、日本人の養老院で歌の奉仕をしています。最近2カ月ほど帰国していましたが、あの1年半はとても楽しく、特に例会後に出たお昼ごはんを大変楽しみにしていたと申しておりました。

皆さん、その後歌は更に上達されたことでしょう。（元東京クラブ会員）



例会に歌とピアノを演奏する阪田、河上両嬢

ユニークな例会のナマ音楽

朝 吹 英 一

昭和40年の5月、私は30年来の楽友本間Lのご紹介によって入会させて頂いた。

時の幹事松本Lはじめ多くの方から親切に言葉をかけて頂いたものの、1、2の方を除いては知らない方、しかもお歴々ばかりの中に放り出されたようで大変心細く感じたが、私を慰めてくれたのは例会の初めと終わりに皆で歌を歌うこと、食事中にふたりの若い女性音楽を聞かせて下さることであった。

中でも「また会う日まで」は優美なうちにも一抹の哀愁をたたえた名品で、散会後覚えたてのこの歌を口ずさみながら、足取りも軽く帰路についたものだった。

あとで知ったことだが、例会にナマ音楽を使うことは東京クラブ独特のものだそうで、千葉さんの話では、昭和36年、時のメンバー阪田Lのお嬢さんが歌の人と一緒に来て下さったのが初めだそうである。

その後何回かのメンバー・チェンジがあり私の入会当時は今の島田祐子(旧姓遠藤)さんの歌と吉良郁子さんのピアノというコンビであった。

そして2年ほどたったころ、時あたかも明治百年に当たり、幹事の故坂本正Lなどの発議で「歌の明治百年」を歌ってもらおうということになり、及ばずながら私が構成と編曲を引き受けて「明治大正歌曲集」なるものを作り、ふたりのお嬢さんに私の鉄琴とにわか仕込みの大正琴も加えて、明治百年、すなわち42年3月の例会でこれを演奏し、大変好評を頂いた。その構成は次の通りである。

1. なつかしの明治歌曲

宮さん宮さん、大楠公、美しき天然、
鉄道唱歌

2. 思い出の明治軍歌

勇敢なる水兵、雪の進軍、婦人従軍歌、
戦友、軍艦マーチ

3. 夢の大正メロディー

真白き富士の嶺、カチューシャの唄、

ゴンドラの唄、靴が鳴る、コロケの唄

そして6月にはアンコールとしてもう1度演奏し、またその録音テープをご希望の方々にお分けした。

このよきコンビのおふたりも、昭和44年になって吉良さんの結婚と遠藤さんのウィーン留学のため8月限りで解消となり、後任として、私のピアノ伴奏者で当時上野学園大学の3年生だった福田富美さんとお友だちの声楽の山口晶子さんに来てもらうことになった。

私は、ライオンズの歌はたくさんあるが、私どもの東京クラブだけの歌もひとつぐらいあってもよいのではないかと、「東京ライオンズ・ワルツ」の作詞作曲を思い立った。

ちょうど帝国ホテルの豪華な新本館が落成し、新しい会場で例会がもたれたのを機に、山口さんと福田さんに演奏してもらってこれを披露した。

昭和45年春、歌の山口さんは家庭の事情で急に東京を去ることになり、困ったが、前年ウィーン留学より帰って喜歌劇「こうもり」や「メリー・ウィドウ」の主演として一躍楽壇のホープとなった島田さんに、昔のよしみでお願いしたところ、「都合のつく限り手伝ってもいい」と奉仕的に引き受けて下さったので一同非常に喜んでいる。

音楽担当者一覧表 (敬称略)

昭和36年7月より	P 阪田	V 河上
" 38年7月 "	P 遠藤	V 河上
" 39年9月 "	P 寺田	V 遠藤
" 40年7月 "	P 吉良	V 遠藤
" 44年9月 "	P 福田	V 山口
" 45年5月 "	P 福田	V 島田

(旧姓遠藤)

つどえライオンズ

小林辰四郎 作詩
福岡 陽道
古川正重補作
湯山 昭作曲

東京ライオンズワルツ

朝吹英一作詩・作曲



編曲「友を想う」

20周年記念会委員長 福岡 陽道

東京クラブ20周年記念のタペで初めて発表されたこの曲は朝吹英一Lが、特にライオンズ・ヒムを基調として、短音階に編曲した苦心の作である。従来黙禱時に奏せられた曲は、ショパンの葬送曲の数節であったが、今回追憶の曲として初めて演奏されたのを機会に、今後みなでなじみながら、クラブ独自のものにしたい。

「友を想う」の編曲に当たって

朝吹 英一

この度私は、東京クラブ20周年記念式典に当たり、過去20年間に惜しくも幽明境を異にせられた幾多の親愛なるライオンを偲び、そのご冥福を祈るための曲「友を想う」を編曲するの光栄に浴した。

そもこの曲の発案者は誰だろう。20周年記念会委員長の福岡陽道Lその人なのである。私に、今後の式典には黙禱の時にいつも使うショパンの葬送行進曲の代りに、ライオンズ・ヒムを短音階（悲しげな調子）に変えたものをやりたいと思うから編曲してくれないか、との依頼があった。

よく考えてみると、フューネラル・マーチは文字通りお葬式用の曲であり、何年も前に亡くなられた方々の追憶の曲としては必ずしも適当ではなく、ましてその代わりとして、私共がいつも唱和して、会員相互の心のつながりになっている歌を基調としたものをこれにあてるということは非常に意義深いことと思ったので、及ばずながらお引き受けしたような次第である。

普通簡単な曲なら、長調を短調にする場合は、音階のミとラをフラットにし、主和音と下屬和音（ドミソとドファラ）を短和音に変えればよいのだが、この曲はなかなかこって作ってあるので経過音（和声外の音）が多く単純に前記の法則を適用できない。しかし何とか作り上げて、ピアノの福田さんにひいてもらい、福田さんの意見もいれておかしいところを直し、福岡Lに聴いて頂いてご承認を得たものが今度の編曲である。



友を想う

発想 福岡陽道
編曲 朝吹英一



事務局変遷の経過

昭和27年3月21日にホテルテイトで東京クラブが発足したときの事務所は、中央区築地3の8建設工業会館の5階、東京マーカントイル株式会社内に置かれたが、6月末から、ライオンズを日本に誘致するに尽力して下さった旧大阪商船の社長でフィリピン友の会を主宰していた故村田省蔵氏の事務所（八重洲通りに面した、今はない大阪商船ビルの2階）に寄寓、机ひとつだけのわびしさであった。

ここにること約2カ年の後、昭和29年8月1日から、旧日活国際会館に診療所を持つ古川正重Lの千代田クリニックの待合室に移り、更に2カ月後、当時の会長高橋貞太郎Lの日本橋西川ビルの事務所内に移動した。ここで1カ年過ごした後、昭和30年8月に、クラブ前幹事福田太郎Lの東銀座の事務室内に移転した。いつも机ひとつだけの居候生活で事務用品なども満足にそろわない状態であった。

昭和31年1月から、当時の副会長福岡陽道Lの在職する国際観光会館の丸紅飯田の室内に移った。かくのごとく、ライオンズの草創時代の事務局はあたかも行雲流水のごとく安住の地さえない有様であった。

たまたま、日比賠償使節団長で、元運輸大臣永野護Lの肝いりで、日比谷通りのお濠に面した岸本ビルの4階に9坪の小部屋を獲得し、初めて独立した事務所を持つことができたのである。同年の7月24日に移転し、その後隣接の18坪の部屋に移ったが、それまで都内には東京クラブひとつだけで、昭和32年に新しく新橋、渋谷、日本橋クラブをエクステンションし、事務員を増し、地区事務局と合

同して、事務局らしい形態が整ったのである。

爾来日本におけるライオンズの発展はめざましく、都内においても毎月のように新クラブが結成され、事務室も手狭になって、向かいの別室をも使用せざるを得なくなった。

かくして、クラブの急速な増加に伴い、事務室の拡張と移転のことが緊急の問題となってきた。時あたかも、福岡勇Lが日本橋江戸橋に8階建てのビルを新築するというのを聞き、その3階80坪全部をライオンズで借りてはという話が持ち上がり、都内クラブの間で移転委員会が結成され、東京クラブの守随乙作Lが委員長となって交渉の結果、昭和38年11月に新装なった日米ブラインドビルに移転することになった。当時の都内クラブ数は33、¹事務員のお嬢さんも23名に達し、全東京事務局と命名され、事務所開設以来転々と苦労を重ねてきた千葉小枝子さんが事務局次長となって東京クラブを担当するかたわら、お嬢さんばかりの事務局を統率することになった。

昭和42年5月に、落成して間もない現在の本八重洲ビルの4階に移転したのであるが、広さも150坪で、都内クラブ数106、事務員総数58名で、名実ともに国際クラブの事務所としての体裁を整えるに至った。

今日の日本ライオンズの発展にかんがみ、旧大阪商船ビル内のフィリピン友の会に寄寓していた往時を回顧するに、うたた今昔の感にたえない。と同時に東京クラブとともに長い間転々と移動し、誠実に事務を処理してきた千葉小枝子さんの労をたたえたい。（編集委員 T.H.）

編集後記

10周年に何も作らなかつたので、古い資料が散逸しないうちに、こんど二十年史を編輯することになった。できるだけ記録本位に、なるべくメンバーの多くに執筆してもらうとともに、決められた予算の範囲内でまとめることに苦心した。幸い事務局の千葉さんの手元に古い記録が整然と保存されてあつたので大いに助かった。

歴代の会長に在任当時の回顧を執筆してもらったが、すでに他界された会長や、支障ある人のためには幹事に代筆してもらい、また亡くなられた先輩ライオンの思い出を、故人と親交深かつた人々に寄稿してもらった。表紙の文字は国際理事迫水久常Lにお願いした。試みに会員の平均年令を調べたら60歳であった。東京Cの若がえりが切望される。編集および上梓は豊田治助Lおよびライオン誌日本語版事務所の各位の協力による。

東京ライオンズクラブ二十年史

発行日 1972年 3月21日

発行人 東京ライオンズクラブ
会長 福岡 勇

編集人 二十年史編集者 樋口 杲

印刷所 株式会社 中外海事新報社